

日本医療大学年報

第 3 号

2017年



日本医療大学

目 次

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

- 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性…………… 1
- 1-1-② 簡潔な文章化…………… 1
- 1-1-③ 個性・特色の明示…………… 1
- 1-1-④ 変化への対応…………… 2

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

- 1-2-① 役員、教職員の理解と支持…………… 2
- 1-2-② 学内外への周知…………… 2
- 1-2-③ 中長期的な計画への反映…………… 2
- 1-2-④ 三つのポリシーへの反映…………… 2
- 1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性…………… 5

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

- 2-1-① 教育目的を踏まえたアドミSSION・ポリシーの策定と周知…………… 5
- 2-1-② アドミSSION・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証…………… 5
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持…………… 8

2-2. 学修支援

- 2-2-① 教員と職員等の共同をはじめとする学修支援体制の整備…………… 8
- 2-2-② TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実 …… 9

2-3. キャリア支援

- 2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備……………10

2-4. 学生サービス

- 2-4-① 学生生活の安定のための支援……………14

2-5. 学修環境の整備

- 2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理……………19
- 2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用……………20
- 2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性……………22
- 2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理……………22

2-6. 学生の意見・要望への対応

- 2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用……………23
- 2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用……………23
- 2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用……………25

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

- 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知……………27
- 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定規準、進級基準、卒業認定規準、修了認定規準等の策定と周知……………27
- 3-1-③ 単位認定規準、進級規準、卒業認定規準、修了認定規準等の厳正な適用 ……28

3-2. 教育課程及び教授方法

- 3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知……………28
- 3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性……………29
- 3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成……………29
- 3-2-④ 教養教育の実施……………30
- 3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施……………30

3-3. 学修成果の点検・評価

- 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 ……30
- 3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善に向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック……………30

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能性

- 4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮……………31
- 4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築……………31
- 4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能……………32

4-2. 教員の配置・職能開発等

- 4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置……………33
- 4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施……………34

4-3. 職員の研修

- 4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み……………35

4-4. 研究支援

- 4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理……………35
- 4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用……………35
- 4-4-③ 研究活動への資源の配分……………36

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-①	経営の規律と誠実性の維持	37
5-1-②	使命・目的の実現への継続的努力	37
5-1-③	環境保全、人権、安全への配慮	37
5-2.	理事会の機能	
5-2-①	使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性	38
5-3.	管理運営の円滑化と相互チェック	
5-3-①	法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化	39
5-3-②	法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性	39
5-4.	財務基盤と収支	
5-4-①	中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立	40
5-4-②	安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保	40
5-5.	会計	
5-5-①	会計処理の適正な実施	50
5-5-②	会計監査の体制整備と厳正な実施	50
6.	内部質保証	
6-1.	内部質保証の組織体制	
6-1-①	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	50
6-2.	内部質保証のための自己点検・評価	
6-2-①	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	50
6-2-②	IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析	50
6-3.	内部質保証の機能性	
6-3-①	内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性	51
7.	大学が独自に設定した基準による自己評価	
7-1.	認知症研究所	51
7-2.	教員の自己点検・評価	52
8.	社会貢献	62
9.	顕彰	62
10.	委員会等活動報告	67
11.	教員の自己点検・評価	
11-1.	教員の教育・研究・社会活動	
11-1-①	総長・学長・参事	82
11-1-②	看護学科教員	83
11-1-③	リハビリテーション学科教員	98

11-1-④ 診療放射線学科教員	106
11-2. 教員の学術業績	
11-2-① 総長・学長・参事	110
11-2-② 看護学科教員	112
11-2-③ リハビリテーション学科教員	115
11-2-④ 診療放射線学科教員	119
編集後記	123

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

日本医療大学の建学の精神は、「ヒューマニティ（人間尊重・人間愛）に育まれる『人間力』」として進んできたが、先般これを見直し、より広い概念である「共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～」と定め、基本理念を「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」として、従前の建学の精神を活かしている。

本学の目的について、学則第1条で「本学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と明文化している。

この「建学の精神」及び「基本理念」を実現するため、以下の五つの教育理念を設定している。

1. 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む
2. 「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する
3. 「確かな専門知識・技術を習得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する
4. 「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る
5. 「問題解決能力を身につけよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する

これらによって、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します」としている。

1-1-② 簡潔な文章化

建学の精神、基本理念、教育理念は、簡潔に文章化され、『CAMPUS HAND BOOK』、「大学案内」、大学ホームページで公表している。

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の目的は学則第1条に定められているところであり、学部・学科の教育上の目的として学則第6条第2項に「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域医療に貢献する医療人を育成する」と定め、特色を明らかにしている。

1-1-④ 変化への対応

本学は、平成26年4月に開学した大学であり、初年度は保健医療学部看護学科を開設した。翌平成27年4月にはリハビリテーション学科を開設し、さらに平成28年4月には診療放射線学科を開設して医療・福祉の現場を担う人材の養成に努めている。このように開学当初から養成する人材が幅広くなったこと、社会の高齢化などの変化を踏まえ、建学の精神も見直したところである。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

本学の使命、目的、教育目的については、理事長が、理事会、執行役員会、事務局連絡会などの会議の場、また、教職員を対象とした方針説明会における講演や新規採用教職員への講話などの機会に取り上げている。また、本学の理事である学長が、運営協議会、教授会において徹底している。さらに、理事である事務局長が、事務局の職員に対して日頃から機会を捉えて周知を徹底している。

1-2-② 学内外への周知

本学の使命、目的、教育目的を学内外に周知するため、学内会議の機会を活用することはもとより、本学ホームページに掲載し、『CAMPUS HAND BOOK』に明記して学生、教職員に配布し、新入生オリエンテーションの機会に説明している。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

本学は、平成26年4月に開学した新しい大学で、学年進行中である。完成年度以降の計画については今後検討を開始することとしている。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

本学の建学の精神及び学則に明記した目的をもとに、大学全体のアドミッション・ポリシーを「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していける学生を求めている。養成する人材が卒業後に札幌地域のみではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」としている。すなわち、将来医療や福祉の現場で実践者となり、地域医療やへき地医療に貢献する気概のある学生を求めているところであり、これを具現化するため、各学科においてそれぞれ三つのポリシーを定めている。

1) 看護学科

アドミッション・ポリシー

1. 学修の基礎的な能力を持ち、本学での学修に意欲を持つ人
2. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人

3. 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4. 人に関心を持ち、豊かな人間性とあたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人

カリキュラム・ポリシー

1. 人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成
3. 科学的思考を基盤とした看護実践能力の育成
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力の育成

ディプロマ・ポリシー

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. 看護の対象となる人を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションをととして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、看護を実践する能力
6. エビデンスに基づいた看護ケアを安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

2) リハビリテーション学科

アドミッション・ポリシー

1. リハビリテーションチームの一員として他者との連携・協調を保てる人
2. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
3. 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやり遂げる人

理学療法学専攻は以下を加える。

1. 理学療法士になる意志が強く、必要な情報を自ら集めている人
2. 支援を必要とする人に積極的に関わることができる人
3. ヒトの運動や動作のメカニズムに関心を持っている人

作業療法学専攻は以下を加える。

1. 作業療法に関心があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、行動できる人
2. 「気配り、目配り、思いやり」を持って人との関わりを大切にできる人
3. 専門的な視点から、生活支援が必要な人を支えたいと思う人

カリキュラム・ポリシー

1. 人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成
3. 科学的思考を基盤とした実践能力の育成

4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成
5. 問題解決に向けた科学的思考能力、主体的学修能力の育成

ディプロマ・ポリシー

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. リハビリテーションの対象者を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、理学療法・作業療法を実践する能力
6. エビデンスに基づいた理学療法・作業療法を安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

3) 診療放射線学科

アドミッション・ポリシー

1. 目的のため、本学で学修することに意欲と熱意を持っている人
2. 基本的生活態度の基、他者と思いやりを持ってコミュニケーションができる人
3. 遭遇する様々な課題に対して、主体的に取り組み、最後までやりとげる人
4. 放射線診療の専門的な内容に関心を持ち、学ぶ意欲を持っている人
5. 画像処理などの新しい技術について、探究心や想像力を持って自ら学ぶ意欲のある人
6. 人の命を尊ぶ心を持って他者と接する事ができる人

カリキュラム・ポリシー

1. 人類の文化や社会、自然に関する知識の理解と知的活動の面でも、職業生活や社会生活の面でも必要となる汎用的な技能を養う
2. 体系的な専門知識と技能に基づく適切な判断力と行動力を培うとともに、これらを基盤とした診療放射線技師の人間力を養う
3. 生命尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観を備え、的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う
4. チームとしての医療の一員として、他の医療技術者と協調・協働して責任を果たし、医療安全の確保に貢献できる能力を養う
5. 医療技術の進歩に柔軟に対応することができる基本的資質と、生涯を通して継続的に自己研鑽できる能力を養う
6. 主体的かつ創造的に課題への探求に取り組み、解決するための力と学問の向上に寄与し得る基礎的な研究能力を養う

ディプロマ・ポリシー

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力

3. 放射線診療の受診者を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、放射線の診断分野と治療分野を実践する能力
6. エビデンスに基づいた放射線の診断分野と治療分野を安全に提供する能力
7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学は、平成26年4月に開学した大学であり、学年進行中の学科もあるが、目的を達成するために必要な教育課程の編成、教育研究組織の充実を図っている。

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミSSION・ポリシーの策定と周知

本学の入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）は、「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していける学生を求めている。養成する人材が卒業後に札幌地域のみに貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できる逞しい人材を募集します」である。すなわち、卒業後は、医療や福祉の現場でリーダーシップを担う人材となり、地域医療やへき地医療に貢献できる気概のある学生を求めている。

看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科の入学者受け入れ方針については、1-2-④（pp. 2-5）に記載しており、ホームページや大学案内、学生募集要項によって、高校生、保護者、高校教諭等に幅広く周知を図っている。

2-1-② アドミSSION・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針については、前述の方法のほか、本学が開催するオープンキャンパス、キャンパスツアー、一日体験入学、高大接続を意識した高校単位の体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて入学者受け入れを積極的に行っている。

特に、高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内約85%の高校をカバーしている。1期（6月から9月）、2期（11月から12月）、3期（2月）と定期的に行い、1期目は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2期目は「推薦入試出願の誘導」、3期目は「一般入試とセンター利用入試の出願誘導」と位置付けている。また、札幌近郊の高校を中心に、臨時訪問を2回実施し、約100校の追加訪問も実施した。

また、平成29年度からは、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）及び推薦入試（後期）

を導入し、入試区分を大幅に増やした結果、表2-1-②-aから表2-1-②-dのとおり、志願者・出願者・合格者が大幅増となった。

平成30年度 入試区分別（志願者・受験者・合格者・入学者）状況

表2-1-②-a 看護学科

入試区分	推薦入試		一般入試		大学入試センター 試験利用入試		合計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
定 員 (人)	25	5	35	10	3	2	80
志 願 者 (人)	22	18	171 (194)	20 (23)	89 (111)	7 (9)	327 (377)
受 験 者 (人)	22	18	165 (186)	14 (15)	89 (111)	7 (9)	315 (361)
合 格 者 (人)	21	16	126 (143)	2 (2)	57 (67)	2 (4)	224 (253)
入 学 者 (人)	21	16	50	2	2	0	91
志 願 倍 率 (倍)	0.9	3.6	4.9 (5.5)	2.0 (2.3)	29.7 (37.0)	3.5 (4.5)	4.1 (4.7)
受 験 倍 率 (倍)	0.9	3.6	4.7 (5.3)	1.4 (1.5)	29.7 (37.0)	3.5 (4.5)	3.9 (4.5)
実 質 倍 率 (倍)	1.0	1.1	1.3 (1.3)	7.0 (7.5)	1.6 (1.7)	3.5 (2.3)	1.4 (1.4)

※（ ）内は併願数

表2-1-②-b リハビリテーション学科 作業療法学専攻

入試区分	AO入試	推薦入試		一般入試		大学入試センター 試験利用入試		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
定 員 (人)	6	10	4	14	2	2	2	40
志 願 者 (人)	11	5	2	11 (80)	2 (8)	18 (70)	1 (4)	50 (180)
受 験 者 (人)	11	5	2	11 (77)	1 (4)	18 (70)	1 (4)	49 (173)
合 格 者 (人)	12	5	2	11 (73)	1 (3)	17 (63)	1 (4)	49 (162)
入 学 者 (人)	12	5	1	5	1	0	1	25
志 願 倍 率 (倍)	1.8	0.5	0.5	0.8 (5.7)	1.0 (4.0)	9.0 (35.0)	0.5 (2.0)	1.3 (4.5)
受 験 倍 率 (倍)	1.8	0.5	0.5	0.8 (5.5)	0.5 (2.0)	9.0 (35.0)	0.5 (2.0)	1.2 (4.3)
実 質 倍 率 (倍)	0.9	1.0	1.0	1.0 (1.1)	1.0 (1.3)	1.1 (1.1)	1.0 (1.0)	1.0 (1.1)

※（ ）内は併願数

表 2 - 1 - ② - c リハビリテーション学科 理学療法学専攻

入試区分	AO入試	推薦入試		一般入試		大学入試センター 試験利用入試		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
定 員 (人)	6	10	4	14	2	2	2	40
志 願 者 (人)	17	6	2	43 (102)	4 (8)	37 (83)	2 (4)	111 (222)
受 験 者 (人)	17	6	2	43 (99)	2 (4)	37 (83)	2 (4)	109 (215)
合 格 者 (人)	16	6	2	37 (83)	2 (3)	20 (51)	2 (4)	85 (165)
入 学 者 (人)	16	6	2	14	3	1	1	43
志 願 倍 率 (倍)	2.8	0.6	0.5	3.1 (7.3)	2.0 (4.0)	18.5 (41.5)	1.0 (2.0)	2.8 (5.6)
受 験 倍 率 (倍)	2.8	0.6	0.5	3.1 (7.1)	1.0 (2.0)	18.5 (41.5)	1.0 (2.0)	2.7 (5.4)
実 質 倍 率 (倍)	1.1	1.0	1.0	1.2 (1.2)	1.0 (1.3)	1.9 (1.6)	1.0 (1.0)	1.3 (1.3)

※ () 内は併願数

表 2 - 1 - ② - d 診療放射線学科

入試区分	推薦入試		一般入試		大学入試センター 試験利用入試		合計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
定 員 (人)	20	5	16	5	2	2	50
志 願 者 (人)	27	1	59 (91)	5 (6)	54 (74)	2 (3)	148 (202)
受 験 者 (人)	27	1	56 (88)	3 (3)	54 (65)	2 (3)	143 (187)
合 格 者 (人)	26	1	43 (67)	0 (0)	22 (24)	1 (1)	93 (119)
入 学 者 (人)	26	1	31	0	0	0	58
志 願 倍 率 (倍)	1.4	0.2	3.7 (5.7)	1.0 (1.2)	27.0 (37.0)	1.0 (1.5)	3.0 (4.0)
受 験 倍 率 (倍)	1.4	0.2	3.5 (5.5)	0.6 (0.6)	27.0 (32.5)	1.0 (1.5)	2.9 (3.7)
実 質 倍 率 (倍)	1.0	1.0	1.3 (1.3)	0.0 (0.0)	2.5 (2.7)	2.0 (3.0)	1.5 (1.6)

※ () 内は併願数

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

看護学科の入学定員は80人であり、平成30年度入試は、推薦入試（前期）[定員25人]、推薦入試（後期）[定員5人]、一般入試（前期）[定員35人]、一般入試（後期）[定員10人]、大学入試センター試験利用入試（前期）[定員3人]、大学入試センター試験利用入試（後期）[定員2人]の6区分で行われた。平成30年度入学試験においては、入学者91人となった（表2-1-②-a）。

リハビリテーション学科の入学定員は、作業療法学専攻・理学療法学専攻ともに40人であり、平成30年度入試は両専攻とも、AO入試[定員6人]、推薦入試（前期）[定員10人]、推薦入試（後期）[定員4人]、一般入試（前期）[定員14人]、一般入試（後期）[定員2人]、大学入試センター試験利用入試（前期）[定員2人]、大学入試センター試験利用入試（後期）[定員2人]の7区分で行われた。平成30年度入学試験においては、作業療法学専攻25人、理学療法学専攻43人合せて入学者68人となった（表2-1-②-b・表2-1-②-c）。

診療放射線学科の入学定員は50人であり、平成30年度入試は、推薦入試（前期）[定員20人]、推薦入試（後期）[定員5人]、一般入試（前期）[定員16人]、一般入試（後期）[定員5人]、大学入試センター試験利用入試（前期）[定員2人]、大学入試センター試験利用入試（後期）[定員2人]の6区分で行われた。平成30年度入学試験においては、入学者58人となった（表2-1-②-d）。

最終的に、平成30年度入試3学科合計の入学者は217人となった。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の共同をはじめとする学修支援体制の整備

3学科の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）については、1-2-④（pp. 2-5）に記載されているのでこの項では、割愛する。各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

教員と職員等の共同をはじめとする学修支援体制においては、学生に対する周知を教務委員会で検討と教職員への周知、各学科長・各学科の学生担当教員（以下、学担と略す）における学生の個別対応などを連携して進めている。また、大学勤務の事務経験者が他校と比較し少なく、大学の教育に関する研修等を取り入れて、大学教育の向上を目指している。

学内の各種委員会の構成員には、教員とともに事務職員を加え、学生の持つ学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、AO入試及び推薦入試合格者に対して本学教員による入学前教育を行っている。課題は、平成29年度入学生も推薦図書についてのブックレポートであった。

新入生オリエンテーションは、入学式後2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション（履修登録・大学生の学修に関すること、大学生活に関すること、図書室や相談室などの利用方法など）を実施している。更に、学担は、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、日本医療大学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応するよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは教務委員会が作成した

『学修ハンドブック』を配布し、アカデミック・スキルについて導入を図っている。

在学生については、在校生ガイダンスを前期始業日に実施し、新学年での心構えと注意事項を指導している。また、キャリア学修支援センターと連携し、日々の学習と国家試験対策に向けた全国模擬試験などで学習の動機づけをしながら支援している。

各学科や専攻に学担を複数名配置し、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている（表2-2-①-a）。リハビリテーション学科では、更にチューター制度を導入し、教員と学生、クラスメート、先輩と後輩との絆を強化し、有意義な学生生活の実現に努めている。教務委員会では、各教員のオフィスアワーを学生に周知している。学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」「学生委員会」「図書・学術振興委員会」「キャリア学修支援センター」であり、年度活動状況については、各委員会報告に記載する。

平成29年度の異動の実態について、各学科において退学者、休学者は数人であった。退学理由については、進路変更が多い。教務委員会において学担や学科長からの説明を受け、教務委員会で承認後、教授会で報告し、最終的に承認されている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学中の支援を行っている。

表2-2-①-a 学生担当教員

平成29年度		
看護学科	1年A	○林美枝子、滋野和恵
	1年B	○草薙美穂、斉藤リカ
	2年A	○森口眞衣、藤長すが子
	2年B	○畑瀬智恵美、大村郁子
	3年	○並川聖子、福島眞里
	4年	○小山満子、高儀郁美
リハビリテーション学科	1年理学療法学専攻	○西山徹、木原由里子
	1年作業療法学専攻	○岸上博俊
	2年理学療法学専攻	○向井康詞、矢口智恵
	2年作業療法学専攻	○八田達夫、合田央志
	3年理学療法学専攻	○高橋光彦、石橋晃仁
	3年作業療法学専攻	○大堀具視
診療放射線学科	1年	○杉本芳則、小山和也
	2年	○木村徹、河原田泰尋

2-2-② TA（Teaching Assistant）等の活用をはじめとする学修支援の充実

TAに関して、本学は大学院を設置しておらず、院生や学部生を活用するシステムなどの取り組みなどもない。TAについては今後の課題である。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

1. キャリア学修支援センター

本学は看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科からなる。医療専門職の育成を使命としている点では3学科とも同様である。しかし、医療専門職として学ぶべき内容は異なる部分も多く、3学科それぞれが特色あるキャリア支援を行っている。平成29年度現在、看護学科は開設4年目となり、3月に1期生を卒業させる。リハビリテーション学科は開設3年目となり、平成30年度に1期生を卒業させる。診療放射線学科は開設2年目であり、平成31年度に1期生を卒業させる。

キャリア学修支援センターは開学当初からあった就職・進路対策委員会を充実発展させたもので、平成29年4月に発足した。当センターは「日本医療大学キャリア学修支援センター規程」に則り、他の学内委員会及び担任と連携して、キャリア教育、国家試験対策、及びリメディアル教育のための支援体制を構築している。

入学当初より初年次教育を実施し、専門職にふさわしい生活態度や学習習慣を身に付ける取り組みを行っている。平成30年度からは入学時に当センターで作成した「自己診断テスト」を行う予定である。学生の基礎学力を把握し、教職員で共有し、必要に応じて学習指導及び数学の基礎講座へとつなげる予定である。また、学内外の教育課程の進行に応じて、就職ガイダンスの開催と同時に学生一人一人の進路の希望を把握するために就職希望調査を実施している。さらに主体的に進路を決められるように社会人・職業人として自立を促すキャリア教育を行っている。就職・進学に対する相談についても当センター及び学担当が相談窓口となり、支援・助言を行っている。

教育課程外で当センターが実施しているキャリア教育としては、各種就職対策講座（「履歴書の書き方」「マナー講座」「小論文の書き方」「面接指導」など）の開講や就職ガイダンスの開催、「就職ガイドブック」の配布があり、就職と進路選択への動機付けや社会人・職業人として必要な知識と礼節を学ぶ機会を設けている。当センター室に常駐している専門員は学生に対して就職相談や模擬面接などの実践的支援を実施し、社会的・職業的自立の発達を促している。入学式における保護者説明会、新入生オリエンテーション、2～4年生対象の在学生オリエンテーション、年1回の保護者懇談会などで、本学のキャリア教育、当センターの案内を行い、保護者の理解と支援を促している。

また、就職説明会（看護学科）を開催してきた。平成29（2017）年度の看護学科の求人件数は北海道内117件（1,624人）、北海道外145件（7,360人）である。リハビリテーション学科は平成30（2018）年度は約100病院ほどの参加を見込む就職説明会を開催する予定である。就職説明会は求人件数の増加と病院等との連携強化を図ることも目的とする。

国家試験の資格取得に対する支援は当センターが中心となり、以下の内容で実施する（予定を含む）。きめ細やかな教育・指導体制の構築を目指している。

- ・当センター教員と専門員及び担任による相談サポート体制の強化
- ・国家試験対策講座と国家試験模擬試験の企画・実施（看護学科）
- ・教員と連携した専門員によるグループ学習と個人学習の企画・実施

- ・自己学習の効果向上を図るため図書館の開館時間延長、自習室の開放、国家試験対策関係資料の充実
- ・学修進達度を測るための2～3年次学修進達度テストの作成・実施（リハビリテーション学科）
- ・専門員による問題集等国家試験対策資料及び模擬試験の作成・実施（リハビリテーション学科）

2. 各学科の取り組み

1) 看護学科

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を育成するために、看護師としての科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践能力の向上を図っている。看護学科では、2年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は看護実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。学年ごとの臨床実習は表2-3-aの通りである。4年次の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多重課題に取り組む実習であるので、改めてのインターンシップ制度は設けていない。

表2-3-①-a 看護学科臨地実習計画

年次 \ 時期	前期	後期
2年次	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ
3年次		成人看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅰ 精神看護学実習
4年次	成人看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 在宅看護学実習 統合実習	

このようなカリキュラムをふまえ、キャリアサポートを計画実施している。2年次には「実習前マナー講座」、3年次には「インターンシップマナー講座」「実習前準備講座」「履歴書・小論文対策講座」、4年次には「面接試験対策講座」を行っている。このプロセスで学生は、目標に向けて自己の課題を明確にし、看護学実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。4年次は、より具体的な就職・進学活動をサポートし、学生が目指す看護が実践できる就職や進学の実現を図ってきた。また、病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、キャリア学修支援センター室に専用コーナーを設けて資料を整理している。第1期生は就職及び進学希望者67名全員が就職または進学した。内訳は、大学病院9名、国公立・公的病院20名、民間病院37名、また一般企業1名、大学院進学2名であった。道内の就職は54名、道外の就職は13名であっ

た。国家試験は69人中、68人が合格した。98.6%の高い合格率であった。

今年度から看護師国家試験の出題基準が変更となり、新しい項目の出題や各領域にまたがる臨地での判断能力を問う思考型の問題が多く出題された。看護師として就業した際に求められる能力が国家試験で確実に問われている。従って、4年間のカリキュラムにおいて考える力や判断力を養う教育のさらなる充実を図り、効果的な試験対策を実施していく必要がある。以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア支援を行っている。

2) リハビリテーション学科

リハビリテーション学科は理学療法学専攻及び作業療法学専攻の1学科2専攻という構成である。ほとんどが理学療法士及び作業療法士として活躍することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成することを目的としている。科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践の向上を図っているが、そのためにキャリア支援を行っている。

本学にはインターンシップという制度は無いがそれに代わる制度として2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり同時にキャリア教育の役割を果たしている。学年ごとの臨床実習は表2-3-①-bの通りである。臨床実習は、臨床実習指導者と教員との密接な連携の下に進めている。

表2-3-①-b リハビリテーション学科学年別臨床実習

年次 \ 時期	前期	後期
2年次		臨床実習Ⅰ
3年次		臨床実習Ⅱ
4年次	臨床実習Ⅲ	

就職指導についてはキャリア学修支援センターが中心となり就職ガイドブックを用いてガイダンスを行っている。興味のある病院や施設等の説明を聞き、疑問点を解決したうえで希望する施設への就職活動ができるよう、リハビリテーション学科においては平成30(2018)年度には理学療法学専攻及び作業療法学専攻合同の約100施設の参加を予定する就職説明会を開催する予定である。学生が就職活動を行う前にキャリア学修支援センター専門員が窓口となり相談を受ける。その際、各専攻の学担が随時窓口となり学生から相談内容を聞き取り、病院の事情に詳しい教員に相談できるような支援体制をとっており、適切に指導が行われる。求人票等の就職に関する資料については、学生が自由に閲覧できるようにしている。就職試験前には、学生に面接や小論文などの指導を実施

する。

リハビリテーション学科には専門学校時代の高い国家試験合格実績（平成29年度PT100%、OT93%）をもった専門員が配置される予定である。当センターではその経験を活かした国家試験対策を行う。第1期生には問題集等の国家試験対策資料及び模擬試験を作成する予定である。これらに基づき、丁寧できめの細かいグループ・個別学習支援を行う。以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア支援を行っている。

3) 診療放射線学科

診療放射線学科の学生はほとんど、診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の習得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成することを目的としている。科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためにキャリア支援を行う。

リメディアル教育として、1年次に数学及び物理学の補講を実施している。数学及び物理は学生個々の学力に合わせた講義内容としている。また、情報科学分野は高校により教育内容に差が大きく、これを解消する目的で補講を行っている。

本学にはインターンシップという制度は無いがそれに代わる制度として3年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。平成30年度より臨床実習が始まる。臨床実習は臨床現場における教育であり同時にキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習前にはマナー研修を実施する予定である。学年ごとの臨床実習は表2-3-①-cの通りである。臨床実習は、臨床実習指導者と教員との密接な連携の下に進めている。

表2-3-①-c 診療放射線科学年別臨床実習

年次 \ 時期	前期	後期
3年次		臨床実習Ⅰ
4年次		臨床実習Ⅱ

第1種第2種放射線取扱主任者（国家資格）の資格取得にも積極的に取り組んでいる。1年次から3年次まで各学年の学力に合わせた受験対策講義を実施している。国家試験対策として模擬試験の実施とキャリア教育を行っている。医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、学年進行に合わせて、丁寧なキャリアガイダンスを行っている。

3. 改善・向上方策（将来計画）

看護学科第1期生については、キャリア学修支援センターと学科の連携体制により就職率は100%を達成した。同様に、国家試験にも98.6%の高い合格率を達成した。今後も続くリハビリテーション学科、診療放射線学科においても就職率及び国家試験合格率も100%を目指していく。

今後、学生に様々な病院・施設の採用状況や就職情報を提供し、さらに各種就職対策講座や資格取得を得るためのキャリアアップ講座などを開講し、働く意識を高めるとともに専門職である個としての自立を促す。さらにキャリア支援の向上をはかるために、学生の就職先アンケートの実施なども必要となる。教職員はキャリア教育が単なる就職支援や国家試験対策ではないことを再確認し、高度な医療専門職として社会で活躍する力を涵養するための研鑽を図っていく。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

本学における学生生活の支援窓口は、主に学生委員会が担っている。学生委員会では、（1）通常業務としてキャンパスの安心・安全に関する事項、環境整備や学生生活に関する種々の情報提供と情報発信、学生の健康、メンタル・ヘルスの保全等がある。また、（2）学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）の実施、（3）学友会及び学内団体の支援、（4）学生の賞罰に関する事項、奨学金に関する事項を実施している。

そのための学生委員会と学友会の組織は下図のようになっている。



図2-4-① 組織図

以下、平成29年度の実施の詳細を説明する。

1. 通常業務

1) キャンパスの安心・安全に関する事項

キャンパス内外で学生が事故等にあった場合、保険適用の可否や、適用される場合の手続きなどを指導する。また遺失物対応や犯罪の発生に関しても対応を練り、再発生等を防ぐための注意喚起や対応のシステムの構築を行う。今年度は特筆すべき犯罪等の被害・加害の報告はなかったが、学

生が乗ったスクールバスに乗用車が衝突するという交通事故が1件発生し、被害学生の事故処理に関する支援を行った。また本学では学生に提携可能な「災害時行動マニュアル」を平成24年から作成・配布し、5月の最終週には全学で防災訓練を実施している。昨年度からは札幌市との間に「福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定書」を交わし、学生ボランティアの登録を実施した。また、希望する学生を毎年札幌市民防災センターの見学に引率し、防災意識の向上に努めている。

2) 環境整備

学生の環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）を、年間を通して整備している。学生ボランティアとともに、年度最初のオープンキャンパスに向けて、真栄キャンパスの玄関前にプランターに花を植え、WELCOMEの文字を今年度も作成した。また教職員の読み終わった図書を寄付してもらい、学生が自由に学外に持ち出すことができ、貸出期限のない自由文庫を各キャンパスの共有スペースに設置・管理しているが、今年度は新たに3か所目の自由文庫を診療放射線棟の4階ラウンジに設置した。またバスの利便性を高めるためのバス会社との交渉や、国家試験の勉強で遅い時間帯まで学習している学生のために、近隣の地下鉄までの夜間マイクロバスの運行を実施している。

3) 学生生活に関する種々の情報提供と情報発信

学生委員会からのニュースレター「あずまし」15号から18号を発刊した。これまで「学生委員会からのお知らせ」は学生に直接配布していたが、今年度から配布に代わり学生ポータルサイトでの発信とした。学生相談室の運営と学生への広報に関しては、「学生相談室だより」を年間4回配布した。生活指導に関しては適宜ポスターの掲示や、掲示板への貼付で行うが、長期休暇前にはその過ごし方に関する配布物と口頭での注意喚起を行った。また6月には全学生を対象とした「学生生活に関する満足度調査」を実施し、6月末の教授会でその結果を報告するとともに学生には「あずまし」を通じて集計結果の報告をした。

4) 学生の健康、メンタル・ヘルスの保全等

学生の健康を管理する保健室は、平成26年9月から真栄キャンパスに常勤の専任職員が配置されており、学生の普段の身体的健康に関する相談や対応、管理を実施している。平成29年度の保健室来室状況は、応急処置が164人、相談等（健康診断結果の基づく健康相談含む）が427人。来室項目別人数は表2-4-①-aのとおりで、1日平均2.81人の来室があった。

表 2 - 4 - ① - a 平成29年度保健室来室状況

	平成29年度
来室延べ人数	591
A 内科系	75
B 外科系	75
C その他	14
D 相談	354
E その他	73

(単位は人)

A・B：傷病理由の来室

C：眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科

D：呼出し面談、精密検査結果報告、予防接種の報告、
健康面について、学生生活について

E：物品の貸与（マスク、綿棒、生理用品、救急絆創膏）

恵み野キャンパスに関しては、専用の保健室はなく、また専任職員も配置していない。

学生のメンタルヘルスに関しては、各学科、各学年に配置されている学担が個人面談等を年2回実施して、学生のリスクをいち早く把握し、学科で共有するように努めている。また、入学式のオリエンテーションで、学生相談室のパンフレットを配布し、開室日時を知らせるとともに、担当する臨床心理士に登壇してもらい新入生に紹介するとともに、学生相談室の役割の周知、相談室主催のイベント等の説明をしてもらっている。学生相談室には臨床心理士が開室日に常駐し、電話による予約を受けて相談に応じている。平成29年度の利用者数は表2 - 4 - ① - bの通りである。

表 2 - 4 - ① - b 学生相談室利用状況

	平成29年度		
	開室日数（日）	利用者数（実数：人）	相談件数（延数：件）
真 栄 キ ャ ン パ ス	55	8	44
恵み野キャンパス	8	0	0
計	63	8	44

2. 学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）の実施

平成29年度は表2 - 4 - ① - cに示す日程で学生委員会主催事業を実施した。「今年20歳になる学生のための年金セミナー」は各学科別に実施し、日本年金機構から講師を派遣してもらい、年金制度の説明や学生の特例措置等について学んだ。安心・安全週間に関して例年実施している護身術講座は、真栄キャンパスでは北海道警察「ASEDEL（汗出る）」チームから、恵み野キャンパスでは千歳警察署生活安全課から現職警察官が派遣され、ワーク形式で体験講座を実施した。

デートDVや性教育に関しては、真栄キャンパスでは札幌市立柏中学校校長の蛸名嘉津夫氏によ

る、恵み野キャンパスでは本学教員によるデートDVに関する啓発講演を聞くことができた。

10月から12月にかけては「命」を学ぶイベントを毎年実施している。平成29年度は、真栄キャンパスは展示期間10月16日から23日につしま記念ホール前で、恵み野キャンパスは展示期間10月23日から27日に1号館1階ラーニングコモンズで実施した。交通事故死者である被害者たちのパネル展には、今年度も驚くほど多くの学生から展示を見た感想が寄せられた。

第4回となる「命」の講演会は、両キャンパスともパネル展の初日に北海道交通事故被害者の会の小野茂氏を迎えて「交通事故死遺族のその後、乗り越えるということ」というタイトルでの講演を企画した。

例年、学友会の臨時総会とともに実施する学生委員会セミナーは、平成29年6月から全国の政令指定都市としては初めてLGBTパートナーシップ宣誓制度を始めた札幌市から、担当部局課長である廣川衣恵氏に講演を依頼した。本学にはLGBTであることを公表している学生がいるため、この講演をとおして性的マイノリティに関する学生間の理解が高まったと思われる。他大学では札幌市からの廣川氏の派遣を学生ではなく教職員が聴講し、むしろ学生対応に生かしていると言う助言を受け、本学でも大学としての対応の在り方の検討が始まっている。

表2-4-①-c 学生委員会行事

年	日程	学生委員会主催行事
平成29年	6/12、19、22	「今年20歳になる学生のための年金セミナー」
	6/13、7/6	安心・安全週間「警察による護身術講座」
	6/28、7/13	デートDV・性教育に関する啓発講座
	10/16～31	命を学ぶイベント 第4回「いのちのパネル展」
	10/16、23	第4回命の講演会「交通事故死遺族のその後、乗り越えるということ」 北海道交通事故被害者の会 小野 茂 氏
平成30年	1/25	学生委員会セミナー「7%のあなたへ～LGBTの人権を守るための札幌市の施策的挑戦」 札幌市男女市民文化局男女共同参画室課長 廣川 衣恵 氏

3. 学友会及び学内団体の支援

本学の全学生は入学とともに学友会会員となる。学友会は学生が納める年間3000円の学友会費と大学からの補助金で賄われている。学友会の運営は本部会員が担うが、その組織は毎年2月までに選挙によって選ばれる会長1名、会長が指名した各学科1名の副会長、総務、会計、監査役員、各クラス代表、任意の本部会員らによって担われている。学友会の名誉顧問は本学学長、運営顧問は学生委員長、監査は学生委員が担当している（図2-4-①）。平成29年度の学友会主催行事は表2-4-①-dの通りである。

表 2 - 4 - ① - d 学友会の主な行事

年	日程	学生委員会主催行事
平成29年	4/22	第4回 新入生歓迎会 第4回 学友会定期総会
	6/21	第4回 体育大会
	7/5	第3回 ナーシングセレモニー（看護学科）
	9/29・30	第4回 日医祭
平成30年	1/28	第6代 学友会会長選挙、第4回学友会臨時総会

第4回目を迎える種々の行事は、両キャンパスの学生がいずれかのキャンパスや学外施設に集まって協働で実施している。また第4回となるナーシングセレモニーのように各学科で実施される行事は、その学科に所属する学友会本部会員が実施する（表2-4-①-d）。

学内におけるサークル活動等、団体の設立、活動、解散については、「日本医療大学学内団体規程」（CAMPUS HAND BOOK 2017）に定められている。団体の設立、解散は、学生委員会で審査され学長の許可を受けなければならない。学生のサークル活動は、専門教育科目の教育課程時間数が増える上級学年については、参加が非常に厳しいこと、また、臨地・臨床実習があることから、時間的にゆとりがある1・2年生を中心に行われている。学内団体設立の申請は7月末、翌年の1月末の年2回の締め切りがあり、平成29年度には継続、新規を含め23団体が活動していた。登録学生数は381人である（表2-4-①-e）。

具体的な活動に関してはバスケットボールサークルやバレーボールサークルは両キャンパスで親善試合を実施、写真サークルは学内でのイベント時に撮影を担当し、日本医療大学CBRサークルでは国際協力に関するボランティアに参加している。また第4回日医祭では多くの学内団体が模擬店を開店し、本学に入学を考えている高校生やその保護者のための学科別ミニ・オープンキャンパスを実施した。

学友会会長選挙は平成30年1月に行われ、第6代会長が第4回学友会臨時総会で承認された、会長は恵み野キャンパスのリハビリテーション学科に所属しているため、学友会本部会は平成30年2月から恵み野キャンパスに移動となっている。

表 2 - 4 - ① - e 学生のサークル活動状況

No.	サークル名	登録学生数	No.	サークル名	登録学生数
1	ボランティア部	5	13	バレーボール部（恵み野）	23
2	茶道サークル	11	14	卓球サークル	17
3	スポンティアサークル	44	15	軟式野球部	22
4	バトミントンサークル	31	16	CBRサークル	8
5	バレーボールサークル	24	17	真栄バスケットサークル	20
6	バスケットサークル	40	18	テニポン	11
7	サッカー部	20	19	恵み野バトミントンサークル	21

8	音楽サークル	14	20	ダンスサークル	5
9	Let's YOGA	10	21	写真サークル	5
10	スポーツ&レージャーサークル	8	22	医療研究会	5
11	ボルダリングサークル	20	23	ユナイテッド・シネマ・アンデルセン	6
12	スポーツサークル	11	23団体		381

(単位は人)

4. 学生の賞罰に関する事項、奨学金に関する事項

学生に関する賞罰は、平成29年度は日本医療大学年度別学生顕彰事業のみであった。顕彰は成績優秀で各学科各学年各5名、合計30名が受賞した。社会貢献での受賞者はいなかった。また罰則対象となった学生もいなかった。

本学の学生が利用している奨学金は、日本学生支援機構奨学金、高等職業訓練促進給付金事業、北海道看護職員養成修学資金（看護学科のみ）、各市町村奨学金などの公的奨学金制度であるが、経済的支援としては一般入学試験において合格した者の中から、優秀な成績をもって本学に入学する者に与えられる日本医療大学特待生制度が設けられている。平成29年度の日本学生支援機構及び他の奨学金貸与者は表2-4-①-fのとおりである。

表2-4-①-f 各種奨学金受給状況

		平成28年度					
		日本学生 支援機構			北海道看護 職員修学資金	その他	計
		1種	2種	併用			
看護学科	1年	12	31	9	6	0	58
	2年	8	27	19	8	1	63
	3年	11	30	14	4	2	61
	4年	7	25	7	6	0	45
リハビリテーション学科	1年	6	15	8	－	0	29
	2年	6	30	1	－	0	37
	3年	8	17	2	－	0	27
診療放射線学科	1年	4	22	11	－	0	37
	2年	5	17	8	－	0	30
計		67	214	79	24	3	387

(単位は人)

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、北海道札幌市の南東部、白旗山競技場に隣接し、札幌市営交通東豊線福住駅からバスで15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス（看護学科・診療放射線学科）と新千歳空港と札幌市を結ぶ経路上に位置する、恵み野キャンパス（リハビリテーション学科）を校地として所有している。

校地の面積は、2キャンパスを併せ46,599㎡（表2-5-①-a）であり、以下のとおり、大学設置基準上必要な校舎面積を満たしている。

看護学科、診療放射線学科のある真栄キャンパスとリハビリテーション学科のある恵み野キャンパスに教室、実習室、図書館、運動施設等の教育・研究のために必要な施設が整備されている。

学生ボランティアとともに、真栄キャンパスの玄関前に花のプランターで文字を作成したり、ガーデニングや、椅子や机を配置することによって学生の居場所を作ったりするなど環境整備に努めている。

また、通学の利便性を高めるため、バス会社と運行に関する交渉をしたりスクールバスを運行している。

表 2 - 5 - ① - a 校地、校舎等の面積

大学収容定員数 (学部合計)		840人 ※完成年度				
校地等	区分	専 用	共 用	計	収容定員1人 あたりの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷地	29,831㎡	0㎡	29,831㎡	51.8㎡	8,400.0㎡
	運動場用地	13,710㎡	0㎡	13,710㎡		
	小 計	43,541㎡	0㎡	43,541㎡		
	その他	3,058㎡	0㎡	3,058㎡		
	合 計	46,599㎡	0㎡	46,599㎡		
校 舎		専 用	共 用	計		
		16,060.03㎡	0.00㎡	16,060.03㎡		

表 2 - 5 - ① - b 教員研究室の概要

保健医療学部	室数 (室)			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)	
	個室	共同	計		個室	共同
看護学科	22	3	25	678.55	25.57	10.55
リハビリテーション学科	12	3	15	452.97	20.8	35.34
診療放射線学科	10	0	10	255.20	25.52	—
計	44	6	50	1,386.72	23.99	19.3

2 - 5 - ② 実習施設、図書館等の有効活用

1. 概要

1) 施設規模

真栄キャンパス本館……延べ床面積328㎡

恵み野キャンパス分館……延べ床面積206.61㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料所蔵数（平成30年3月31日現在）

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数	
	和書 (冊)	洋書 (冊)	視聴覚 (本)	計	和雑誌 (種)	洋雑誌 (種)
真栄キャンパス本館	17,090	390	490	17,970	60	13
恵み野キャンパス分館	8,190	166	71	8,427	30	16
合計	25,280	556	561	26,387	90	29

3) 年度受入状況（平成30年3月31日現在）

図書館の名称	区 分		和書	洋書	計
真栄キャンパス本館	図書 (冊)	購入	320	3	323
		寄贈	0	0	0
		計	320	3	323
	雑誌 (種)	購入	60	13	73
		寄贈	0	0	0
		計	60	13	73
恵み野キャンパス分館	図書 (冊)	購入	97	0	97
		寄贈	0	0	0
		計	97	0	97
	雑誌 (種)	購入	30	12	42
		寄贈	0	0	0
		計	30	16	42

2. 利用状況

1) 開館日時・休館日

開館時間	平 日：9：00～20：30（本館） 9：00～19：00（恵み野分館） 土曜日：9：00～12：00 大学の長期休業期間中：9：00～17：00（平日）
休館日	日曜、祝日、年末年始、学校閉鎖期間

2) 利用資格

- ① 本学の学部生及び教職員
- ② 本学法人の専門学校生及び教職員
- ③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の閲覧希望者
- ④ つしま医療福祉グループの職員

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生	5冊	図書：2週間
教職員	無制限	図書：2週間 雑誌：1週間

4) 年間利用者数・貸出冊数等（平成30年3月31日現在）

図書館の名称	開館日数 (日)	入館者数 (人)	貸出人数 (人)	貸出冊数 (冊)	ILL件数(件)	
					受付	依頼
本館	235	16,588	1,586	3,436	2	133
恵み野分館	235	—	1,154	2,442	0	43
合計	—	—	2,740	5,878	2	176

ILL：Inter－Library Loan（相互貸借）

2－5－③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

真栄キャンパスの校舎の入り口は、段差をなくしたり低くしたりするなどバリアフリーに配慮している。また、エレベーターを設置して車いす利用者等への配慮をしている。恵み野キャンパスの校舎の竣工は古く、旧館玄関にスロープがあるのみで、バリアフリー化が進んでいない。

2－5－④ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、教育効果を高めるため、本学の教育課程に示す授業科目に則し、学科単位、演習単位、実験・実技単位で複数人の教員を配置し、実施している。

特に、1年次の導入科目では、1グループ5～6人で編成し、各グループに担当教員を配置し、きめ細かな指導ができるよう配慮し、教育の質を担保している。なお、専任教員1人あたりの学生数は表2－5－④－aのとおりである。

表2－5－④－a 専任教員（1人あたりの学生数：ST比）

学科	学生数	教員数(人)		教員一人当たりの学生数	
		本務者	学内兼任	ST比 A	ST比 B
看護学科	331	29	0	11.4	11.4
リハビリテーション学科	165	16	4	10.3	8.3
診療放射線学科	104	9	5	11.5	7.4
合計	600	54	9	11.1	9.5

※学校基本調査の「教員数（本務者）」学長、教授、准教授、講師、助教、助手の合計

※ST比 A：教員（本務者）一人当たりの学生数

ST比 B：教員（本務者＋学内の他学科からの兼任者）一人当たりの学生数

表 2 - 5 - ④ - b 講義室、演習室、学生自習室等の概要

	室数 (室)	真栄キャンパス		恵み野キャンパス	
		面積 (㎡)	収容人員 (総数) (人)	面積 (㎡)	収容人員 (総数) (人)
講堂・大教室	1	500.28	505	192	138
大講義室	2	—	—	277.50	130
講義室	21	1,303.50	625	618.24	400
演習室	18	280.19	152	138.66	68
看護学科実習室		882.00	80	—	—
リハビリテーション学科実習室		—	—	998.80	
診療放射線学科実習室		971.97		—	—
自習室	3	108.67	44	140.62	60

2 - 6. 学生の意見・要望への対応

2 - 6 - ① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

学修に関する学生の意見・要望の把握は主に学担との個別面談をととして吸い上げられ各学科、教務委員会で対応がなされているが、全学の学生の定期試験の可否、採点や成績に関しては平成29年度から「成績評価に対する疑義申し立て」の制度が整備され、学生に対しては年度初めに配布される『CAMPUS HAND BOOK』で以下のとおり告知した。

「当該期の成績で、採点の誤記の可能性やシラバスで周知されている成績評価の方法等から疑義のある者は、試験等の可否、成績評価についての申し立てを受け付けます。「成績確認願」に必要事項を記入し、事務局に提出してください。ただし、申し立てを受け付ける期間は、各試験の可否が掲示された日を含め3日以内（日曜日を除く）、成績発表日を含め1週間以内（日曜日を除く）とします。学科、学年によってはこの問い合わせ期間に変更が生ずることもあります。」（『CAMPUS HAND BOOK 2017』32ページ）

制度構築の目的は人権擁護の観点から、採点の誤記の可能性やシラバスで周知されている成績評価の方法等に照らし合わせ、当該期の試験の可否、成績に関して疑義のある学生からの問い合わせを受け付けることであるが、対応によって成績の修正が発生した場合は教務委員会にこれを報告し、所定の手続きで成績の修正を行うことになった。

2 - 6 - ② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

心身の健康に関する相談は、保健室に常勤する養護教諭及び相談室開室日に常勤する臨床心理士が対応している。また学担による面談も定期的実施され、相談内容によって保健室や相談室に繋げている。

平成29年度に相談室によせられた相談で最も多かったのは「健康（不安・抑うつ・緊張など）」であり、学年進行に沿って進路や国家試験に関する悩み事「将来（就職・生き方など）」も増加している（表 2 - 6 - ② - a）。また学担に相談される学生間の人間関係におけるトラブルは学年、学科を問わず発生しているが、特にハラスメントと思われる案件に関しては全学に5名の学生相談

員がおり、常時相談を受け付けているが、平成29年度の学生相談員による相談受付の報告は、所管するハラスメント委員会によると0件であった。

表2-6-②-a 学生相談室の相談内容別件数

相談内容	件数（件）
①学業（履修、休学、退学など）	2
②生活（アルバイト、奨学金、住居など）	0
③対人関係（友人、教員、家族など）	2
④性格（自分を知る、自分のくせなど）	2
⑤健康（不安、抑うつ、緊張など）	4
⑥将来（就職、生き方など）	3
⑦その他	1
計	14

本学では5月から6月にかけて全学生を対象とした「学生生活に関する満足度調査」を無記名の自記式質問票形式で実施している。その目的は入学後の大学生活における生活環境に関する満足度や改善点に関する情報収集である。第4回目となる平成29年度はマークシートの読み取り機を導入し、初めてマークシート方式で実施した。回答を寄せてくれた学生は509人（在校生の84.8%）である。

分析は単純集計の後に、学科、学年による重要項目に関するクロス集計を行い、その特徴を把握するとともに、学科、学年別の対応を考察した。分析結果は、教授会でその結果を報告するとともに学生には「あずまし」を通じて報告した。

本学学生の退学学生の理由で多いものは「進路変更」や「体調不良」であるが、「経済的理由」も目に付く。本学の奨学金貸与学生率は上記の学生の調査からは学生の63%が貸与を受けていると回答しているが、各種奨学金受給状況（表2-4-①-f）を見る限り、より高率な貸与率であることが想定される。重複貸与者の問題や、将来の返還困難者の発生も予想され、学生委員会では学生本人とその保護者に対して、オリエンテーションやガイダンス、保護者説明会等をとおして返済計画を検討したうえで、慎重に申請はするべきであると説明している。

表2-6-②-b 満足度調査の回答における奨学金の貸与率

学科	学年				合計
	1年	2年	3年	4年	
看護学科	71.3%	60.8%	62.7%	58.6%	64.3%
リハビリテーション学科	61.4%	58.1%	55.3%	—	58.2%
診療放射線学科	62.7%	71.4%	—	—	66.7%
全学科 計	65.1%	63.4%	59.0%	58.6%	63.0%

学生のアバイト率（表2-6-②-c）であるが、調査からその数値は学科によって大きく異なっており、全学の平均は67.7%である。入学前からアルバイトをしていた学生の率が高い学科は看護学科となっている。

アルバイトに関するワーク・ルールの確認やブラック・バイトへの認識を学生委員会では啓発しているが、バイト先での人間関係やハラスメントの問題が学生から相談されることも少なくない。またアルバイト先が大学の近隣にはあまりないことから、学生は自宅から離れた繁華街等でアルバイトを探す傾向が高い。アルバイトからの夜間の帰宅途上の防犯に関する注意喚起を行っており、道警による護身術講座への参加を促している。

表2-6-②-c 満足度調査の回答における学生のアバイト率

アルバイトの状況	看護学科	診療放射線学科	リハビリテーション学科	学部合計
大学入学前からアルバイトをしている	113人	26人	46人	185人
	43.1%	28.0%	29.9%	36.3%
大大学入学後からアルバイトをしている	86人	27人	47人	160人
	32.8%	29.0%	30.5%	31.4%
アルバイト率	75.9%	57.0%	60.4%	67.7%

また、本学は自動車通学を許可しているため、年度初めには「交通安全講習会」を開き、その参加を自動車通学の申請要件としている。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

「学生満足度調査」の結果から学修環境に関する学生の現状とその対応に関して報告を行う。調査は学生生活に関する現状の把握を目的とし、対応を要する課題に対して改善策を練り、大学に対応を提言し、学生に対しては啓発的な講演会や講座の開催、先述した「あずまし」や「学生委員会からのお知らせ」を通して対応の状況や改善点の報告を行ってきた。

平成29年度に課題として明らかになったことは学生の欠食、特に朝食を食べる習慣が身につけていない学生が非常に多いという問題であった（表2-6-③-a）。日本医療大学後援会の支援を受け、試験的に「100円朝食」の取り組みを行い、学生の評価が非常に高かったことで、毎朝提供することとした。

また、一人暮らしの学生の割合が、年々高まり、平成29年には3人に1人強の学生が親元を離れて暮らしている現状で、地域でのごみの収集日の認知や、病院・交番等の位置を確認しておくなどの指導を行うようになった。

本学へのアクセスに関しては、例年学生から「バスの本数を増やしてほしい」「休講になってもバスの便がなく帰ることができない」等の意見が多数寄せられてきたが、今年度の調査でも「大学に望むこと」の自由記述では多数を占めていた。今年度からは図書館の開館時間の延長に合わせ、マイクロバスの夜間運行の時間も延長するなどの対策を講じた。また学友会の行事がある場合は、キャンパス間、あるいは近隣の地下鉄と本学を結ぶチャーター便をその都度調達している。学友会

予算にとってはこのバスのチャーター便の費用が高額であることが課題ではあるが、参加者の人数と相関関係にあることから、これは最も重要な必要経費であるとも言えよう。

表 2 - 6 - ③ - a 課題となる生活習慣年度比較

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
食べたり食べなかったりする	24.0%	41.9%	30.8%	31.7%
食べない	10.1%	13.8%	11.0%	10.6%
食べる	34.1%	55.7%	42.8%	42.3%
一人暮らし率	22.0%	27.6%	29.9%	36.5%

本学の学修環境に関しては、調査結果では概ね高い評価を得ているが（表 2 - 6 - ③ - b）、自由記述からは食堂のメニューの種類や価格、ボリュームへの要望が多く、味に関しては両キャンパスとも高い評価を得ている。教室の視聴覚機材の改善を希望する声が意見としては多いが、実習室の設備に対しての評価は数値的にも、記述回答においても好ましいという評価であった。

表 2 - 6 - ③ - b 施設への評価

施設への評価（5点満点）	真栄キャンパス			恵み野キャンパス	大学
	看護学科	放射学科	キャンパス	リハ学科	
	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
A. 講義教室の設備（視聴覚機材等）	3.12	3.49	3.18	3.72	3.33
B. コンピューターの施設や設備	3.30	3.60	3.35	3.75	3.47
C. 図書館の設備（蔵書、貸出システム、学習環境等）	3.24	3.40	3.27	3.57	3.35
D-1. 食堂のメニューの種類	3.22	2.89	3.17	3.41	3.24
D-2. 食堂のメニューの価格	3.00	2.85	2.98	3.29	3.05
D-3. 食堂のメニューの味	3.40	3.26	3.38	3.81	3.50
D-4. 食堂のメニューのボリューム	3.18	2.77	3.11	3.14	3.12
E. 体育施設・設備	3.15	3.17	3.15	2.89	3.08
F. 実習室の設備	3.90	3.44	3.83	3.87	3.84
G. 自習室	3.23	3.39	3.25	3.51	3.32

（単位は点）

設備としての要望は多岐にわたり、近隣に店舗がないことから、キャンパス内のコンビニの機能（ATMの設置、事務用品の品ぞろえの充実等）を高めてほしいという要望が多く寄せられた。また自習室、休憩室など授業がない時間帯の居場所の充実を望む声があり、看護棟の3F・4Fへのテーブル設置、長椅子の設置を行った。

情報をどこから入手しているのかを尋ねた結果（表 2 - 6 - ③ - c）を縦覧すると、掲示板、友

人からが多いことが分かる。大学のポータルサイトの充実を高めることが重要ではあるが、掲示板の在り方も工夫することが必要であろう。また友人との人間関係におけるコミュニケーション能力を高めることも情報が共有されるためには重要であることから、施設等やシステム構築などの環境とともに心身の健全やメンタルヘルスへの支援との同時進行に努めることが必要であろう。

表 2 - 6 - ③ - c 学修環境に関する情報をどこから得ているか

	看護学科		診療放射線学科		リハビリテーション学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
掲示板	217	89.3	45	88.2	113	94.2
友人から	121	49.6	19	37.3	61	50.9
事務の窓口	9	3.7	1	2.0	7	5.8
教員から	13	5.3	2	3.9	16	13.3
SNSを通して	107	43.9	14	27.5	31	25.8

学生からは学修環境に関する様々な意見が寄せられ、総合的な学生の本学への満足度は5点満点で平成28年度が3.64点、今年度（平成29年度）が3.74点となっている（表 2 - 6 - ③ - d）。学年が上がると評価が低くなる傾向がややあったが、さらなる改善による満足度の向上に努めたい。

表 2 - 6 - ③ - d 調査結果における大学への満足度評価

満足度 (5点満点)		看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科			大学
		1年	2年	3年	4年	学科	1年	2年	3年	学科	1年	2年	学科	
充実度	平成28	3.72	3.64	3.56	－	3.64	3.90	3.90		3.90	4.13		4.13	3.64
	平成29	3.85	3.61	3.36	3.76	3.63	4.22	3.65	3.89	3.89	3.96	3.64	3.82	3.74

(単位は点)

3. 教育課程

3 - 1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3 - 1 - ① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

3学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）については、1 - 2 - ④に記載されているので割愛する。本学は、看護学科開学後4年が経過し、開学から1年ごとに新学科が増設された経緯があり、学位授与方針に沿った教育を展開している。

3 - 1 - ② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定規準、進級基準、卒業認定規準、修了認定規準等の策定と周知

各教科目の成績評価方法は、科目担当責任者によってシラバスに明記され、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用する。教職員は教務委員会で作成した試験実施要領で

共通理解をはかり、毎年見直ししながら進めている。

単位の認定については、明文化されており、学生及び教職員に周知されている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議され、教授会で報告、承認される。なお、本学の成績表記は、表3-1-②-aの通りである。

表3-1-②-a 成績評価

成 績 評 価	評 点	単 位 付 与
A A (秀)	100～90点	合 格
A (優)	89～80点	
B (良)	79～70点	
C (可)	69～60点	
D (不 可)	59点以下	不 合 格

3-1-③ 単位認定規準、進級基準、卒業認定規準、修了認定規準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用について、単位認定や成績評価は、学則第27条（単位数の計算方法）、第28条（試験）、第29条（成績の評価）に規定されている。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。また、卒業や学位の授与についても同第32条、第33条に示されている。また、学則第26条、第28条第2項、第30条及び第31条の規定に基づき履修規定を別に定め、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等である。

3-2. 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

3学科の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）については、1-2-④（pp. 2-5）に記載されている。

保健医療学部教育の教育目的は、建学の精神、教育理念に基づき「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学習能力を授けるとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を教授する」である。

看護学科のカリキュラムの基本概念は、『人間』『環境』『健康』『看護』の4つである。看護学は、『人間と健康』という人間存在の本質に深く取り組む学問であり、看護を実践の科学と位置付けている。

本学における看護学教育は、人間が生きること、人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人々の健康の保持や増進と、健康障害をもつ人々への生活を支援する専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、看護師に必要な教育科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラムの基本概念は、本学の教育理念に基づき、幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、理学療法士・作業療法士に必要な教育科目を配置している。

平成28年度開設した診療放射線学科のカリキュラムの基本概念は、本学の教育理念の『人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成』に基づき、放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の習得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

それぞれの学科の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）についても1-2-④（pp. 2-5）に記載されている。各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性については、開設年度から完成年度に向けて全体評価をして、再検討する方向にある。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、シラバス（SYLLABUS 2017）において、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進捗表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。

教育科目は、各学科ともに基礎教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目に大別した構成にしている。看護学科では、基礎教育科目を5領域（33教科目）に、専門基礎教育科目を2領域（26教科目）に、専門教育科目を4領域（55教科目）に区分し教科目を配置している。

リハビリテーション学科では、基礎教育科目を3領域（32教科目）に、専門基礎教育科目を3領域（25教科目）に、専門教育科目を6領域（理学46教科目、作業43教科目）に区分し教科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域（27教科目）に、専門基礎教育科目を3領域（33教科目）に、専門教育科目を10領域（44教科目）に区分し教科目を配置している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自に必要な教養科目を準備している。医療従事者となる基礎的知識として人間理解につながる個としての生命体としての理解、人間を取り巻く環境、統計学的な知識、語学などで構成されている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち専門性が高くなる前に基礎科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学習意欲の高揚を目的としている。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行うなどの教員が多い。また、FD研修会を通じて教授法の向上を図る試みがなされている。

本学における履修では、日々の学修の積み重ねが重要であるとしている。それぞれの学科で履修の上限単位（CAP制）を設け、1年間に履修できる授業単位を制限することで、1単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかっている。本件は、履修規程第3章第4条第2項やシラバスに記載されている。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

カリキュラム委員会は、2017年9月教授会の承認を得て活動が開始された。委員の任期は、2017年10月1日より2018年3月31日までである。2017年度の委員会目標は、カリキュラム・ポリシーに沿っての現行カリキュラム達成度評価と各専門学科の現行カリキュラムの課題の共有と設定した。活動内容・結果としては、カリキュラム・ポリシーに沿って、看護学科では卒業時実践能力の到達度評価として学生、教員にアンケート調査を実施した。調査結果の分析・評価を看護学科内で共有し、今後は、分析・評価結果をさらに深化・拡大して2019年新カリキュラム策定に向けて活用する予定である。また、リハビリテーション学科、ならびに診療放射線学科では、活動を開始したが、現段階では委員会において結果を共有するまでには至っていない。

目標達成度としては不十分であり今後迅速な活動が必要である。カリキュラムの策定に向けては、学生、教員のみならず、さらに保護者あるいは本学教育に関わる人々に対し、カリキュラム評価を実施し、運用のカリキュラムの課題を明確にする必要がある。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善に向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

各学科においては、日頃より運用カリキュラムの教育内容・方法の検討、学習指導の改善の検討に取り組んでいる。さらに、カリキュラム委員会の構成員を中心として、学科内における課題の共有に努めている。しかし、全学的な課題共有までには必ずしも至っていない。今後は、全学的な課題共有の場を設定する、あるいは教員研修会の実施などにより教職員のカリキュラムに対する理解度

をさらに深める必要があると考える。

また、入試委員会、FD委員会、キャリア学修支援センター等と積極的に協力・連携を図り、カリキュラムの課題を明確にしつつ、教育内容・方法、学習指導の改善につながるよう取り組む必要がある。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能性

4-1-① 大学的意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

1. 大学的意思決定と学長のリーダーシップ

本学は、学校法人日本医療大学組織規程で大学の組織を規定しているほか、学則で大学の組織、教職員組織、教授会等について規定している。学則に係る諸規程・規則・細則や各種学内委員会の規程に基づき、教育研究に関する事項を審議している。

また教授会のほかに、審議機関として運営協議会を置くことにより、大学運営の円滑化を図っている。

学校教育法第92条第3項は、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定している。この規定に則り、本学では、学校法人日本医療大学組織規程（以下「組織規程」という。）第4条第6項の規定に基づき「本学の運営全般について統括し、学長からの求めに応じて意見を述べる（総長選任規程第3条）」総長を置いている。

2. 運営協議会

「学校法人日本医療大学組織規程」第5条に基づき、本学に運営協議会を置いている。運営協議会は学長のガバナンスの強化、本学的意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的としている。

3. 教授会

本学は、「学校教育法」第93条第1項に規定される教授会として、学長、学科長、専任の教授・准教授を構成員として教授会を設置している。

4. 各種学内委員会

「日本医療大学学則」第45条により、大学運営に必要な委員会を設置しており、それぞれの学内委員会規程に従って適切に運営されている。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築

1. 教学マネジメント

教学マネジメントとは、大学が自らの使命や教育理念を踏まえて策定した3つのポリシーに基づく体系的で組織的な教育活動の展開、学生の能動的・主体的な学修を促す取組等の充実、学修成果

の可視化やPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの確立が可能となるような内部質保証の仕組みをいう。

このような仕組みとして、学長のリーダーシップの下、以下の組織が規程に定められたそれぞれの権限と責任に応じて、3つのポリシーに基づく教学マネジメントを行っている。

2. 運営協議会

学長が議長となり、学科長、事務局長などの大学行政管理職階をもって構成される。大学の管理運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項のほか、教授会での審議及び報告に関する事項、学科間または各部門間の調整に関する事項などを審議する。毎月2回、定期的に開催される。

3. 教授会

教授会は、学長が議長となり、毎月2回定期的に開催される。教授会の審議事項は、「日本医療大学教授会規程」第3条に次のとおり規定されている。

(意見を求める事項)

第三条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

4. 各種学内委員会

PDCAに基づく質保証のための自己点検評価は、運営協議会、自己点検・評価委員会、日本高等教育評価機構認証評価検討委員会からなる組織体制によって実施されている。また、FD等の教員及び学部全体の教育の資質・能力の向上と開発のために、FD委員会が設置されている。

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能

平成29(2017)年4月1日に施行された改正「大学設置基準」第2条第3項の規定する「教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務が行われるよう留意する」体制を構築するため、事務職員の配置は、あくまで人員数の維持計画に基づきながら、計画的な採用・異動として実施されている。

教職協働については、毎月2回開催される運営協議会には、事務局長及び事務局法人グループ担

当職員が構成員として配置されているほか、各種学内委員会には学長の任命に基づき最低1名の事務職員が委員として配置され、教職協働による大学運営体制を担保している。

さらに、毎月1回、事務局員間の横断的連携を確保するため事務局の全事務職員による事務局連絡会議を開催しており、役割分担の整理・明確化のための協議を実施している。

一方で、今後事務部門が更なる教学マネジメントの機能向上に資するためには、IR及び経営企画部門を担う専担部署の設置もしくは専任職員の配置が不可欠であるが、人件費等の問題により、これらは実現に至っていないのが現状である。

以上のことから、本学では現状の組織体制上において、事務局における必要な職員の配置及び各グループの役割の明確化は達成されており、一定の教学マネジメント補佐機能を備えている。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

1. 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

本学の学部・学科の専任教員数は、大学設置基準第13条に定める必要専任教員数及び必要専任教授数を充足している（表4-2-①-a）。また、各種指定規則（保健師助産師看護師学校養成所指定規則、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則、診療放射線技師学校養成所指定規則）に定められた基準を上回るよう適切に教員を配置し、教育課程を遂行している。

表4-2-①-a 大学設置基準上必要な専任教員数及び本学の教育配置

	教授	准教授	講師	助教	小計	設置基準上必要数	助手	合計
看護学科	10	7	7	2	26	12	4	30
リハビリテーション学科	5	2	5	4	16	8	0	16
診療放射線学科	5	0	4	0	9	8	0	9
合計	20	9	16	6	51	28	4	55
上記のうち大学全体の収容定員に応じ定める教員数						12	—	—

（単位は人）

表4-2-①-b 専任教員の年齢構成

	職 位	65歳以上	61-65歳	56-60歳	51-55歳	46-50歳	41-45歳	36-40歳	31-35歳	26-30歳	計
看護学科	教 授	6	1	2	1						10
	准教授			3	2		1	1			7
	講 師		1	2	3		1				7
	助 教							1	1		2
	小 計	6	2	7	6	0	2	2	1	0	26
リハビリテーション学科	教 授	2	3								5
	准教授					2					2
	講 師				1	1			3		5
	助 教					1	2		1		4
	小 計	2	3	0	1	4	2	0	4	0	16
診療放射線学科	教 授	3				1	1				5
	准教授										0
	講 師			1		1		1	1		4
	助 教										0
	小 計	3	0	1	0	2	1	1	1	0	9
合 計		11	5	8	7	6	5	3	6	0	51

(単位は点)

2. 教員の採用、昇任等

本学における専任教員の採用、昇任については「日本医療大学教員任用規程」及び「日本医療大学教員選考委員会規程」に従い日本医療大学教員選考委員会において候補者を推薦し、学長が決定する。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

教員研修会に関して平成29年度は下記の通り実施した。FD研修会の開催日は平成29年8月1日(火) 14:00～16:00、場所は日本医療大学・真栄キャンパスの看護棟301講義室、受講者対象は本学教員、来年度大学に異動予定の専門学校教員、学生支援グループ職員とした。講師は外部より北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センターの山本堅一特任准教授をお呼びし「魅力あるシラバスの作成について」というテーマについて実施した。受講者には受講修了証を発行した。校務で不在の教員を除き、全教員の参加があった。研修内容、時期、場所、所要時間について参加者にアンケートを実施した結果、有意義な研修であったという意見が多かった。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取り組み

大学設置基準によりSDが義務とされているところであり、職員の資質・能力向上の機会を提供することは重要である。本学では委員会組織としての体制は整備していないが、北海道地区FD・SD推進協議会に加入し、情報の収集に努めている。また、職員の資質向上の機会の一つとして「事務局連絡会」を定期に開催し、若手職員の資料作成やプレゼン能力等の育成の機会としている。今後は学外における研修機会の活用等について検討を進めることとしている。

4-4. 研究支援

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文部科学大臣決定、平成26年2月18日改正）及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文部科学大臣決定）に基づき、「競争的資金等の不正防止に関する基本方針」を策定し、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金等の適正な管理・運営及び不正防止ための取り組み、環境の整備、関係規程を整備した。

「日本医療大学における競争的資金等の不正防止に関する基本方針」（平成28年2月10日制定）

1. 競争的資金等の運営及び管理に関する取扱規程
2. 競争的資金等の運営及び管理の責任体制
3. 研究活動の不正行為に関する取扱規程
4. 研究活動行動規範
5. 不正調査委員会規程

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関する、以下の研究活動行動規範、研究倫理委員会規程、取扱規程を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んでいる。

1. 日本医療大学における研究活動行動規範

学術研究の信頼性と公平性の確保を目的とした研究活動上の基本的な倫理指針として、「日本医療大学における研究活動行動規範」を制定した（平成28年2月10日制定）。

2. 日本医療大学研究倫理委員会規程

本学に設置する日本医療大学研究倫理委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定めている。また、倫理審査申請から承認までの流れを示した手引きを作成している。

「日本医療大学研究倫理委員会規程」（平成26年8月27日制定）

「研究倫理委員会」倫理審査申請の手引き（平成26年8月27日制定）

平成29年度には、19件の倫理審査の申請があり研究倫理委員会にて承認されている。

3. 日本医療大学における研究活動の不正行為に関する取扱規定

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行うことを目的として、規程を整備した（平成28年2月10日制定）。

「日本医療大学における競争的資金等の不正防止に関する基本方針」

1. 競争的資金等の運営及び管理に関する取扱規程
2. 競争的資金等の運営及び管理の責任体制
3. 研究活動の不正行為に関する取扱規程
4. 不正調査委員会規程

本学では、これまで「研究倫理研修会」・「コンプライアンス研修会」を平成27年・平成28年と2年間連続して開催した。平成29年は、研究倫理教育教材として、日本学術振興会による、「科学の健全な発展のために：誠実な科学者の心得」（Green Book）、または「Green Book」をもとにしたe-learning「研究倫理eラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics）」の受講を行った。所属する全教員に受講を義務づけている。なお、履修記録簿（研究倫理講習受講台帳）によって研究倫理教育の履修状況を把握している。

学部学生については、卒業研究に係る研究倫理指針を示し、卒業研究の一部に組み込み、講義の中において研究倫理教育を実施している。

研究活動における不正行為への対応に当たり、「日本医療大学における研究データの保存等に関するガイドライン」（平成28年8月1日制定）を策定し、研究データの保存と開示の義務について周知している。

このガイドラインでは、本学において研究活動に携わる者すべてに対して、実験・観察ノート等の記録媒体、収集した調査データなど関係書類一式を一定期間保管し必要に応じて開示することを定め、研究活動に係る資料の適切な保管に努めている。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

本学では専門分野における専任教員の教育研究向上に資するため研究費（個人研究費、学術助成費及び教育向上研究費）が交付される。

「日本医療大学研究費審査委員会規程」には、本学に設置する日本医療大学研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定めている。

本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会より審査され交付が決定される。その他、研究費に関して、下記の規程と要領を定めている。

「日本医療大学研究費に関する規程」（平成26年4月1日制定）

「日本医療大学研究費使用要領」（平成26年4月1日制定）

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

学校法人日本医療大学寄附行為第3条において「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行う」と規定した法人の目的に基づき、教育基本法及び学校教育法を遵守し、その趣旨に従い運営されている。

私立学校法第37条第3項及び寄附行為第18条に規定する監事監査については、理事会および評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど、本法人の業務および財産の状況について意見を述べるにあたり必要と認める監査を毎会計年度終了後2月以内に実施し、理事会及び評議員会に報告している。監査結果は、毎年度において、学校法人日本医療大学の業務および財産に関し、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める旨の所見を得ている。

また、学校法人日本医療大学内部監査規程第2条の規定に基づき内部監査室を置き、同規程第3条及び第4条の規定に基づき業務監査（業務の管理運営及び諸活動の有効性並びに制度、組織、規程等の妥当性に関する監査）及び会計監査（予算執行手続き、会計処理、財産管理及び事務の効率性、適法性に関する監査）を定期及び臨時で実施している。

更に、関連法令の遵守徹底のため、関連法令の改正等に対する対応・措置については、関係法令改正の趣旨を踏まえ本学規程の迅速な改正に取り組んでいる。具体的には、平成29年度においては、学校法人日本医療大学の20の規程及び日本医療大学の10規程の改正等整備に取り組んだ。

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

学校法人においては、平成26（2015）年度に執行役員会規程を制定・施行し、本法人の経営戦略及び学校運営に係る施策の立案、合意形成、推進及び検証等を月2回のペースで審議しており、平成29（2016）年度には計22回開催された。ここでは年度予算案、予算執行、規程改定、労務・人事関連事項及び理事会付議案件等について協議している。

教学部門においては、同じく平成27（2015）年度に運営協議会規程を制定・施行し、当該会議にて本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整を行うため、月2回のペースで審議しており、平成29（2017）年度には計18回開催された。ここでは建学の精神、教育理念及び三つのポリシーに基づき本学の運営に関する事項等について協議しており、本学の使命・目的の実現に向けた継続的努力がなされている。

上記の執行役員会には学長、事務局長がそれぞれ構成員として参加しており、両会議は法人と大学の調整の機関としても機能している。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

環境保全に関して、消費電力削減のための学内施設の気温管理の基準温度に基づく空調の効果的

な運転調整、照明の点灯管理、空調設備の運転管理等があげられる。また、時間外就労管理を厳格化にすることにより、教職員の健康衛生への配慮と同時に一定の省エネルギー効果が上がっている。

労働条件・服務規律等に関しては、労働基準法に基づき「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学契約職員就業規則」を随時法令の趣旨に基づき改訂し施行しているほか、各種ハラスメント防止については「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメント防止委員会規則」、「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」を定めている。

人権については、各学科長、学生委員会委員長、各学科から選出された教員各2人、学校法人日本医療大学顧問弁護士、事務局職員を委員とする人権擁護委員会を設置している。当該委員会では、次の事項を審議し、必要な業務を行う。

- 人権侵害を防止するための企画立案及び実施に関する事項
- 人権侵害が発生した場合の調査委員会の設置に関する事項
- 調査委員会からの結果に基づき、解決策を提示することに関する事項
- その他の必要事項

また、個人情報保護が人格の尊厳に由来する基本的人権の保障にかかる問題であるとの認識を持ち「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「日本医療大学個人情報の保護に関する規程」を制定・施行済である。

安全への配慮については、「学校法人日本医療大学防災計画」を制定・施行済であり、年1回の避難・通報・消火訓練を実施している。

またCSRの観点から、本学運動場をドクターヘリ発着所として提供しているほか、社会福祉ノテ福祉会が設置運営する高齢者の通所・入所施設及び障がい者就労支援施設が本校に隣接していることから、当該施設の利用者への緊急時避難場所として開放するなど、地域と連携した安全への取り組みを進めている。

以上のことから、環境保全・人権・安全への配慮は一定程度なされている。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

理事会は寄附行為第19条第2項に規定するとおり、本法人の業務を決する最高意思決定機関として機能している。理事の定員は6名であり、現在欠員はない。その構成は寄附行為第7条第1号から第3号に規定するとおりであり、また副理事長1名、常務理事1人を任命し、理事会の意思決定の機能性を高めている。

理事会の議案は、事業計画・予算案、決算、組織の改編、主要人事、教育や研究に関する重要な施策やこれに伴う寄附行為・規程の改廃及び制定などである。また報告事項として、入学試験結果、就職状況、各種協定等が報告され、情報の共有に努めている。

理事会の招集は、寄附行為第19条第3項から第6項に規定するとおり、7日前までに書面で通知し、構成員から事前に出欠回答書と欠席の際の書面表決を受ける体制を取っている。出席状況は平

成29（2017）年度は95.2%（書面表決による出席を除く）と適正である。また書面表決書の提出有無は理事会議事録に明記され、書面表決書原本は当該会議議事録とともに保管し、事務局法人グループが厳重に管理している。

以上より、使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性は十分になされていると自己評価する。

5－3．管理運営の円滑化と相互チェック

5－3－① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

本法人の理事会は、「学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」とされており、本法人の意思決定機関と位置付けられている。理事会には学長及び大学事務局長が理事として参画しており、教学及び管理部門の連携・調整が図られている。

本学は、学則で大学の組織、教職員組織、教授会について規定しているほか、学則に係る規程・細則や各委員会の規程に基づき、教育研究に関する事項を審議している。主たる審議機関である教授会とともに、運営協議会を審議機関として置くことにより、大学運営の円滑化を図っている。

1．教授会

本学は、「学校教育法」第93条第1項に規定される教授会として、学長、学科長、専任の教授・准教授を構成員として教授会を設置している。

教授会は、毎月2回定期的に開催される。

教授会の意見を求める事項は、「日本医療大学教授会規程」第3条に規定されている。

2．運営協議会

「学校法人日本医療大学組織規程」第5条に基づき、本学に運営協議会を置いている。協議会は学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的としている。議長である学長の下、学科長、事務局長などの大学行政管理職階をもって組織される。大学の管理運営に関する事項や教育研究に関わる重要事項のほか、教授会での審議及び報告事項、学科間または各部門間の調整に関する事項などを審議する。

協議会は、毎月2回定期的に開催される。

5－3－② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

理事会には、学長が理事として参画している。また教授会には、事務局長が出席するとともに、運営協議会には事務局長が構成員として参画している。このことから、法人と大学の相互チェックは有効に機能している。

評議員及び監事は、寄付行為に基づき選任されており、評議員会は理事長の諮問に応じて法人の予算、事業計画その他法人の業務に関する重要事項について審議している。監事は、法人の業務、財産の状況を監査するとともに、毎会計年度、監査報告書を作成し、理事会、評議会に出席して意

見を述べている。

5－4．財務基盤と収支

5－4－① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

本学は平成26年4月に設置され、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来にも存続し続けるため、収支構造の見直しを行い、本法人の経営は、学納金等の収入額の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求額の積み上げ方式から予算枠の中で事業を組み立てる方式に変更し、経費予算額の縮減を図ることによって、事業活動収支計算において、基本金組入前当年度収支差額の黒字転換を目指すことを予算編成の基本方針とした。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境に迅速に対応して本法人及び本学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実すること、具体的には、経営及び教学全体に関する中長期計画等の経営戦略を策定し、その推進を統括することを目的に経営戦略会議を設置している。

「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」および「財産目録」について、表5－4－①－a～表5－4－①－dに示す。

5－4－② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

前述の予算編成の基本方針を着実に進める中、財務基盤を強化するため、収容定員に対して学生数100%確保に努め、また、科学研究費補助金等の資金獲得に向けて説明会を実施して申請を促している。

表5-4-①-a

《資金収支計算書》

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育活動に対する資金の収支を明らかにするものである。

資 金 収 支 計 算 書

平成29年 4月 1日から

平成30年 3月 31日まで

(単位：円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,074,918,000	1,073,018,000	1,900,000
授業料収入	978,538,000	977,838,000	700,000
入学金収入	54,000,000	52,800,000	1,200,000
実験実習料収入	26,180,000	26,180,000	0
施設設備資金収入	16,200,000	16,200,000	0
手数料収入	17,563,200	17,420,000	143,200
入学検定料収入	13,890,000	13,250,000	640,000
試験料収入	3,369,000	3,845,000	△ 476,000
証明手数料収入	304,200	325,000	△ 20,800
寄付金収入	320,000,000	320,000,000	0
特別寄付金収入	320,000,000	320,000,000	0
補助金収入	6,538,171	6,538,171	0
地方公共団体補助金収入	6,462,000	6,462,000	0
その他の補助金収入	76,171	76,171	0
付随事業・収益事業収入	32,400,000	32,682,200	△ 282,200
補助活動収入	0	282,200	△ 282,200
受託事業収入	32,400,000	32,400,000	0
受取利息・配当金収入	22,893	30,545	△ 7,652
その他の受取利息・配当金収入	22,893	30,545	△ 7,652
雑収入	55,310,759	85,990,931	△ 30,680,172
施設設備利用料収入	98,000	5,611,780	△ 5,513,780
その他の雑収入	687,788	831,431	△ 143,643
退職手当給付金収入	54,524,971	74,533,540	△ 20,008,569
徴収不能引当金戻入	0	212,500	△ 212,500
過年度修正収入	0	4,801,680	△ 4,801,680
前受金収入	685,678,000	680,694,000	4,984,000
授業料前受金収入	616,433,000	604,014,000	12,419,000
入学金前受金収入	59,097,000	66,600,000	△ 7,503,000
実験実習費前受金収入	6,493,000	6,480,000	13,000
施設費前受金収入	3,655,000	3,600,000	55,000
その他の収入	107,697,000	114,524,955	△ 6,827,955
前期末未収入金収入	106,197,000	83,589,947	22,607,053
預り金受入収入	1,500,000	30,935,008	△ 29,435,008
資金収入調整勘定	△ 738,710,000	△ 752,549,095	13,839,095
期末未収入金	△ 12,000,000	△ 81,579,095	69,579,095
前期末前受金	△ 726,710,000	△ 670,970,000	△ 55,740,000
前年度末繰越支払資金	1,246,913,719	1,263,998,226	
収入の部合計	2,808,331,742	2,842,347,933	△ 34,016,191

(単位：円)

支 出 の 部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	939,710,438	979,536,075	△	39,825,637
教員人件費支出	680,791,579	693,582,034	△	12,790,455
職員人件費支出	158,245,321	162,280,533	△	4,035,212
役員報酬支出	46,427,617	47,371,348	△	943,731
退職金支出	54,245,921	76,302,160	△	22,056,239
教育研究経費支出	316,375,580	307,027,224		9,348,356
消耗品費支出	15,442,434	15,977,884	△	535,450
光熱水費支出	37,778,492	39,402,199	△	1,623,707
旅費交通費支出	4,080,869	3,927,946		152,923
奨学費支出	12,350,000	10,850,000		1,500,000
車両費支出	1,977,965	2,155,308	△	177,343
福利費支出	7,126,947	7,105,946		21,001
教員研修費支出	25,527,733	21,725,481		3,802,252
通信運搬費支出	3,931,711	3,772,718		158,993
印刷製本費支出	8,539,079	8,229,662		309,417
出版物費支出	1,392,612	1,373,489		19,123
修繕費支出	12,855,087	12,135,207		719,880
損害保険料支出	3,084,230	3,084,230		0
賃借料支出	18,247,886	15,317,574		2,930,312
環境整備費支出	29,988	20,593		9,395
諸会費支出	1,750,200	1,763,200	△	13,000
会議費支出	240,936	208,607		32,329
行事費支出	2,448,886	2,119,750		329,136
報酬委託手数料支出	101,991,652	100,703,249		1,288,403
実習費支出	52,201,054	52,225,372	△	24,318
寄付金支出	1,354,000	1,354,000		0
学生活動補助金支出	3,668,298	3,328,558		339,740
雑費支出	355,521	246,251		109,270
管理経費支出	83,105,230	84,444,826	△	1,339,596
消耗品費支出	1,064,854	1,137,102	△	72,248
光熱水費支出	1,873,751	2,478,997	△	605,246
旅費交通費支出	2,502,923	2,748,471	△	245,548
車両費支出	1,168,418	1,006,621		161,797
福利費支出	2,176,380	2,214,764	△	38,384
通信運搬費支出	641,016	646,732	△	5,716
印刷製本費支出	29,052	29,052		0
出版物費支出	93,000	94,134	△	1,134 12
修繕費支出	2,044,109	1,915,305		8,804
損害保険料支出	151,050	151,050		0
賃借料支出	6,779,119	6,465,743		313,376
公租公課支出	922,770	924,120	△	1,350
諸会費支出	2,529,610	2,478,260		51,350
会議費支出	218,140	208,133		10,007
報酬委託手数料支出	11,456,155	11,740,240	△	284,085
広報費支出	46,948,727	47,869,978	△	921,251
渉外費支出	2,431,702	2,258,462		173,240
雑費支出	74,454	69,454		5,000
補助活動支出	0	8,208	△	8,208
借入金等利息支出	5,924,732	5,285,135		639,597
借入金利息支出	5,924,732	5,285,135		639,597
借入金等返済支出	99,504,000	93,593,000		5,911,000

借入金返済支出	99,504,000	93,593,000	5,911,000
設備関係支出	25,769,398	30,610,407	△ 4,841,009
教育研究用機器備品支出	19,222,857	21,894,840	△ 2,671,983
図書支出	6,546,541	8,715,567	△ 2,169,026
資産運用支出	0	23,299,039	△ 23,299,039
収益事業元入金支出	0	23,299,039	△ 23,299,039
その他の支出	163,362,000	189,455,589	△ 26,093,589
長期未払金支払支出	17,104,000	23,032,371	△ 5,928,371
前期末未払金支払支出	143,058,000	143,058,030	△ 30
預り金支払支出	0	20,443,882	△ 20,443,882
前払金支払支出	3,200,000	2,794,794	405,236
立替金支払支出	0	126,542	△ 126,542
予備費	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 48,100,000	△ 96,023,973	47,923,973
期末未払金	△ 45,000,000	△ 92,559,668	47,559,668
前期末前払金	△ 3,100,000	△ 3,464,305	364,305
翌年度繰越支払資金	1,206,069,616	1,225,120,611	△ 19,050,995
支出の部合計	2,791,720,994	2,842,347,933	△ 50,626,939

(収入の部)

収入の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

- 1 学生生徒等納付金収入は、入学者や学生数の予算の見込人数を下廻ったため、1,900,000 円減少の 1,073,018,000 円となった。
- 2 手数料収入は、受験者数の予算の見込人数を下廻ったことなどにより、全体で 143,200 円減少の 17,420,000 円となった。
- 3 寄付金収入は、特別寄付金 320,000,000 円であった。
- 4 補助金収入は、地方公共団体補助金 6,462,000 円、その他の補助金収入 76,711 円であった。
- 5 付随事業・収益事業収入は、補助活動収入 282,200 円、及び受託事業収入で 32,400,000 円であった。
- 6 雑収入は、施設設備利用料収入、退職手当給付金収入の増加や科学研究費間接経費 401,117 円を含むその他の雑収入、過年度修正収入などにより、全体で 30,680,172 円増の 85,990,931 円であった。
- 7 前受金収入は、入学金前受金収入は増加したが、授業料前受金収入が減少したことなどにより、全体で 4,984,000 円が減少し、680,694,000 円であった。
- 8 その他の収入は、前期末未収入金収入が減少し、預り金受入収入が増加となり、全体で 6,827,955 円増の 114,524,955 円であった。
- 9 資金収入調整勘定は、総額△752,549,095 円であった。

(支出の部)

支出の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

- 1 人件費支出は、教員人件費支出や退職金支出などの増加により 39,825,637 円増加の 979,536,075 円であった。
 - 2 教育研究経費支出は、教員研修費支出の減少などにより 9,348,356 円減少の 307,027,224 円であった。
 - 3 管理経費支出は、光熱水費支出の増加などにより 1,339,596 円増の 84,444,826 円であった。
 - 4 借入金等利息支出は、639,597 円減少の 5,285,135 円であった。
 - 5 借入金等返済支出は、5,911,000 円減少の 93,593,000 円であった。
 - 6 設備関係支出は、教育研究用機器備品支出、図書支出の増加により、合計で 4,841,009 円の増の 30,610,407 円であった。
 - 7 資産運用支出は、収益事業元入金支出の増加により 23,299,039 円であった。
 - 8 その他の支出は、長期未払金支払支出、預り金支払支出等による支出増などにより合計で 26,093,589 円増の 189,455,589 円であった。
 - 9 資金支出調整勘定（控除科目）は、期末未払金が△92,559,668 円、前期末前払金が△3,464,305 円であり、合計△96,023,973 円であった。
- 以上により、翌年度繰越支払資金は、予算と比較して 19,050,995 円増加の 1,225,120,611 円であった。

表5－4－①－b

《事業活動収支計算書》

事業活動収支計算書は、当該会計年度における法人の収支均衡状態を測定し、経営状況を明らかにするものである。

事業活動収支計算書

平成29年 4月 1日から

平成30年 3月31日まで

(単位：円)

教 育 活 動 収 支	事 業 活 動 収 入 の 部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	1, 074, 918, 000	1, 073, 018, 000	1, 900, 000
		授業料	978, 538, 000	977, 838, 000	700, 000
		入学金	54, 000, 000	52, 800, 000	1, 200, 000
		実験実習料	26, 180, 000	26, 180, 000	0
		施設費	16, 200, 000	16, 200, 000	0
		手数料	17, 563, 200	17, 420, 000	143, 200
		入学検定料	13, 890, 000	13, 250, 000	640, 000
		試験料	3, 369, 000	3, 845, 000	△ 476, 000
		証明手数料	304, 200	325, 000	△ 20, 800
		寄付金	320, 000, 000	320, 000, 000	0
	特別寄付金	320, 000, 000	320, 000, 000	0	
	収 入 の 部	経常費等補助金	6, 538, 171	6, 538, 171	0
		地方公共団体補助金	6, 462, 000	6, 462, 000	0
		その他の補助金	76, 171	76, 171	0
		付随事業収入	32, 400, 000	32, 682, 200	△ 282, 200
		補助活動収入	0	282, 200	△ 282, 200
		受託事業収入	32, 400, 000	32, 400, 000	0
		雑収入	55, 310, 759	81, 189, 251	△ 25, 878, 492
		施設設備利用料	98, 000	5, 611, 780	△ 5, 513, 780
		その他の雑収入	687, 788	831, 431	△ 143, 643
		退職手当給付金	54, 524, 971	74, 533, 540	△ 20, 008, 569
		徴収不能引当金戻入	0	212, 500	△ 212, 500
教育活動収入計		1, 506, 730, 130	1, 530, 847, 622	△ 24, 117, 492	
収 支	事 業 活 動 支 出 の 部	人件費	956, 321, 186	994, 376, 463	△ 38, 055, 277
		教員人件費	680, 791, 579	693, 582, 034	△ 12, 790, 455
		職員人件費	158, 245, 321	162, 280, 533	△ 4, 035, 212
		役員報酬	46, 427, 617	47, 371, 348	△ 943, 731
		退職金	54, 245, 921	74, 531, 800	△ 20, 285, 879
		退職給与引当金繰入額	16, 610, 748	16, 610, 748	0
		教育研究経費	433, 138, 196	439, 365, 017	△ 6, 226, 821
		消耗品費	15, 442, 434	15, 977, 884	△ 535, 450
		光熱水費	37, 778, 492	39, 402, 199	△ 1, 623, 707
		旅費交通費	4, 080, 869	3, 927, 946	152, 923
		奨学費	12, 350, 000	10, 850, 000	1, 500, 000
	車両費	1, 977, 965	2, 155, 308	△ 177, 343	
	福利費	7, 126, 947	7, 105, 946	21, 001	
	教員研修費	25, 527, 733	21, 725, 481	3, 802, 252	
	通信運搬費	3, 931, 711	3, 772, 718	158, 993	
	印刷製本費	8, 539, 079	8, 229, 662	309, 417	
	出版物費	1, 392, 612	1, 373, 489	19, 123	
	修繕費	12, 855, 087	12, 135, 207	719, 880	
	損害保険料	3, 084, 230	3, 084, 230	0	
	賃借料	18, 247, 886	15, 317, 574	2, 930, 312	
	環境整備費	29, 988	20, 593	9, 395	

		諸会費	1,750,200	1,763,200	△	13,000
		会議費	240,936	208,607		32,329
		行事費	2,448,886	2,119,750		329,136
		報酬委託手数料	101,991,652	100,703,249		1,288,403
		実習費	52,201,054	52,225,372	△	24,318
		寄付金	1,354,000	1,354,000		0
		学生活動補助金	3,668,298	3,328,558		339,740
		雑費	355,521	246,251		109,270
		減価償却額	116,762,616	132,337,793	△	15,575,177
		管理経費	84,248,230	84,612,615	△	364,385
		消耗品費	1,064,854	1,137,102	△	72,248
		光熱水費	1,873,751	2,478,997	△	605,246
		旅費交通費	2,502,923	2,748,471	△	245,548
		車両費	1,168,418	1,006,621		161,797
		福利費	2,176,380	2,214,764	△	38,384
		通信運搬費	641,016	646,732	△	5,716
		印刷製本費	29,052	29,052		0
		出版物費	93,000	94,134	△	1,134
		修繕費	2,044,109	1,915,305		128,804
		損害保険料	151,050	151,050		0
		賃借料	6,779,119	6,465,743		313,376
		公租公課	922,770	924,120	△	1,350
		諸会費	2,529,610	2,478,260		51,350
		会議費	218,140	208,133		10,007
		報酬委託手数料	11,456,155	11,740,240	△	284,085
		広報費	46,948,727	47,869,978	△	921,251
		渉外費	2,431,702	2,258,462		173,240
		雑費	74,454	69,454		5,000
		補助活動支出	0	8,208	△	8,208
		減価償却額	1,143,000	167,789		975,211
		教育活動支出計	1,473,707,612	1,518,354,095	△	44,646,483
		教育活動収支差額	33,022,518	12,493,527		20,528,991

		科 目	予 算	決 算	差 異
	事業収入の動部	受取利息・配当金	22,893	30,545	△ 7,652
		その他の受取利息・配当金	22,893	30,545	△ 7,652
		教育活動外収入計	22,893	30,545	△ 7,652
	事業支出の動部	借入金等利息	5,924,732	5,285,135	639,597
		借入金利息	5,924,732	5,285,135	639,597
		教育活動外支出計	5,924,732	5,285,135	639,597
		教育活動外収支差額	△ 5,901,839	△ 5,254,590	△ 647,249
		経常収支差額	27,120,679	7,238,937	19,881,742
		科 目	予 算	決 算	差 異
	事業収入の動部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	0	4,801,680	△ 4,801,680
		過年度修正額	0	4,801,680	△ 4,801,680
		特別収入計	0	0	0
	事業支出の動部	資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	0	0
		特別収支差額	0	4,801,680	△ 4,801,680

〔予備費〕			
基本金組入前当年度収支差額	27,120,679	12,040,617	15,080,062
基本金組入額合計	△ 125,273,398	△ 35,122,240	△ 90,151,158
当年度収支差額	△ 98,152,719	△ 23,081,623	△ 75,071,096
前年度繰越収支差額	△ 1,810,324,000	△ 1,864,937,233	54,613,233
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,908,476,719	△ 1,888,018,856	△ 20,457,863

事業活動収入計	1,506,753,023	1,535,679,847	△ 28,926,824
事業活動支出計	1,479,632,344	1,523,639,230	△ 44,006,886

事業活動全体の収支として、事業活動収入計は、予算と比較して 28,926,824 円増の 1,535,679,847 円、事業活動支出計は 44,006,886 円増の 1,523,639,230 円となった。

活動区分ごとの予算との比較における主な要因は以下のとおりである。

（教育活動収支：収入の部）

資金収支計算書と共通のため省略する。

（教育活動収支：支出の部）

- 1 人件費は、教員人件費、職員人件費、退職金等の増により、全体では 38,055,277 円支出増の 994,376,463 円となった。
- 2 教育研究経費は、光熱水費、減価償却額等の増や、他の科目の支出減により、全体で 6,226,821 円支出増の 439,365,017 円であった。
- 3 管理経費は、光熱水費、広報費などの支出増はあったが、他の科目の支出減により、全体で 364,385 円支出増の 84,612,615 円となった。

（教育活動外収支）

収入の部は、普通預金等による受取利息 30,545 円の収入があり、支出の部は、市中金融機関からの借入に伴う支払利息 5,285,135 円の支出であった。この結果、教育活動外収支差額は、△5,254,590 円となった。

（経常収支差額）

教育活動収支差額および教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、予算より 19,881,742 円減少したが、7,238,937 円の収入超過額であった。

（特別収支）

その他の特別収入として、過年度修正額 4,801,680 円であった。

（全体の収支）

基本金組入額は、予算対比 90,151,158 円減少の 35,122,240 円となった。

以上により、当年度収支差額は△23,081,623 円となり、翌年度繰越収支差額は、予算の支出超過額見込額より 20,457,863 円減少の△1,888,018,856 円となった。

表5-4-①-c

《貸借対照表》

貸借対照表は、当該会計年度末（3月31日）における財産状態（資産、負債、純資産の状況）を表す。

貸 借 対 照 表

平成30年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	平成29年度末	平成28年度末	増 減
固定資産	3,467,742,515	3,554,316,386	△ 86,573,871
有形固定資産	3,404,532,575	3,514,405,485	△ 109,872,910
土 地	815,708,652	815,708,652	0
建 物	2,185,287,558	2,261,453,568	△ 76,166,010
構築物	26,673,625	27,661,537	△ 987,912
教育研究用機器備品	182,085,595	220,529,965	△ 38,444,370
管理用機器備品	1,042,629	1,364,350	△ 321,721
図 書	188,866,848	180,151,281	8,715,567
車 両	4,867,668	7,536,132	△ 2,668,464
その他の固定資産	63,209,940	39,910,901	23,299,039
電話加入権	2,024,904	2,024,904	0
施設利用権	7,000,000	7,000,000	0
出資金	2,050,000	2,050,000	0
収益事業元入金	52,135,036	28,835,997	23,299,039
流動資産	1,309,621,012	1,373,665,998	△ 64,044,986
現金預金	1,225,120,611	1,263,998,226	△ 38,877,615
未収入金	81,579,095	106,197,467	△ 24,618,372
前払金	2,794,764	3,464,305	△ 669,541
立替金	126,542	0	126,542
仮払金	0	6,000	△ 6,000
資産の部合計	4,777,363,527	4,927,982,384	△ 150,618,857
負債の部			
科 目	平成29年度末	平成28年度末	増 減
固定負債	253,832,493	334,331,757	△ 80,499,264
長期借入金	115,417,000	210,661,000	△ 95,244,000
長期未払金	16,933,110	17,028,762	△ 95,652
退職給与引当金	121,482,383	106,641,995	14,840,388
流動負債	924,749,446	1,006,909,656	△ 82,160,210
短期借入金	101,155,000	99,504,000	1,651,000
未払金	111,965,438	160,251,774	△ 48,286,336
前受金	680,694,000	726,710,000	△ 46,016,000
預り金	30,935,008	20,443,882	10,491,126
負債の部合計	1,178,581,939	1,341,241,413	△ 162,659,474
純資産の部			
基本金	5,486,800,444	5,451,678,204	35,122,240
第1号基本金	5,352,800,444	5,332,678,204	20,122,240
第4号基本金	134,000,000	119,000,000	15,000,000
繰越収支差額	△1,888,018,856	△1,864,937,233	△ 23,081,623
翌年度繰越収支差額	△1,888,018,856	△1,864,937,233	△ 23,081,623
純資産の部合計	3,598,781,588	3,586,740,971	12,040,617
負債および純資産の部合計	4,777,363,527	4,927,982,384	△ 150,618,857

I 資産の部

資産の部は、前年度末対比 150,618,857 円減少の 4,777,363,527 円となった。

主な要因は以下のとおりである。

1 固定資産

- (1) 有形固定資産においては、建物当期減価償却額 76,166,010 円の減少があった。

教育研究用機器備品は、当期取得の日本医療大学看護学科 10,449,540 円、日本医療大学診療放射線学科 11,445,300 円であるが、学校法人会計から収益事業会計へ 19,166,893 円の移管および減価償却により前年度末対比円減少の 182,085,595 円であった。

その他の機器備品は、減価償却額による 321,721 円減少により 1,042,629 円であった。

図書は、前年度末対比 8,715,567 円増加の 188,866,848 円であった。

車両は、減価償却額による 2,668,464 円減少により 4,867,668 円であった。

以上により、有形固定資産の部合計は、前年度末対比 109,872,910 円減少の 3,404,532,575 円となった。

- (2) その他の固定資産は、前年度末対比 23,299,039 円増加の 63,209,940 円であった。

主な要因は、収益事業元入金が 23,299,039 円増加したことによる。

この結果、固定資産全体では、前年度末対比 86,573,871 円減少の 3,467,742,515 円となった。

2 流動資産

現金預金は、前年度末対比 38,877,615 円減少の 1,225,120,611 円となった。

未収入金は、前年度末対比 24,618,372 円減少の 81,579,095 円となったが、内訳の主なものとして、社団法人北海道私立専修学校連合会交付金の 53,416,500 円がある。

II 負債の部

負債の部は、前年度末対比 162,659,474 円減少の 1,178,581,939 円となった。主な要因は以下のとおりである。

- (1) 固定負債では、長期借入金が 95,244,000 円、長期未払金が 95,652 円の減少、退職給与引当金が 14,840,388 円の増加となり、前年度末対比 80,499,264 円減少の 253,832,493 円であった。
- (2) 流動負債では、短期借入金 1,651,000 円、預り金 10,491,126 円の増加となったが、未払金 48,286,336 円、前受金が 46,016,000 円減少となり、前年度末対比 82,160,210 円減少の 924,749,446 円であった。

III 純資産の部

純資産の部では、第 1 号基本金において、建物・土地に係る借入金返済による組入高 38,830,000 円、機器備品に係る未払金支払いによる組入高 8,749,601 円、教育研究用機器備品取得による組入高 4,659,336 円、収益事業会計へ移管による取崩高 19,166,893 円、図書組入高 6,645,889 円などがあり、総額 20,122,240 円増加の 5,352,800,444 円を計上している。

第 4 号基本金は、組入高 15,000,000 円増加の 134,000,000 円を計上している。

以上により、純資産の部合計は、当該会計年度末 3,598,781,588 円となった。

表5-4-①-d

財 産 目 録

(平成30年3月31日現在)

I	資産総額	4,826,503,119 円
内	1 基本財産	3,404,421,575 円
	2 運用財産	1,320,695,916 円
	3 収益事業用財産	101,274,628 円
II	負債総額	1,246,077,883 円
内	〔収益事業の負債〕	67,495,944 円
III	正味財産	3,580,425,236 円

I 資産総額		4,826,503,119 円
1 基本財産		3,404,532,575 円
土地	31,314 m ²	815,708,652 円
建物	20,844.18 m ³	2,185,287,558 円
構築物		26,673,625 円
教育用研究機器備品	2,958 点	182,085,595 円
管理用機器備品	19 点	1,042,629 円
図書	34,003 冊	188,866,848 円
車両	2 台	4,867,668 円
2 運用財産		1,320,695,916 円
預貯金・現金		1,225,120,611 円
未収入金		81,579,095 円
前払金		2,794,764 円
電話加入権		2,024,904 円
施設利用権		7,000,000 円
出資金 立替金		2,050,000 円 126,542 円
3 収益事業用財産		101,274,628 円
土地	1,392 m ²	19,644,959 円
電話加入権		229,320 円
ソフトウェア		154,203 円
工具機器及び備品		5,486,048 円
預貯金・現金		64,579,382 円
未収入金		664,826 円
預け金		10,515,890 円
II 負債総額		1,246,077,883 円
1 固定負債		253,832,493 円
長期借入金		115,417,000 円
長期未払金		16,933,110 円
退職給与引当金		121,482,383 円
2 流動負債		924,749,446 円
短期借入金		101,155,000 円
未払金		111,965,438 円
前受金		680,694,000 円
預り金		30,935,008 円
〔3 収益事業用負債〕		67,495,944 円
流動負債		67,495,944 円
正味財産(資産総額－負債総額)		3,580,425,236 円

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学の会計処理については、学校法人会計基準に準拠し、「学校法人日本医療大学経理規程」及び「同規程取扱細則」に定める基準により正確かつ迅速に処理を行っている。

会計処理に疑問がある場合は監査法人、日本私立学校振興・共済事業団経営相談センター等とその都度指導・助言をいただき、適切な会計処理に努めている。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、監査法人による監査、監事による監査、内部監査室による監査を実施している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学では、平成26年4月に日本医療大学自己点検評価委員会規程を制定し、委員会が発足した。同規程では、委員会は報告書の作成に関すること、評価結果の公表に関すること等を審議し、必要に応じてその進捗状況等を教授会に報告することとされている。委員会は各学科長および各学科から選出された教員、事務局長および事務局職員で構成され、委員長は学長が任命し、委員長は、点検評価の進捗状況を学長に適時報告するとされている。

委員会は、本学の教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行い、報告書を作成し公表している。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

自己点検評価委員会は、毎月第4水曜日の教授会終了後の開催を定例としており、必要に応じて逐次開催している。議案のない月は休会とし、平成29年度は11回開催した。

委員会は、自己点検評価報告書として日本医療大学年報を編纂し、発刊するとともにホームページ上に公表している。また、「教員の自己点検評価制度」に基づき各教員に自己点検評価表の提出を求め、匿名化し整理した結果を年報及びホームページに掲載、公表している。「7-2. 教員の自己点検・評価」に掲載している。

6-2-② IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析

本学にはIR機関は設置されていないが、今後、学生に係わる調査データを集約的に収集するために、IR機関の設置及びその機能について整備していく予定である。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性

本学自己点検評価委員会では、各委員会の運営については、運営計画書と活動報告書により状況を把握し、組織・運営の見直し等PDCAサイクルを取り入れた取り組みを実施している。また、公益財団法人日本高等教育評価機構が発信する「大学機関別認証評価判断例」を参考に本学の状況を照合したが、喫緊に改善を要する課題はなかった。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

委員会・委員長名	日本医療大学認知症研究所 所長：傳野隆一学長
構 成 員	対馬輝美研究員、高橋光彦研究員、林美枝子研究員、八田達夫研究員、浅井さおり研究員、東海林哲郎研究員、田村素子研究員、小林孝広研究員、荒木めぐみ研究員、錢本隆行研究員 事務局：杉原章仁、松岡裕子、錢本隆行
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
1. 研究事業	
1-1 アスパラ抽出物（ETAS）の研究 成果について報告	平成29年7月9日 統合医療機能性食品国際学会第25回年会「認知症に対するETASの臨床効果について」をタイトルに、錢本研究員がこれまでの研究成果について報告した。
1-2 ニッセイ財団助成研究	平成29年4月 第1年度中間報告書を作成、提出した。 平成29年10月31日 第76回日本公衆衛生学会総会「小規模多機能型居宅介護を利用する認知症患者の家族介護者における介護と就労研究」をタイトルに、林研究員がこれまでの調査結果について口演した。
1-3 （株）クオリとの受託研究	平成30年2月から、「小規模多機能型居宅介護事業のサービス内容の作用効果分析と戦略」に関する介入調査を開始した。 （株）クオリから研究の委託を受け、八田研究員を中心に、認知症高齢者のための「理想的な住居」の開発を目指し、研究を継続中。
2. 普及事業	
2-1 認知症サポーター養成講座受け入れ	看護学科1年80人、リハビリテーション学科1年80人、診療放射線学科1年50人を対象に実施した。 平成29年5月11日～11月20日までの11回にわたって、北海道警察学校初任科約500人を対象に、実施した。
3. 次年度へ向けて	
3-1 認知症研究の促進	高名な研究者を外部研究員として招き、研究所主催の講演会を開催する。 ニッセイ財団の実践課題研究について最終報告書を提出する。
3-2 普及啓発活動	認知症サポーター養成講座を開催する。 これまでの調査をホームページ上に公表する。
3-3 外部連携	アミノアップ化学とETASの認知症に対する有効性について、二重盲検クロスオーバー試験を実施する。

7-2. 教員の自己点検・評価

1. 教員の自己点検・評価制度

本学では以下のように教員の自己点検・評価を行っている。

(1) 制度の目的

教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的とする。

(2) 対象者

日本医療大学の全教員を対象とする。

(3) 自己点検・評価における基本方針

- ① 自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とする。
- ② 教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表（以下、「評価表」という。（別表）に記入し、上司と協議の上、同意を得る。同表に、年度目標に対する成果等を記入し、上司と面談の上、自己点検・評価結果を確定する。

(4) 自己点検・評価結果の使途

- ① 自己点検・評価結果は、次年度の年度目標作成時の参考とする。
- ② 教員の顕彰時の資料とする。
- ③ 昇任審査時の資料とする。

(5) 自己点検・評価の実施方法

- ・ 3月15日まで 評価表に次年度目標を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と協議
- ・ 3月 末日まで 次年度目標を確定
- ・ 2月15日まで 評価表に成果等を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と面談
- ・ 2月 末日まで 自己点検・評価結果を確定

(6) 上司とは

看護学科においては、分野の教授を、分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

リハビリテーション学科においては、専攻長を、専攻に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

学科長の上司は、学部長とする。

学部長の上司は、学長とする。

(7) 職階別各分野重み付けの目安（但し、上司と協議の上、決定する）

表 7 - 2 - ① - a 教員の自己点検・評価制度

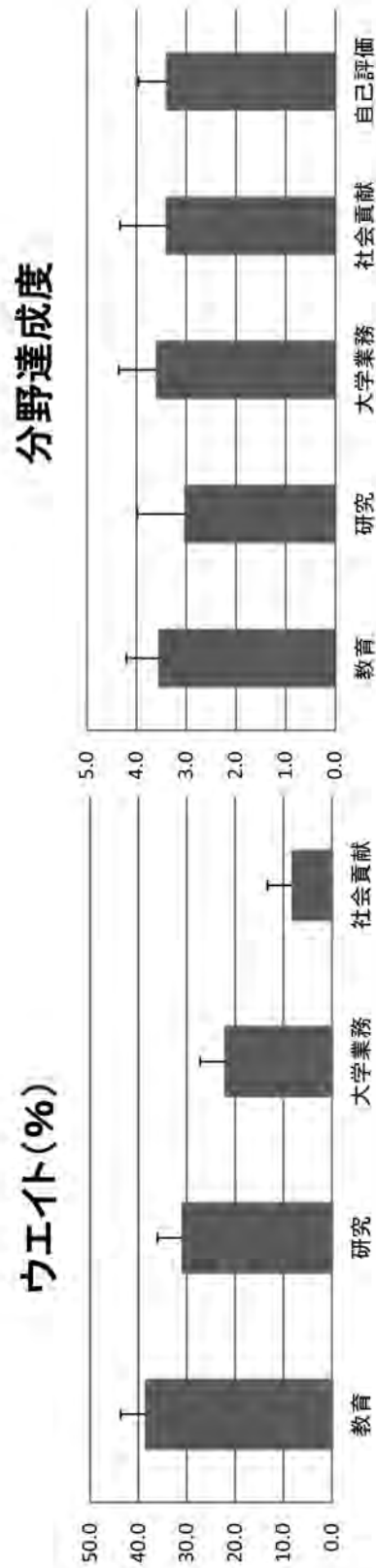
	教 育 (%)	研 究 (%)	大学業務 (%)	社会貢献 (%)
教 授	30～40	20～30	15～40	5～20
准 教 授	35～50	40～50	10～30	0～15
講 師	35～50	40～60	10～30	0～10
助教・助手	30～40	40～60	10～20	0～5

(8) 結果の公表

匿名化した評価表を、分野達成度及び自己評価を統計学的処理し、結果（表 7 - 2 - a から表 7 - 2 - g）をホームページ等に公表する。

表 7 - 2 - a

結果1(全教員)



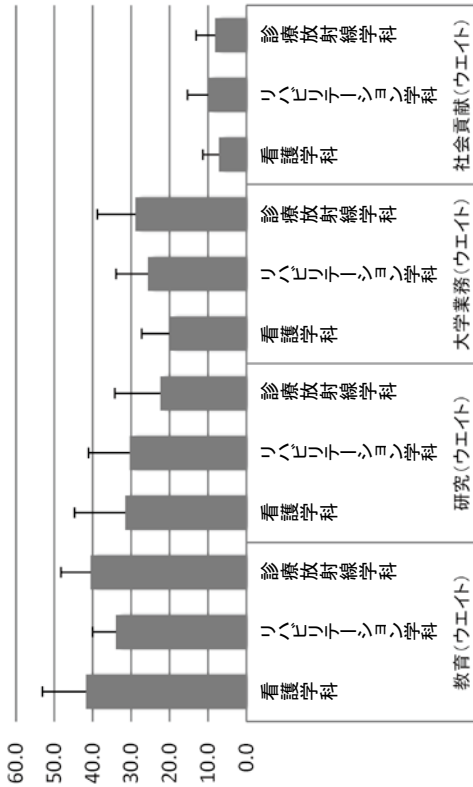
	ウェイト(%)				分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	38.7	31.1	22.2	8.3	3.6	3.0	3.6	3.4	3.4
SD	10.2	12.1	8.0	4.8	0.6	1.0	0.8	0.9	0.6
最大値	80	50	40	20	5	5	5	5	4
最小値	20	0	10	0	2	1	2	2	2
中央値	40	30	20	5	4	3	4	3	3

n=47

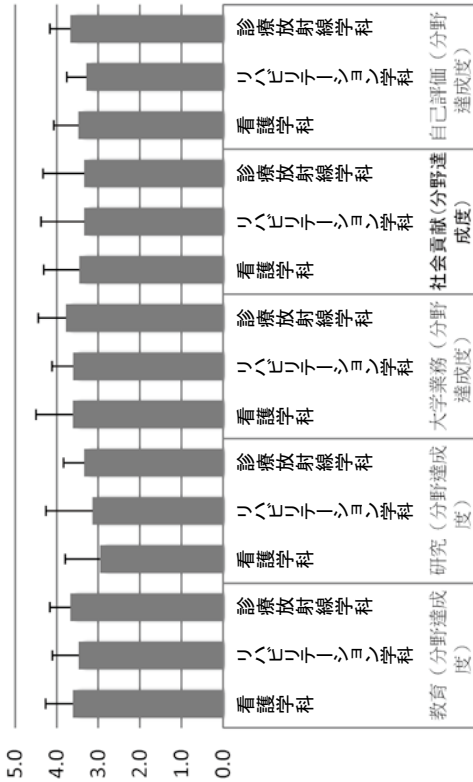
表 7-2-b

結果2(学科別)

ウェイト(%)



分野達成度



	教育(ウェイト)		研究(ウェイト)		大学業務(ウェイト)		社会貢献(ウェイト)	
	看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科
平均	41.7	34.0	31.5	30.3	20.0	25.7	7.2	10.0
SD	11.3	6.0	13.2	10.8	7.2	8.2	4.2	5.3
最大値	80	40	50	40	40	40	20	20
最小値	30	20	0	10	10	10	0	5
中央値	40	35	30	30	20	25	5	10

教育(分野達成度)		研究(分野達成度)		大学業務(分野達成度)		社会貢献(分野達成度)	
看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科	看護学科	リハビリテーション学科
平均	3.6	3.5	3.0	3.1	3.6	3.5	3.3
SD	0.7	0.6	0.8	1.1	0.5	0.9	0.5
最大値	5	4	4	5	5	5	4
最小値	2	2	1	1	2	2	2
中央値	4	4	3	3	4	3	3

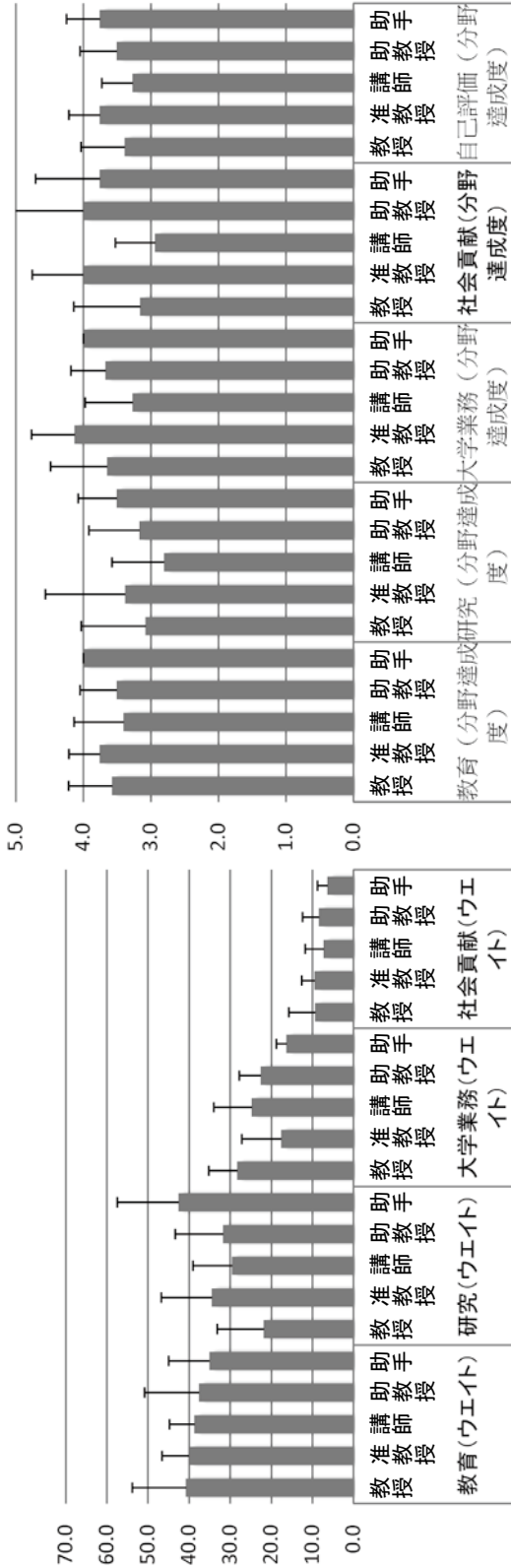
看護学科:n=23 リハビリテーション学科:n=15 診療放射線学科:n=9

表 7 - 2 - c

結果3(職階別)

ウエイト(%)

分野達成度



	教育(ウエイト)				研究(ウエイト)				大学業務(ウエイト)				社会貢献(ウエイト)			
	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	40.7	40.0	38.7	37.5	35.0	21.8	34.4	29.5	31.7	42.5	16.3	22.5	17.5	24.7	9.4	7.2
SD	13.1	6.5	6.1	13.3	10.0	11.4	12.4	9.6	11.7	15.0	9.3	5.2	9.6	9.3	3.2	4.5
最大値	80	50	50	60	50	40	50	40	40	50	20	30	40	20	15	20
最小値	30	35	30	20	30	0	10	2	10	20	15	10	10	15	0	5
中央値	40	38	40	38	30	23	35	30	35	50	15	23	15	5	10	5

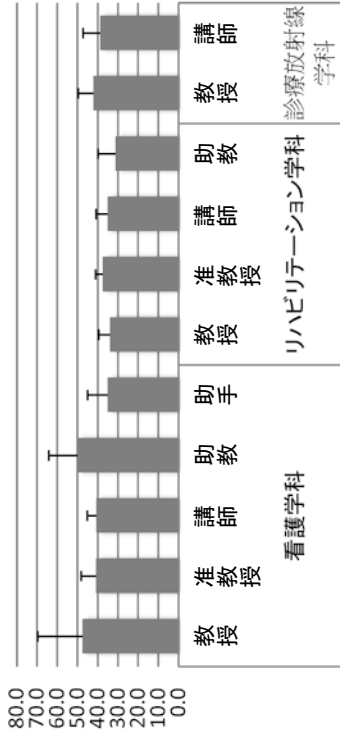
	教育(分野達成度)				研究(分野達成度)				大学業務(分野達成度)				社会貢献(分野達成度)			
	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.6	3.8	3.4	3.5	4.0	3.1	3.4	2.8	3.2	3.5	4.0	3.7	4.0	3.2	4.0	3.8
SD	0.6	0.5	0.7	0.5	0.0	1.0	1.2	0.8	0.8	0.6	0.7	0.5	0.0	1.0	0.8	1.1
最大値	4	4	5	4	4	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5
最小値	2	3	2	3	4	1	1	2	2	3	2	3	2	3	2	3
中央値	4	4	3	4	4	3	4	3	3	4	4	4	4	3	4	4

教授: n=14 准教授: n=8 講師: n=15 助教: n=6 助手: n=4

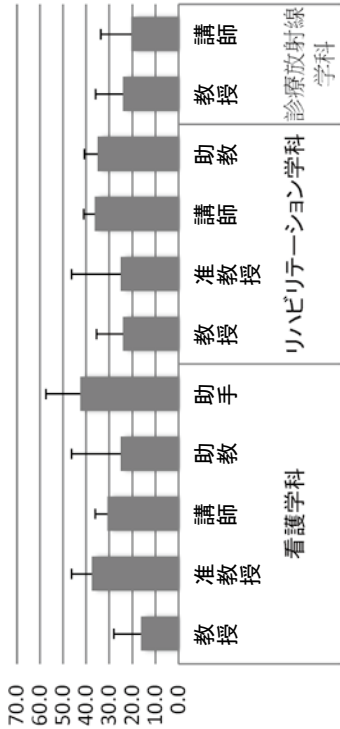
表 7 - 2 - d

結果4-1(学科・職階別：ウエイト)

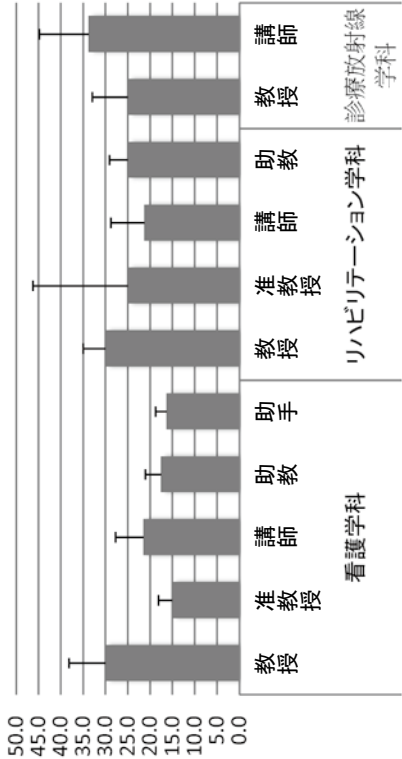
教育(ウエイト)



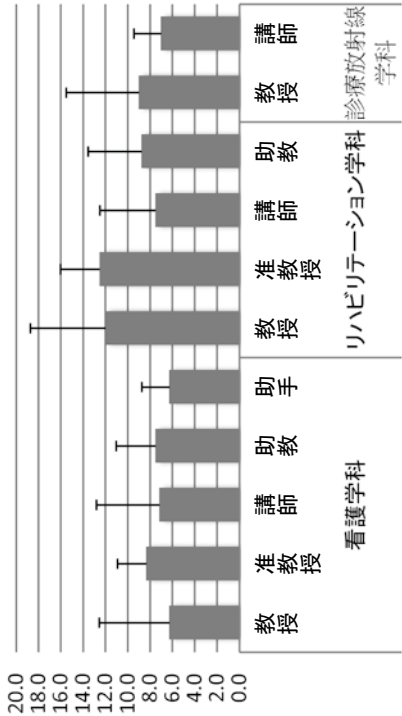
研究(ウエイト)



大学業務(ウエイト)



社会貢献(ウエイト)



看護学科 教授:n=4 准教授:n=6 講師:n=7 助教:n=2 助手:n=4
リハビリテーション学科 教授:n=5 准教授:n=2 講師:n=4 助教:n=4
診療放射線学科 教授:n=5 講師:n=4

結果 4-2 (学科・職階別：ウエイト)

	教育 (ウエイト)									
	看護学科					リハビリテーション学科				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	診療放射線学科 教授 講師
平均	47.5	40.8	40.7	50.0	35.0	34.0	37.5	35.0	31.3	42.0 38.8
SD	22.2	7.4	4.5	14.1	10.0	5.5	3.5	5.8	8.5	7.6 8.5
最大値	80	50	50	60	50	40	40	40	40	50 50
最小値	30	35	35	40	30	30	35	30	20	35 30
中央値	40	38	40	50	30	30	38	35	33	40 38

	研究 (ウエイト)									
	看護学科					リハビリテーション学科				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	診療放射線学科 教授 講師
平均	16.3	37.5	30.7	25.0	42.5	24.0	25.0	36.3	35.0	24.0 20.5
SD	11.8	8.8	5.3	21.2	15.0	11.4	21.2	4.8	5.8	11.9 13.2
最大値	25	50	35	40	50	40	40	40	40	40 30
最小値	0	30	20	10	20	10	10	30	30	10 2
中央値	20	35	30	25	50	20	25	38	35	25 25

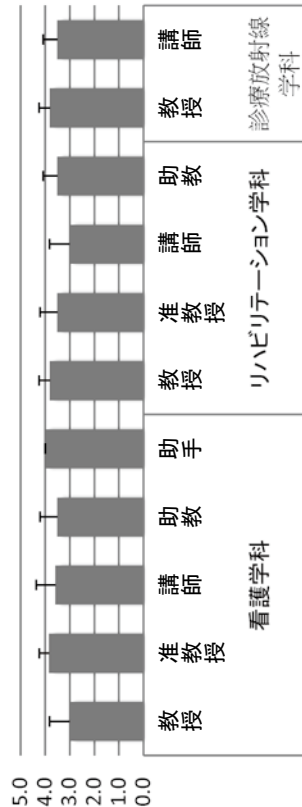
	大学業務 (ウエイト)									
	看護学科					リハビリテーション学科				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	診療放射線学科 教授 講師
平均	30.0	15.0	21.4	17.5	16.3	30.0	25.0	21.3	25.0	25.0 33.8
SD	8.2	3.2	6.3	3.5	2.5	5.0	21.2	7.5	4.1	7.9 11.1
最大値	40	20	30	20	20	35	40	30	30	35 50
最小値	20	10	10	15	15	25	10	15	20	15 25
中央値	30	15	20	18	15	30	25	20	25	25 30

	社会貢献 (ウエイト)									
	看護学科					リハビリテーション学科				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	診療放射線学科 教授 講師
平均	6.3	8.3	7.1	7.5	6.3	12.0	12.5	7.5	8.8	9.0 7.0
SD	6.3	2.6	5.7	3.5	2.5	6.7	3.5	5.0	4.8	6.5 2.4
最大値	15	10	20	10	10	20	15	15	15	20 10
最小値	0	5	5	5	5	5	10	5	5	5 5
中央値	5	10	5	8	5	15	13	5	8	5 7

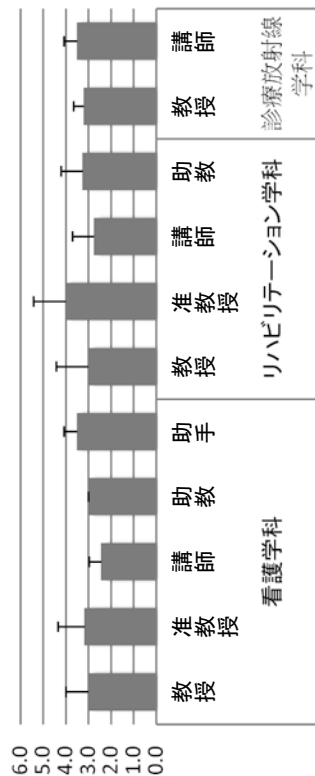
表 7-2-f

結果5-1(学科・職階別：分野達成度)

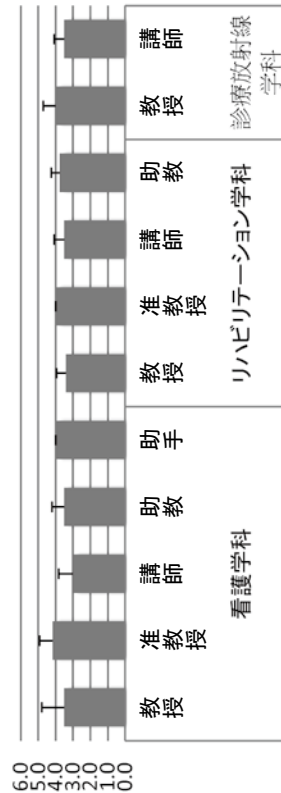
教育(達成度)



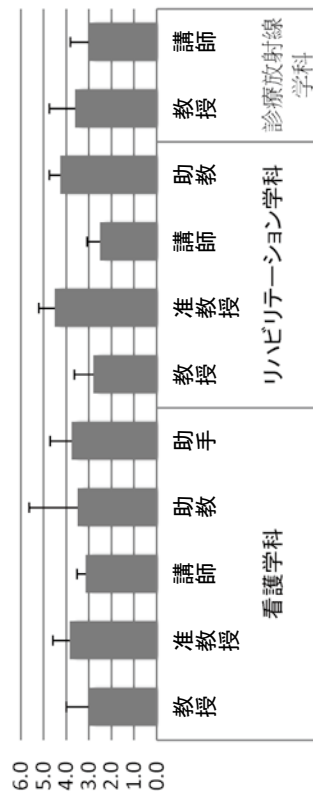
研究(達成度)



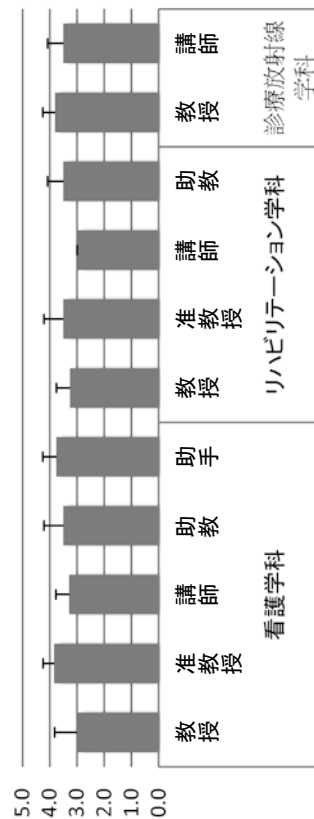
大学業務(達成度)



社会貢献(達成度)



自己評価



看護学科 教授:n=4 准教授:n=6 講師:n=7 助教:n=2 助手:n=4
 リハビリテーション学科 教授:n=5 准教授:n=2 講師:n=4 助教:n=4
 診療放射線学科 教授:n=5 講師:n=4

表7-2-g

結果5-2(学科・職階別：分野達成度)

教育(達成度)									
	看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教
平均	3.0	3.8	3.6	3.5	4.0	3.8	3.5	3.0	3.5
SD	0.8	0.4	0.8	0.7	0.0	0.4	0.7	0.8	0.6
最大値	4	4	5	4	4	4	4	4	4
最小値	2	3	3	3	4	3	3	2	3
中央値	3	4	3	4	4	4	4	3	4

研究(達成度)									
	看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教
平均	3.0	3.2	2.4	3.0	3.5	3.0	4.0	2.8	3.3
SD	1.0	1.2	0.5	0.0	0.6	1.4	1.4	1.0	1.0
最大値	4	4	3	3	4	5	5	4	4
最小値	2	1	2	3	3	1	3	2	2
中央値	3	4	2	3	4	3	4	3	4

大学業務(達成度)									
	看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教
平均	3.5	4.2	3.0	3.5	4.0	3.4	4.0	3.5	3.8
SD	1.3	0.8	0.8	0.7	0.0	0.5	0.0	0.6	0.5
最大値	5	5	4	4	4	4	4	4	4
最小値	2	3	2	3	4	3	4	3	3
中央値	4	4	3	4	4	3	4	4	4

社会貢献(達成度)									
	看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教
平均	3.0	3.8	3.1	3.5	3.8	2.8	4.5	2.5	4.3
SD	1.0	0.8	0.4	2.1	1.0	0.8	0.7	0.6	0.5
最大値	4	5	4	5	5	4	5	3	5
最小値	2	3	3	2	3	2	4	2	4
中央値	3	4	3	4	4	3	5	3	4

自己評価									
	看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教
平均	3.0	3.8	3.3	3.5	3.8	3.3	3.5	3.0	3.5
SD	0.8	0.4	0.5	0.7	0.5	0.5	0.7	0.0	0.6
最大値	4	4	4	4	4	4	4	3	4
最小値	2	3	3	3	3	3	3	3	3

2. 教員の自己点検評価表のまとめに対するコメント

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職階別に重み付けの目安を設定している。それをもとに個々人はウエイト（％）や具体的な目標を設定し、それに対する成果を報告し、達成度＊を評価5から評価1の5段階で自己評価した。その結果と分析を行ったので公表する。結果は結果1から5までを図表で示し、分析については特記事項のみを記載した。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイト設定における全教員の平均38.7％、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。研究のウエイト設定に対する平均は31.1％、それに対する分野達成度の平均は3.0の評価であった。大学業務のウエイト設定に対する平均は22.2％、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。社会貢献のウエイト設定に対する平均は8.3％、それに対する分野達成度の平均は3.4の評価であった。ここで、ウエイト設定で教育に対するウエイトが高く（最大値80％）、研究のウエイトが低い（最小値0％）教員、反対に教育に対するウエイトが低く（最小値20％）研究のウエイトが高い（最大値50％）教員が存在することが印象的であった。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。看護学科の教員は教育と研究に対するウエイトが3学科の中で一番高く、診療放射線学科の教員は大学業務のウエイトが高く、リハビリテーション学科では社会貢献に対するウエイトが高いことが明らかとなった。

職階別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定は教授が最も高く、准教授・講師・助教・助手の順に高い傾向が伺われた。それに対し研究へのウエイト設定は逆に助手が最も高く、次に准教授・助教・講師・教授の順に高かった。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定は准教授と教授が高かった。

学科・職階別のウエイト設定を結果4に示す。看護学科の教育に対するウエイト設定は助教が50.0％と高く、研究では看護学科の准教授が37.5％、リハビリテーション学科の講師が36.3％、助教が35.0％と高い傾向であった。大学業務では看護学科とリハビリテーション学科では教授が30.0％と高く、診療放射線学科では講師が33.8％と高い結果であった。ここで、診療放射線学科の教員構成が教授と講師のみで准教授や助教・助手がいないのも関係があるかもしれない。社会貢献ではリハビリテーション学科の教授と准教授のウエイトが高いことが印象的であった。

学科・職階別の分野達成度を結果5に示す。研究では看護学科の講師が2.4、リハビリテーション学科の講師が2.8と少し目標を達成できなかったようである。社会貢献ではリハビリテーション学科の准教授が4.5と目標を上回る成果があり、講師が2.5で教授が2.8と目標を少し達成できなかったようである。

＊達成度

評価5：目標を大きく上回る成果があった

評価4：目標を上回る成果があった

評価3：目標を達成できた

評価2：目標を少し達成できなかった

評価1：目標をほとんど達成できなかった

8. 社会貢献

社会貢献活動として、平成29年度は以下のように生涯学習講座を開講した。

表 8 - a 平成29年度 生涯学習講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数
平成29年 5 月27日	札幌市	健康と運動 ～充実した毎日を過ごすために	乾 公美	39人
平成29年 6 月10日	札幌市	放射線の ABC と病院での放射線検査エトセトラ	樋口健太	19人
平成29年 7 月15日	札幌市	笑いの威力は素晴らしい	並川聖子	25人
平成29年 8 月26日	札幌市	人と車いすの科学 ～より楽に座るために	八田達夫	25人
平成29年 9 月30日	札幌市	知っていますか？ 正しい手洗いの方法	藤長すが子	14人
平成29年10月28日	札幌市	意外と知らない、光の効果 ～太陽光をうまく活用しよう～	高儀郁美	15人
平成29年11月25日	札幌市	ロコモティブシンドロームとは？ ～自分の身体を知りましょう～	岡田尚美	13人
平成29年12月09日	札幌市	介護予防と健康増進 ～自分自身の健康づくり～	木原由里子	16人
平成30年 1 月27日	札幌市	よい姿勢とは？ 姿勢と肩こり・腰痛予防の関係	矢口智恵	23人
平成30年 2 月24日	札幌市	健康に生活していくために ～日常生活を見直してみよう～	岸上博俊	19人
平成30年 3 月24日	札幌市	音楽で心と体を元気にしよう！	合田恵理香	26人

9. 顕彰

学生の表彰として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の2つからなっている。平成29年度の成績をもとに、看護学科15人・リハビリテーション学科15人・診療放射線学科10人が成績優秀賞に選ばれ、平成30年4月21日に顕彰状授与式が実施された。平成29年度社会貢献賞は該当者なしであった。

10. 委員会等活動報告

保健医療学部教授会（平成29年度）

回	議案・報告事項		開催日時
01	報告事項	1 平成29年度日本医療大学各種委員会について 2 学術助成費及び教育向上研究費公募要領について	平成29年04月12日 15：30～15：55 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 山田 敦士
02	意見を求める事項 報告事項	1 日本医療大学利益相反マネジメントガイドラインについて（案） 2 退学（診療放射線学科）について 1 平成29年度 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 平成29年度 学生委員会・学友会事業計画について	平成29年04月26日 15：30～16：10 201教室 欠席者 賀来、俵 議事録署名人 浅井さおり
03	意見を求める事項 報告事項	1 入試制度の変更について 2 日本医療大学入学者選抜実施規程について 1 新理念の取り扱いについて	平成29年05月10日 15：30～16：20 201教室 欠席者 草薙、 佐々木、佐藤 議事録署名人 森口 眞衣
04	意見を求める事項 報告事項	1 保健医療学部看護学科の実習施設の変更について 1 入学と生活に関するアンケート調査の実施（案）について 2 教員の自己点検評価の公表について 3 平成29年度履修登録者数について 4 特別講師委嘱及び担当科目について	平成29年05月24日 15：30～15：55 201教室 欠席者 草薙、佐々木 議事録署名人 大堀 具視
05	意見を求める事項 報告事項	1 退学について 2 カリキュラム委員会規程の制定について 1 第4回体育大会の開催について 2 安心・安全に関する各種イベントについて 3 キャリア学修支援センター開所式について	平成29年06月14日 15：30～16：00 201教室 欠席者 岸上、 草薙、瀧、坪田 議事録署名人 村松 宰
06	報告事項	1 第3回「ナースングセレモニー 2017年の誓い」実施について 2 平成29年度ニュースレター『あずまし』15号から18号の発刊について 3 アンデルセングルメ祭り学生ボランティアの募集について 4 平成29年度学内団体（継続）一覧について 5 入学と生活に関するアンケート結果速報について 6 「『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』改正を受けて（通知）」について 7 「朝の100円定食」事業実施について	平成29年06月28日 16：00～17：05 201教室 欠席者 岸上 議事録署名人 岡田 洋子

回	議案・報告事項		開催日時
07	報告事項	1 FD研修会の実施について 2 定期試験について 3 定期試験実施要領の修正について 4 定期試験時間割（科目）について 5 再試験時間割（科目）について 6 特別講師の委嘱及び担当科目について 7 非常勤講師の委嘱について 8 追実習について 9 平成30年度入学試験要領について 10 平成29年度学術助成費・教育向上研究費の交付について 11 AC履行状況調査（実地調査報告）の実施報告について 12 平成29年度教授会日程修正について 13 図書館閉館時間延長について	平成29年07月12日 15：30～17：00 201教室 欠席者 岸上、 瀧、並川、畑瀬 議事録署名人 松本真由美
08	意見を求める事項 報告事項	1 ハラスメント防止規程改訂案について 2 日本医療大学カリキュラム委員会規程案について 1 「第4回日医祭」実施計画について 2 前期定期試験受験資格者一覧について 3 特別講師の委嘱及び担当科目について 4 研究倫理教育等の受講について	平成29年07月26日 15：30～16：10 201教室 欠席者 岸上、並川、畑瀬 議事録署名人 賀来 亨
09	意見を求める事項 報告事項	1 復学について 1 平成30年度AO入学試験実施計画について 2 定期試験受験資格者一覧について 3 看護学科「論理学」出欠の異議申し立てについて 4 定期試験の受験に伴う配慮事項について 5 平成29年度保護者懇談会実施概要について	平成29年08月09日 15：30～16：10 201教室 欠席者 草薙、 並川 議事録署名人 樋口 健太
10	意見を求める事項 報告事項	1 休学・退学について 2 看護学科の教育課程を変更する理由等について 3 診療放射線学科実習施設の変更について 4 日本医療大学同窓会設立について 1 前期定期試験の成績について 2 特別講師の委嘱及び担当科目について 3 診療放射線学科非常勤講師一覧について 4 新たな学内団体の設置認可について	平成29年09月13日 15：30～16：10 201教室 欠席者 河原田、岸上、 住吉、俵、並川 議事録署名人 林 美枝子
11	意見を求める事項 報告事項	1 休学・退学について 1 保護者懇談会の教務事項の報告について 2 平成29年度後期成績発表日の変更について 3 学年暦の中間報告について 4 第4回命を学ぶ週間のイベントについて 5 第4回日医祭最終案について 6 日本医療大学 会議体・各種委員会等担当一覧について	平成29年09月27日 15：30～16：00 201教室 欠席者 河原田、浅井 議事録署名人 岸上 博俊

回	議案・報告事項		開催日時
12	意見を求める事項 報告事項	1 休学・退学について 2 カリキュラム委員会について 1 保護者懇談会について 2 第4回日医祭について 3 第4回オープンキャンパスについて 4 次回教授会開催時間の変更について	平成29年10月11日 15:30～16:10 201教室 欠席者 浅井、佐々木、 樋口、山田 議事録署名人 八田 達夫
13	意見を求める事項 報告事項	1 退学について 1 平成29年度後期履修登録者数について 2 平成30年度推薦入学試験実施計画について 3 その他	平成29年10月25日 16:00～16:30 201教室 欠席者 浅井 議事録署名人 草薙 美穂
14	意見を求める事項 報告事項	1 休学について 2 学年暦について（再案） 1 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 非常勤講師の委嘱について 3 ホームページへの紀要目次掲載について	平成29年11月08日 15:30～15:55 201教室 欠席者 岸上、 佐々木、瀧、松本 議事録署名人 畑瀬智恵美
15	報告事項	1 平成30年度推薦入学試験（前期）の合否について 2 平成30年度推薦入学試験（後期）実施計画について 3 特別講師の委嘱及び担当科目について 4 追実習について 5 J-ALERT（弾道ミサイル発射時）作動時の対応について 6 その他	平成29年11月22日 15:30～16:10 201教室 欠席者 岸上、 浅井、佐々木、 森口 議事録署名人 小山 満子
16	意見を求める事項 報告事項	1 新入生オリエンテーションについて 1 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 実習施設変更承認申請について（看護学科）について 3 その他	平成29年12月13日 15:30～16:00 201教室 欠席者 並川、 畑瀬 議事録署名人 佐々木由紀子
17	意見を求める事項 報告事項	1 後期定期試験時間割（案）について 1 新入生オリエンテーションについて 2 特別講師委嘱の一覧について 3 平成30年度推薦入学試験（後期）の合否について 4 平成30年度一般入学試験（前期）実施計画について 5 その他 (1) 平成30年度大学入試センター試験実施について (2) 平成30年度AC履行状況実施調査について（実施報告） (3) その他（平成30年度予算編成について）	平成29年12月27日 15:30～16:20 201教室 欠席者 河原田、 瀧、村松、 森口、山田 議事録署名人 並川 聖子

回	議案・報告事項		開催日時
18	意見を求める事項 報告事項	1 履修規程の改正について 1 後期定期試験受験者一覧について 2 後期定期試験時間割について 3 第4回学生委員会セミナーについて 4 規程の改正について 5 平成30年度日本医療大学の冬期休暇期間の変更について 6 その他 (1) 他大学への出講について (2) 平成30年度の各学科並びに各委員会運営計画の作成依頼について	平成30年01月24日 15:30～16:20 201教室 欠席者 並川 議事録署名人 坪田 貞子
19	報告事項	1 追実習について 2 後期定期試験受験者一覧について 3 平成29年度 学生相談室活動報告書について 4 第4回 春期休暇スタディ・ツアー 札幌市民防災センターと JICA 見学会（案）について 5 平成30年度 一般入学試験（前期）の合否について 6 平成30年度 センター試験（前期）の合否について 7 平成29年度 特別表彰者について 8 平成30年度 生涯学習講座の講師について	平成30年02月14日 15:30～16:20 201教室 欠席者 瀧、松本 議事録署名人 佐藤 秀紀
20	意見を求める事項 報告事項	1 退学について 2 看護学科4年生の成績及び卒業要件について 1 実習施設変更承認申請について 2 第4回 春期休暇スタディ・ツアー 札幌市民防災センターと JICA 見学会について 3 平成30年度一般入学試験（後期）実施計画について 4 平成30年度学校法人日本医療大学方針説明会について	平成30年02月28日 15:30～15:50 201教室 欠席者 西山、坪田 議事録署名人 俵 紀行
21	意見を求める事項 報告事項	1 復学・休学・退学について 2 平成29年度後期成績及び進級判定について 1 平成30年度特別講師の委嘱及び担当科目について 2 実習施設の変更承認申請について 3 学年暦について（最終版） 4 その他	平成30年03月14日 15:30～16:15 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 住吉 孝
22	意見を求める事項 報告事項	1 休学・退学について 2 仮進級の可否について 1 平成30年度一般・センター入学試験（後期）の合否について 2 平成30年度 非常勤講師一覧について 3 学年暦の一部変更について（リハビリテーション学科） 4 平成30年度 各種委員会構成員について 5 平成30年度 教授会構成員及び教授会日程について 6 その他	平成30年03月28日 15:30～16:30 201教室 欠席者 西山、 賀来、住吉、瀧、 並川、畑瀬、村松 議事録署名人 高橋 光彦

教務委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 小山満子
構成員	門間教授、畑瀬教授、乾教授、高橋教授、八田教授、西山教授、俵教授、杉本講師 事務局：竹内、岡村
平成29年度 運営計画	具体的な実施内容
平成29年度 事業計画	- 教育課程に関する事項 - 定期試験及びその他の試験に関する事項 - 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 - 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 - 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 - 教育施設及び教材に関する事項 - 平成29年度年間教材等全体予算 - 平成29年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等及び予算 - 次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算 - 次年度教育施設等全体予算 - 次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成 - 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 - 学生便覧、講義要綱に関する事項 - キャンパスハンドブックの見直し - シラバスの見直し - その他教務に関する事項 - 履修規程の見直し - 医療者としての情報管理指針 - 保護者懇談会の4月・10月の教務事項 (教務事項等の報告者(教務委員長)、学科別報告) - 新入生オリエンテーションの日程と内容決定 - 在校生ガイダンスの日程調整 - オフィスアワーの調査と学生周知等
実施内容と結果	- 教育課程に関する事項 - リビリテーション学科の科目の開講時期の変更 (学習効果を高める理由により、6科目を変更) - 診療放射線学科の科目の開講時期の変更 (学習効果を高める理由により、1科目を変更) - 看護学科のカリキュラム改訂を準備し、文部科学省に申請し許可を受け、次年度から改訂とした - 看護学科のカリキュラム改訂後の旧カリキュラムと新カリキュラムの科目読み替え表などを作成した - 定期試験及びその他の試験に関する事項 - 定期試験実施要項の一部変更 - 定期試験実施要領を再検討した - 各学科に適応するための定期試験時間割を作成した - 定期試験に代わる臨時試験の早期の告知の徹底 - 定期試験に代わる臨時試験の早期の告知を徹底するために、告知の時期を試験要項に明記した - 科目責任者は、科目ガイダンス時には定期試験期間外の告知を実施するように周知した

	・臨時試験は、1ヶ月前迄の試験日時の告知も周知した ・臨地実習開始の1週間前は、教育的効果を認める以外の臨時試験を避けることを周知した
2-3.	再試験結果の掲示中止の継続 ・再試験の結果は、学生のプライバシー保護の目的で、掲示の中止とともに、試験結果は、成績表と科目責任者の責任の下で対応することを継続した
2-4.	追試験の欠席事由と提出種類について ・追試験の欠席事由と提出種類について、明記した
2-5.	成績評価についての疑義申し立て ・成績評価の疑義申し立ての時期について、明記した
3.	授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 ・各学科において、予定されていた授業担当者の一身上の都合により、一部ではあるが担当者の変更があった
4.	成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 ・成績評価は、進級要件に沿い、判定された結果、進級可能者、留年者、仮進級対象者が判定された
5.	休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項
5-1.	休学、退学、復学について ・看護学科は、各学年の休学学生と退学者が数名存在した。休学、退学等に関しては、学生担任が面談し、教務委員会で検討後、教授会で最終決定し、手続きを実施した ・休学から退学に移行する場合、学年担当者の事前面談と手続きの時期を周知する必要があった ・休学から復学する場合には、（仮進級の希望者は同時に仮進級願い出も提出）復学届を検討後に、教授会で最終決定した
6.	教育施設及び教材に関する事項
6-1.	教務委員会等の予算 ・平成29年度の年間予算については、前年度決算費との比較を行い、年度予算案を決定した ・平成29年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の年間予算については、前年度の実習指導教員・非常勤講師委嘱・変更について、各学科で予算化した ・次年度教育施設等全体予算
6-2.	初年度教育の教材・手引書 ・初年度教育に関する教材・手引書を完成し、『学修ハンドブック』として、全学生に配布した
7.	科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 ・事項なし
8.	学生便覧、講義要綱に関する事項 ・キャンパスハンドブックとシラバスの見直しを実施した
9.	その他教務に関する事項 ・履修規程の一部見直しと改正を実施した ・追実習に関して、各学科で異なる実習形態を考慮した申し合わせ事項を決定した。 ・医療者としての情報管理指針は、学部としての共有化を継続した ・保護者懇談会（4月・10月）の教務事項の説明を実施した（※教務事項等の報告者は、学科別報告の区分に変更）

	・新入生オリエンテーション内容の見直しを行った ・在校生ガイダンス時期は、各学科と調整して、日程を決定 ・オフィスアワーの調査と学生周知等を行った
次年度への課題等	1. 毎年学科新設に伴い、学部全体に沿った履修規程の見直しや改正が求められてきた。学生に不利益にならないよう校正・公平な履修規程の検討を継続する必要がある 2. 4月、10月の保護者懇談会の教務事項(学科と学部での説明内容の区別)の内容の再検討を継続する 3. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項は、履修規程等を厳守する様に、周知を継続する必要がある ・休学中の学生を担当する学年担当者は、履修規程等に沿い、学生面談（必要時の保護者面談等含む）をし、教務委員会・教授会、事務手続きの時期を考慮した対応ができるように周知する必要がある ・休学後の退学手続きが遅れる場合、除籍の対象となることを学生担任は学生に周知する対応を継続する ・退学手続きについては、特別な事情がない限り、期間内の手続きを周知して進める

学生委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 林美枝子
構成員	高橋教授、樋口教授、森口准教授、大堀准教授、向井講師、大村講師、杉本講師、小山講師 事務局：竹内・森・井上・岩城
平成29年度 運営計画	具体的な実施内容
学生委員会の通常業務（学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援）	・学生委員会を12回開催（毎月第2水曜日、教授会後）・オリエンテーション、オープンキャンパス、保護者会等での本学学生生活の説明や広報活動を、パネルやパワーポイントでその都度、更新して実施 ・キャンパスの防災に関する「災害時行動マニュアル」を印刷し、新入生に配布 ・キャンパスの保安向上に関する事項を引き続き検討、平成27度に問題化した学内での紛失物（盗難の疑いが濃いもの）に関して、今年度も昨年同様被害届の提出がなく、発生認知件数は0であった ・環境整備と学生の居場所作りとしてガーデニングや学内のイス・テーブル等の設置改善を行い、診療放射線学科棟4階の整備を継続し、学内3か所目の自由文庫を設置した ・ニュースレター「あずまし」15号から18号を合冊2回で発刊した。卒業生のために過去の「あずまし」をCDに入れて贈呈した ・「学生委員会からのお知らせ」2017-1から2017-4を発行したが、その後はポータルサイトにお知らせを添付することで対応することにした ・学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」4回を配布した ・新旧学友会本部メンバーと学生委員の交流会の実施（平成30年2月26日） ・日ごろの生活指導、及び長期休暇前の過ごし方に関する注意喚起、学生の犯罪の被害や加害、事故等への対応を実施 ・第4回学生満足度調査の実施、結果は運営委員会、教授会に提出した。学内のマイクロバスの運行やスケジュール、学食のメニューや朝食の提供、学内アルバイト情報の提供に活かされる。「あずまし」を通して学生にも結果を知らせた

	・学会ボランティア（リハビリテーション学科）、外国への車椅子の寄贈（リハビリテーション学科）、アンデルセングルメ祭り（全学）、福祉施設での茶道部活動（真栄キャンパス）、札幌市との災害ボランティア協定（全学）等のボランティアの募集、実施 ・学会ボランティア（リハビリテーション学科）、車椅子寄贈（リハビリテーション学科）、アンデルセングルメ祭り（全学）、茶道部活動（真栄キャンパス）、札幌市との災害ボランティア協定（全学）に関して、実施の支援や結果が関する学内自用法の発信等を行った ・学内、アンデルセン福祉村施設でのアルバイトの紹介を継続、現在看護の1年生が2名、授業後の就労を行っている
学生委員会主催事業（学生の生活指導や社会人となるための知識の向上）	・年金セミナー [恵み野キャンパス] リハビリテーション学科2年 6月12日（月） [真栄キャンパス] 看護学科2年 6月19日（月）対象 診療放射線学科2年（1年生含む） 6月22日（木） ・安心・安全週間 [恵み野キャンパス] 1) 警察が教える護身術（千歳警察署）；対象；リハビリテーション学科1年 6月13日（火） 2) デートDV講座「被害者にも加害者にもならないために」看護学科 林美枝子教授；対象 リハビリテーション学科1年 6月28日（水） [真栄キャンパス] 1) 警察が教える護身術（道警ASEDELチーム）対象 看護学科・診療放射線学科1年 7月6日（木） 2) 性教育講座「現在の性教育について」講師 札幌市立柏中学校 蛭名嘉津夫校長；対象 看護学科・診療放射線学科1年 7月13日（木） ・命を学ぶイベント 第4回「いのちのパネル展」[真栄キャンパス]展示期間:10月16日（月）午後～23日（月）展示会場：つしま記念ホール前 [恵み野キャンパス] 展示期間:10月23日（月）展示会場:1号館1階ラーニングコモンズ 第4回「特別講演会 命」 [真栄キャンパス] 10月16日（月）つしま記念ホール [恵み野キャンパス] 10月23日（月）大教室 「命 交通事故死遺族のその後、乗り越えるということ」講師 交通事故被害者の会 いのちのパネル展会長 小野茂 様 ・学生委員会セミナー 平成30年1月25日（真栄キャンパス）「7%のあなたへ LGBTの人権を守るための札幌市の施策的挑戦」札幌市市民文化局男女共同参画室課長 廣川衣恵氏 ・春期休暇中スタディ・バスツアー 3月2日 札幌市民防災センター、JICA訪問 参加学生7人、教員4人
学友会支援事業	・学友会主催定期行事への支援 4月22日（土）新入生歓迎会・定期総会 6月21日（水）第3回体育大会 北海道立総合体育センターメインアリーナ 7種目 参加学生280名

学内団体関連	7月3日（月） 看護学科第3回ナーシングセレモニー 9月30（金）～10月1日（土） 第4回日医祭 つしま医療福祉グループより10万円の寄付をいただき、実行委員長の学生が授与式に臨む。学生委員会からは例年通り「大学の歩み展」のパネル展示を実施。来場者数：約375人、上杉周大さんトーク & LIVE：122人、ミニ・オープン・キャンパス計31人 平成30年1月28日（テレビ会議方式で） 臨時総会実施 第5代会長リハビリテーション学科 作業療学専攻1年生、大坪篤拓さん選抜、臨時総会にて承認 ・7月末学内団体設立申請とその審査、承認、平成30年1月の募集には申請がなかった ・平成30年3月 各学内団体の活動報告書の回収 ・7月末 学内団体設置申請受付、9月末に設置認可。活動停止5団体、継続・新規あわせて23団体 ・学内団体備品の整備を実施する
学生の賞罰に関する事項	・4月22日 平成29年度年度別学生顕彰授与式挙行。各学科学年5名、合計30名に顕彰状と副賞を授与する ・年間を通しての社会貢献枠での顕彰学生推薦に関する周知を行ったが、今年度も社会貢献枠での顕彰学生の推薦はなかった ・平成30年度の顕彰学生に関する選抜を実施 ・年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜を実施、保護者会等で返済計画に配慮した貸与についての留意について説明する
国際交流、海外研修に関する事項	・JICA北海道からの各種イベントの掲示、ボランティアサークルへの情報提供、スタディ・ツアーにおける海外派遣職員と学生、教員との交流会を実施 ・ユニセフ協会の募金活動、フード・バンクフェアの実施

キャリア学修支援センター活動報告	
センター長	リハビリテーション学科 教授 八田達夫
構成員	坪田教授、草薙准教授、山田准教授、藤長講師、岡田講師、石橋講師、杉本講師、木村講師、菅原助手、萬専門員 事務局：竹内、山下
平成29年度 運営計画	実施内容・結果
1. キャリア学修支援センターの発足	1. キャリア学修支援センターの発足 当センターは平成29年4月に発足した。当センターは各学科に対応する3部門からなる。部門は教員からなる運営委員と専門員から構成される。初年度は看護学科に専門員1名が配置された。専門員は運営委員と連携し、毎月活動報告を行った。30年度はリハビリテーション学科、31年度は診療放射線学科に配置される。7月よりリメディアル教育担当として、山田准教授が運営委員に任命された。プレイスメントテスト（自己診断テスト）の原案を作成し、平成30年度入学生より実施可能となった。当センターでは、就職対策、国試対策、リメディアル教育が中心的な業務となった。今年度は発足したばかりで試行錯誤的な面もあった。平成29年度事業計画は旧就職・進路対策委員会を引きついだ。以下に学科ごとに実施内容・結果を述べる。

2. 看護学科の事業計画 1) キャリア教育 2年生キャリア教育研修（社会人教育） 2年生キャリア教育研修（専門職について） 3年生キャリア教育研修（接遇） 3年生キャリア教育研修（履歴書の書き方） 3年生キャリア教育研修（小論文の書き方） 4年生キャリア教育研修（面接指導） 2) 国家試験対策 1年生 業者模試 2年生 業者模試① 2年生 業者模試② 3年生 業者模試① 3年生 業者模試② 4年生 業者模試①国試対策講座 4年生 業者模試②国試対策講座 4年生 業者模試③国試対策講座 4年生 業者模試④国試対策講座 3. リハビリテーション学科の事業計画 1) キャリア教育 1年生 初年次教育・キャリア教育研修（コミュニケーション） 2年生 キャリア教育研修（自己分析） 3年生 キャリア教育研修（接遇） 2) 国家試験対策 2年生 国家試験模試① 3年生 国家試験模試① 3) 就職ガイドブック作成 4. 診療放射線学科の事業計画 1) キャリア教育 2年生 キャリア教育研修（社会人教育）	2. 看護学科の実施内容・結果 1) キャリア教育 キャリア教育は計画通りに実施した。その他に専門員が（1）就職支援業務、（2）相談業務、（3）インフォメーション、（4）講座実施、（5）報告、（6）大学周知活動を行った。学生のキャリア発達に有益であった。第1期生の就職希望者67名全員が就職・進学した。内訳は大学病院9名、国公立・公的病院20名、民間病院37名、また一般企業1名、大学院進学2名であった。道内54名、道外13名であった。 2) 国家試験対策 国家試験対策として、（1）模擬試験、（2）学習支援、（3）国家試験、（4）報告を実施した。特に、成績が低迷した学生には学科教員とセンター運営委員・専門員の連携のもとグループ学習、個人学習の支援を行った。その結果、国家試験では69人中、68人が合格した。合格率は98.6%であった。 3. リハビリテーション学科の実施内容・結果 1) キャリア教育 キャリア教育については事業計画通りに実施した。学生のキャリア発達に有益であった。 2) 国家試験対策 国家試験対策も事業計画通りに実施した。加えて、学科内の国試対策ワーキンググループが中心になり学担とともに2年生と3年生に年間5回の国家試験問題を使い確認テストを行った。学生は解答集を作成、グループワークを行った。結果は保護者にも通知した。平成30年度以降の4年生の国家試験対策については、学担と連携のもとキャリア学修支援センターが担うことになる。 3) 就職ガイドブック作成 就職ガイドブックは看護学科のものを修正した。次年度は3学科共通のガイドブックを作成する予定である。 4. 診療放射線学科の実施内容・結果 1) キャリア教育 キャリア教育は事業計画通りに実施した。学生のキャリア発達に有益であった。
---	--

2) 国家試験対策	2) 国家試験対策 1年次から2年次まで各学年の学力に合わせた受験対策講義を実施している。本格的な国家試験対策はまだ取り組んではいないが、理系科目が苦手な学生を対象とした数学、物理、情報科学などの基礎科目や専門科目の補講を行った。放射線取扱主任者試験の受験対策講義を開講し、個人の学力に合わせた指導を実施した。
3) リメディアル教育	3) リメディアル教育 リメディアル教育として、1年次に数学及び物理学の補講を実施している。数学は学生個々の学力に合わせた講義内容としている。情報科学分野は高校により教育内容に差が大きく、これを解消する目的で補講を行った。

カリキュラム委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 瀧断子
構成員	樋口教授、八田教授、河原田教授、小山教授、山田准教授、浅井准教授、西山講師、事務局：竹内
活動内容・課題	
1. 会議開催日時	本委員会は、2017年9月教授会の承認を得て活動が開始された。任期は10月1日より3月31日までである。 第1回：2017年10月13日（金） 13：30－14：30 第2回：2017年12月13日（水） 14：00－15：10 第3回：2018年1月24日（水） 14：00－15：00 第4回：2018年2月21日（水） 15：00－16：00
2. 2017年度活動目標	1. カリキュラムポリシーに沿っての現行カリキュラム達成度評価 2. 各専門学科の現行カリキュラムの課題の共有 (2019年カリキュラム策定に向けての検討資料・情報の提供)
3. 実施内容	1. 2017年度委員会活動目標の確認 2. 2019年度新教育課程（カリキュラム）の方向付けの検討 1) 各学科の2017年までの教育課程の評価と課題の抽出 2) 各学科の2017年までの教育課程の評価と課題の実施状況把握 3. 2018年度の委員会運営計画の検討
4. 結果と課題	1. 結果 1) 目標の到達度としては、看護学科では目標に沿って一部活動が行われ、結果の報告が行われた。リハビリテーション学科、ならびに診療放射線学科では、活動を開始しているが結果を共有するまでには至っていない状況である。 2) 目標達成度としては不十分であり今後速度をあげての活動が必要である。 2. 課題 1) 2019年度新教育課程(カリキュラム)の方向付けに関しては、先ずは、学生、教員、保護者あるいは本学教育に関わる人々からのカリキュラム評価を行い、現行運用のカリキュラムの課題を明確にする必要がある。 2) 2019年度新教育課程（カリキュラム）の方向付けに関しては、入試委員会、FD委員会、キャリア学習支援センター等と積極的に協力し、連携を図る必要がある。 3) カリキュラム策定にあたっては、教員のカリキュラムに関する理解度を深める。必要性、及び現状の課題の共有が必要であり、全学的な課題共有の場を設定する、あるいは教員研修会の実施などが必要と考える

入試委員会活動報告	
委員長	学長 傳野隆一
構成員	門間教授、乾教授、西山教授、住吉教授、八田教授、林教授 事務局：檜崎、本庄
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
1. 平成30年度入学試験の合否判定	1-1 入学試験の合否判定 入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。 AO入試： リハ学科理学療法学専攻（17人受験 16人合格） リハ学科作業療法学専攻（11人受験 12人合格、うち1人は第2志望） 推薦入試（前）： 看護学科（22人受験 21人合格） リハ学科理学療法学専攻（6人受験 6人合格） リハ学科作業療法学専攻（5人受験 5人合格） 診療放射線学科（27人受験 26人合格） 推薦入試（後）： 看護学科（18人受験 16人合格） リハ学科理学療法学専攻（2人受験 2人合格） リハ学科作業療法学専攻（2人受験 2人合格） 診療放射線学科（1人受験 1人合格） 一般入試（前）： 看護学科（186人受験 143人合格） リハ学科理学療法学専攻（99人受験 83人合格） リハ学科作業療法学専攻（77人受験 73人合格） 診療放射線学科（88人受験 67人合格） 一般入試（後）： 看護学科（15人受験 2人合格） リハ学科理学療法学専攻（4人受験 3人合格） リハ学科作業療法学専攻（4人受験 3人合格） 診療放射線学科（3人受験 0人合格） センター試験利用入試（前）： 看護学科（111人受験 67人合格） リハ学科理学療法学専攻（83人受験 51人合格） リハ学科作業療法学専攻（70人受験 63人合格） 診療放射線学科（65人受験 24人合格） センター試験利用入試（後）： 看護学科（9人受験 4人合格） リハ学科理学療法学専攻（4人受験 4人合格） リハ学科作業療法学専攻（4人受験 4人合格） 診療放射線学科（3人受験 1人合格）

入学者選抜試験実施委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 門間正子
構成員	乾教授、西山教授、八田教授、佐藤教授、俵教授、佐々木准教授、松本准教授、木村講師 事務局：本庄、鎌田
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
1. 平成30年度入学試験の実施	1-2 入学試験の実施 ・予定通り、推薦入試、一般入試前期、一般入試後期、AO入試を実施した ・各入試において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した ・センター試験利用入試の導入により、センター試験実施にあたり当番校である北星学園大学と連携し実施した ・全ての入試において、事故なく円滑に実施することができた 1-2 各入学試験の合格者案作成について ・合格者案（以下）を作成し入試委員会に上程した AO入試： - リハ学科理学療法学専攻（17人受験 16人合格） - リハ学科作業療法学専攻（11人受験 12人合格、うち1人は第2志望） 推薦入試（前）： - 看護学科（22人受験 21人合格） - リハ学科理学療法学専攻（6人受験 6人合格） - リハ学科作業療法学専攻（5人受験 5人合格） - 診療放射線学科（27人受験 26人合格） 推薦入試（後）： - 看護学科（18人受験 16人合格） - リハ学科理学療法学専攻（2人受験 2人合格） - リハ学科作業療法学専攻（2人受験 2人合格） - 診療放射線学科（1人受験 1人合格） 一般入試（前）： - 看護学科（186人受験 143人合格） - リハ学科理学療法学専攻（99人受験 83人合格） - リハ学科作業療法学専攻（77人受験 73人合格） - 診療放射線学科（88人受験 67人合格） 一般入試（後）： - 看護学科（15人受験 2人合格） - リハ学科理学療法学専攻（4人受験 3人合格） - リハ学科作業療法学専攻（4人受験 3人合格） - 診療放射線学科（3人受験 0人合格） センター試験利用入試（前）： - 看護学科（111人受験 67人合格） - リハ学科理学療法学専攻（83人受験 51人合格） - リハ学科作業療法学専攻（70人受験 63人合格） - 診療放射線学科（65人受験 24人合格） センター試験利用入試（後）： - 看護学科（9人受験 4人合格） - リハ学科理学療法学専攻（4人受験 4人合格） - リハ学科作業療法学専攻（4人受験 4人合格） - 診療放射線学科（3人受験 1人合格）

2. 入学前学習課題の実施	2-1 入学前学習課題の企画及び実施 ・AO入試及び推薦入試合格者に対し実施した ・学科共通の課題に加え、各学科の課題を実施した
---------------	---

自己点検評価委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 乾公美
構成員	門間教授、西山教授、八田教授、佐藤教授、樋口教授、山田准教授、滋野講師、藤原講師 事務局：黒澤、錢本、檜崎、竹内、井上
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
1 大学機関別認証評価に向けた準備	・来年度、認証評価の受審を表明することを前提に4月に札幌で開催された「公益財団法人日本高等評価機構」が主催するセミナーに教員、事務職員各1名を派遣。新基準について委員会で報告した ・自己点検評価報告書の作成スケジュールを作成。30年7月上旬に「大学機関別認証評価申請書」「大学の概況についての調査票」を作成し、7月下旬に高等評価機構に提出、12月下旬に「自己点検評価書」作成説明会と原稿依頼を行うことにした ・日本医療大学年報第3号の記事ならびに自己点検評価報告書の執筆担当部署を決定した ・平成30年度自己点検評価委員会の予算案について検討し、受審に向けたセミナーや研修参加費と年報印刷予算を計上することとした ・「日本医療大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備が、大学評価基準に適合しているか確認する」ことについては、学長により計画された「日本医療大学事業計画書」及び各委員会から等から提出された活動報告の照合を行い齟齬のないことを確認した
2 日本医療大学年報第2号の発行	・平成28年度自己点検評価委員会報告書として作成した。なお、装丁や内容は創刊号に準じて作成した ・記事の収集や文言の統一のため、発行が予定より遅れた
3 教員の自己点検評価制度の運用	・平成28年度の結果をグラフ化し分析を行った ・本結果は、コメントを付し、本学のホームページや日本医療大学年報第2号に掲載し公表した

研究倫理委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 佐藤秀紀
構成員	岡田教授、八田教授、住吉教授、山田准教授、滋野講師、清田講師、藤原講師 学外委員：太田誠 事務局：杉原、松岡
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
①研究倫理審査活動	研究倫理審査 19件 承認
②北海道合同倫理研修会への参加	平成29年度 北海道地区医学・医療系大学倫理委員合同研修会 テーマ：「研究指針改正のポイントと倫理委員会の対応」 日時：平成29年5月10日（水）18：00－19：30 場所：札幌医科大学医学棟1階 南第1講義室 丸山英二先生（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科特任教授） 佐藤（秀）司会・事務局杉原参加

③新任者研究倫理研修の資料の検討と実施	本学新任者研究倫理研修資料として、「研究を行う上で知っておくべき研究倫理」を作成し、新任教員の自己学習を求めた。
④「研究倫理」・「コンプライアンス」教育の受講	研究倫理教育教材として、日本学術振興会による、「科学の健全な発展のために：誠実な科学者の心得」(Green Book)、または「Green Book」をもとにしたe-learning「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) への受講を求めた。
⑤研究倫理講習 受講名簿の作成	履修記録簿(研究倫理講習受講台帳)の方法で、研究倫理教育の履修状況を把握した。教員は全員受講し、学長名の受講証明証を発行した。
⑥「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の改正に伴う研究倫理委員会としての見直しと対応	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」改正を受けて、以下の書式の作成し、全教員に対し必要書式の提出を求めた。 ①日本医療大学 倫理指針改正に関わるチェックリスト提出の御願い ②日本医療大学 チェックリストを用いて研究計画書の自己点検を行うにあたって ③日本医療大学 書式1 研究責任者用チェックリスト(無記入) 日本医療大学 書式1 研究責任者用チェックリスト(記入方法) ④日本医療大学 書式2 外部機関への既存試料・情報の提供に関する届出書 ⑤日本医療大学 書面1 改正指针对応のための計画書修正のポイント ⑥日本医療大学 書面2 情報公開・オプトアウト文書例集(情報公開見本1～7一式) なお、書式については、教授会(29年6月28日)にて報告・説明した。
⑦厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest: COI)の管理に関するガイドラインの検討	日本医療大学利益相反マネジメントガイドラインを作成し、対象の研究申請に対し実施した。
⑧リハビリテーション学科卒業研究分科会提出用の資料の検討	倫理審査申請書、研究計画書(雛型)、実施説明書(雛型)、同意書(雛型)、卒研倫理チェックシート(研究倫理分科会提出用)の5書式を見直し、学生に対し実施した。 なお、学生には研究法の講義「研究倫理審査が必要となった歴史と卒業研究における研究倫理審査」の中で説明した。

研究費審査委員会活動報告	
委員長	学長 傅野隆一
構成員	村松教授、林教授、小山教授、高橋教授、坪田教授、住吉教授、俵教授 事務局：杉原
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
平成29年度 事業計画	1.平成29年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 2.平成29年度研究費の公募・申請・執行 3.平成29年度研究活動報告
実施内容と結果	1.平成29年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定

	2.平成29年度研究費申請状況 (1) 看護学科 学術助成費（10件）、教育向上研究費（5件） 代表・共同研究者（31名） (2) リハビリテーション学科 学術助成費（3件）、教育向上研究費（1件） 代表・共同研究者（10名） (3) 診療放射線学科 学術助成費（6件）、教育向上研究費（1件） 代表・共同研究者（11名） 2.平成29年度研究活動報告 (1) 看護学科 学術助成費（10件）、教育向上研究費（3件） (2) リハビリテーション学科 学術助成費（3件）、教育向上研究費（1件） (3) 診療放射線学科 学術助成費（6件）、教育向上研究費（1件）
次年度への課題等	次年度以降も引き続き公募及び配分方法を検討していく

人権擁護委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 林美枝子
構成員	乾教授、門間教授、西山教授、岸上准教授、向井講師、伊藤講師、杉本講師 法人顧問 事務局：竹内
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
組織の整備と関連規程の改定の話し合い	・ハラスメント委員会での調査委員会との区別がつくよう本委員会で規定修正案を作成し、事務局長に提出したが、その後の検討の継続は滞っている
キャンパス・ハラスメントが発生した場合の防止委員会から学長に提案される対応策の妥当性の審議と再調査の話し合い	・キャンパス・ハラスメントに関する相談が発生し、防止委員会から学長に対して対応策が提案された場合の、審議及び再調査の話し合い実施の準備 →今年度、相談が発生しなかったため審議及び話し合いは行われなかった
人権侵害が発生した場合の調査委員会設置と解決	・人権侵害が発生した場合の調査委員会の設置 ・解決策の提言及びその解決策の実施への支援 →今年度、人権侵害の案件が発生しなかったため解決策の提言、解決策の実施への支援は起こらなかった
人権侵害防止のための企画立案	・人権侵害に関する相談が発生した場合に備え、調査委員会設置の手順や必要な準備について話し合うこと →平成28年度「成績評価に関する問い合わせ」システムを構築し、スタディ・ハンドブック等に掲載して学生に周知した。合否への問い合わせに教員が対応する事例が起こっている。成績への異議申し立てに関してはこれまでの所発生してはいない ・札幌市の「LGBTパートナーシップ宣誓制度」の設立に関して学生委員会が学生向けの説明会をセミナーとして開催したが、その際、講師として本学を訪問してくれた札幌市担当課長と、LGBTであることを申し出た学生対応に関する助言を受け、他学の環境及び対応整備状況の情報を収集した

	→現在事務局では書類等の性別に関する質問事項の在り方や、申し出のあったLGBTの学生に対するトイレ、更衣室などの使用に関する整備に取り組んでいるが、こうした対応に関する人権擁護的視点でのサポートを委員会として実施していくことを次年度委員会に申し送ることとする ・平成28年4月からの「障害者差別解消法」の施行により、身体障害や発達障害等の診断書を持つ学生に対して、キャンパス内で平等に学べるための配慮が、本学にも努力義務として課せられることになったが、具体的に身体障害や発達障害等の診断書を持つ学生が把握できず、配慮のあり方の協議を提言する機会がなかった。しかし学生相談室に寄せられる相談や個々の担任の対応事例からは、何らかの発達障害を抱えた学生が一定数いることは明らかであり、そうした学生への対応や配慮に関する、教職員への情報提供に取り組むべきであった →今年度も診断書を持つ学生が認知されなかったが、合理的対応に関する取り組みについての環境整備を継続審議課題として次年度委員会へ申し送る
--	--

図書・学術振興委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 村松宰
構成員	河原田教授、並川准教授、岸上准教授、福島講師、清田講師、小山講師 事務局：杉原
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
平成29年度 事業計画	1.平成29年度図書購入 2.第4回保健医療学部研究発表会の開催 3.紀要第4巻の発刊
実施内容と結果	1-1.平成29年度看護学科図書購入状況 和書 (106)、洋書 (0)、視聴覚 (12)、和雑誌 (52)、洋雑誌 (9) 1-2.平成29年度リハビリテーション学科図書購入状況 和書 (97)、洋書 (0)、視聴覚 (10)、和雑誌 (30)、洋雑誌 (12) 1-3.平成29年度診療放射線学科図書購入状況 和書 (214)、洋書 (3)、視聴覚 (0)、和雑誌 (8)、洋雑誌 (4) 2.第4回保健医療学部研究発表会を開催 平成29年3月30日開催 発表者：看護学科3件、リハビリテーション学科4件、診療放射線学科3件の計10件の発表 3.紀要第4巻を発刊 総説 (1篇)、原著論文 (5篇)、研究報告 (2篇)、事例報告 (1篇)、短報 (2篇) 平成29年3月31日発刊
次年度への課題等	蔵書点検 学術機関リポジトリへの登録準備 ILL 料金相殺サービスへの参加

FD委員会活動報告	
委員長	診療放射線学科 教授 樋口健太
構成員	賀来教授、高橋教授、俵教授、森口准教授、大堀准教授、大村講師、向井講師、藤原講師 事務局：竹内
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
平成29年度 事業計画	FD委員会は教育課程・体制の開発向上及び教員の教育方法の向上等のための業務を行うことを役割とするものである。 具体的には次の5点である。 ①学生による授業評価アンケートの改訂 ②学生による授業評価アンケート及びフィードバックの実施 ③教育課程の検討 ④教員研修会の実施 ⑤授業方法の開発 以下、FD委員会の役割にそって、平成29年度実施内容と結果を報告する。
実施内容と結果	①学生による授業評価アンケートの改訂 診療放射線学科開設に伴い、これまで看護学科・リハ学科で作成した授業評価アンケート（講義・演習用）と（実習用）の様式について各学科で継続して見直しを行なった。 ②学生による授業評価アンケート及びフィードバックの実施 授業評価に関しては、各科目の講義の最終回に実施した。実施方法は科目担当教員がアンケート用紙を配付し、学生が記入後、事務職員が回収にあたるか、または学生がボックスに投函した。集計結果は、各科目担当者に項目ごとの平均値・全平均値・自由記述部分を返却し、あわせて、全科目集計表を添付し、授業改善の参考としてもらうよう働きかけた。また、全科目集計表・必修—選択科目集計表・基礎教育—専門基礎教育—専門教育科目等、グループごとの集計表とそのグラフを真栄キャンパス・恵み野キャンパス、それぞれに掲示し、学生が授業評価アンケートの結果を閲覧できるようにした。各科目担当教員に授業評価アンケートの集計及び自由記述結果を返却し、より良い授業構築へとつながった。さらに、今年度より各教員からはその内容を受け今後の教育にどう反映させるかを書面（電子データ）で提出してもらい、提出されたものは学生にも公開し、各教員、学生間の双方の意見交流の機会とし、より良い授業構築へとつながった。 ③教育課程の検討 看護学科は3年間授業を行なった中で変更や追加が望ましい部分等を加味し、2019年度以降の新カリキュラム再編へ話し合いが行われた。FD委員会ではカリキュラム検討会の推移を見守った。 ④⑤教員研修会の実施及び授業方法の開発 教員研修会に関しては、平成29年度は魅力あるシラバスの作成に関する学習会を実施した。 平成29年8月1日（火）14：00～16：00 参加者は公務で不在の教員を除き、全教員の参加があった。研修内容、時期、場所、所要時間について参加者にアンケートを実施した結果、有意義な研修であったという意見が多かった。

ハラスメント防止委員会活動報告	
委員長	診療放射線学科 教授 住吉孝
構成員	岡田教授、坪田教授、河原田教授 事務局：竹内、鎌田
平成29年度 事業計画	実施内容・結果
平成29年度 事業計画	1. ハラスメント相談員を選出し、真栄キャンパス及び恵み野キャンパスの学生に対して掲示による周知を行い、些細な事でも相談できる体制を整える。 2. ハラスメント相談員が相談に必要な知識を身につけるための研修会を開催する。 3. ハラスメントの防止等に関する規程の見直し及び様式等の整備を行う
実施内容と結果	1. 相談体制の構築 ハラスメントの防止等に関する規程に定められた5名の相談員を選任し、相談員の互選により主任相談員を選出した。相談員の氏名及び連絡先を、真栄及び恵みのキャンパスの学生掲示板に掲載し、相談体制を整えた →今年度は、ハラスメントに関する相談はなかった 2. ハラスメント相談員研修会 相談員が相談に必要なスキルを身につけることができる全国規模の研修会の調査を行い、次年度から参加に必要な予算措置を行うことを決定した 3. 現行の規程において改正すべき箇所の議論を行い、改定に向けた文言の整理を行った。相談員連絡会議からの要望事項について検討を行い、規程の改訂案に取り入れることとした。作成した規程の変更案を教授会の審議事項として提案し、改訂が認められた
次年度への課題等	1. 「ハラスメントの防止等に関する規程」についての検討 2. ハラスメント相談員の学外における研修会参加と次年度必要経費の予算化 3. 相談員と学生相談室及び保健室との連携・協力体制の構築

不正調査委員会活動報告	
委員長	
構成員	
活動なし	

教員選考委員会活動報告	
委員長	
構成員	
活動なし	

11. 教員の自己点検・評価

11-1. 教員の教育・研究・社会活動

11-1-① 総長・学長・参事

氏名 島本 和明 職階 総長、教授

専門分野：高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：総合医療論（1年次、1単位、15時間）、形態機能学Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、
疾病論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、保健医療論（2年次、1単位、15時間）、内科学（2年
次、1単位、30時間）

担当科目：なし

非常勤講師：専門学校日本福祉看護・診療放射線学院（基礎医学大要演習2）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、
日本老年医学会、日本循環器予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本老年医学会（理事）、日本高血圧協会（理事長）、北海道心臓協会（副理事長）、日
本臨床研究フォーラムJ-ARF（副理事長）、社会福祉法人恩賜財団済生会北海道済生会支部（会
長）、一般財団法人つくし奨学・研究基金（評議員）、一般社団法人日本医学教育評価機構（専門
委員）、公益財団法人かなえ医療振興財団（評議員）、国土交通省社会資本整備審議会（専門委員）、
厚生労働省国民健康・栄養調査企画解析検討会（構成員）、士別市健康づくりアドバイザー、北
海道栄養士会空知支部春期研修会 講師（2017年4月19日、美唄市）、メンタルケア・スペシャ
リスト養成講座基礎課程 講師、2017年5月7日、10月28日、札幌）、世界高血圧の日 市民公
開講座 講師（2017年5月14日、岡山県）、世界高血圧の日 高血圧市民公開講座 講師（2017
年5月21日、札幌市）、士別市 保健師・栄養士学習会 講師（平成29年9月28日、士別市）、士
別市 市民公開講座 講師（平成29年9月28日、士別市）

顕彰：日本動脈硬化学会 大島賞（平成29年7月）

氏名 傳野 隆一 職階：学長、教授

専門分野：基礎専門科目（人体の構造と機能）

教育活動：

責任科目：形態機能学Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、形態機能学Ⅱ（1年次、2単位、60時間）

担当科目：チーム医療論（3年次、1単位、2時間）

非常勤講師：日本福祉学院（認知症介護実践者研修）

学内委員会：学校法人日本医療大学評議員・理事、学校執行役員会、教授会、入試委員会、研究費
審査委員会、学生募集対策委員会、執行役員会、理事会、認知症研究所所長

学術活動：

所属学会・研究会：日本外科学会、日本臨床外科学会、日本尊厳死協会

科学研究費（研究資金）の取得：ニッセイ財団「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」代表者

社会活動：札幌地裁民事調停員・専門委員、日本尊厳死協会北海道支部副支部長

顕彰：なし

氏名 錢本 隆行 職階 参事

専門分野：高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉、国際比較福祉

教育活動：

責任科目：保険医療福祉行政論（2年次、1単位、15時間）

担当科目：

非常勤講師：北星学園大学（国際比較福祉論、海外の福祉制度）、兵庫医療大学（国際比較福祉論）、国際医療福祉大学大学院（「世界の実験・日本の挑戦～医療福祉改革をめぐって」）、筑紫女学園大学（福祉計画論）

学内委員会：

学術活動：

所属学会・研究会：日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本公衆衛生学会、北海道地域福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：

顕彰：

11-1-② 看護学科教員

氏名 門間 正子 職階 看護学科長、教授

専門分野：成人看護学、クリティカルケア看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（2年次、2単位、30時間）、成人看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、成人看護援助論Ⅲ（3年次、1単位、30時間）、健康教育論（3年次、1単位、15時間）、成人看護学実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、基礎看護学（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（12時間）、成人看護学特論（16時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：看護学科学科長、教授会、学校連絡会議、運営協議会、学生募集対策委員会、教務委員会、入試委員会、入学者選抜委員会（委員長）、自己点検評価委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会（評議員、査読委員）、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、札幌医科大学クリティカルケア看護研究会、日本看護系大学協議会社員、日本私立看護系大学協会社員（理事、学校教育委員）

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：札幌山の上病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、北海道整形外科記念病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、平成29年度北海道専任教員養成講習会において講義（研究方法6時間）、平成29年度保健師助産師看護師実習指導者習会において講義（看護教育課程－成人看護学3時間）

顕彰：なし

氏名 岡田 洋子 職階 教授

専門分野：小児看護学、看護教育学

教育活動：

責任科目：小児看護概論（3年次、1単位、30時間）

担当科目：小児看護概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、小児看護学実習（90時間）、看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：旭川医科大学大学院（看護理論特論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、倫理委員会、ハラスメント防止委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会誌（専任査読委員）、日本小児看護学会（専任査読委員）、日本看護学教育学会、日本小児がん看護学会、日本思春期学会（評議員）、日本学校保健学会、日本発達心理学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道看護教員養成講習会講師、北海道看護設協議会委員、日本学術振興会科学研究費助成事業科研費・研究計画書第一次審査委員、道内看護系大学の紀要査読委員

顕彰：なし

氏名 賀来 亨 職階 教授

専門分野：病理学、コンピュータ教育

教育活動：

責任科目：生命科学（1年次、1単位、15時間）、病態病理学（2年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅱ（2年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅲ（2年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅳ（2年次、1単位、30時間）、小児の健康障害（3年次、1単位、30時間）

担当科目：

非常勤講師：札幌医科大学（医学部：病理学）、北海道メディカル・スポーツ専門学校（柔道整復師学科：臨床医学）、三草会札幌看護専門学校（解剖生理学、疾病論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本病理学会、日本骨代謝学会、日本唾液腺学会、コンピュータ利用教育学会（CIEC）

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本唾液腺学会評議員

顕彰：なし

氏名 小山 満子 職階 教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

責任科目：母性看護学概論（2年次、2単位、30時間）、母性看護学実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、母性看護学概論（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）、母性看護学実習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会（委員長）、研究費審査委員会、カリキュラム委員会、学生担当教員（4学年主担任）、カリキュラム検討会（責任者）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、北海道母性衛生学会、北海道思春期学会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学教育向上研究費

社会活動：日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議会委員

顕彰：

氏名 瀧 断子 職階 教授

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：老年看護学概論（2年次、2単位、30時間）、老年看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、老年看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）

担当科目：看護研究演習（4年次、2単位、60時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教授会、カリキュラム委員会（委員長）、カリキュラム検討会、実習ローテーション係

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本老年看護学学会
科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 畑瀬智恵美 職階 教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：看護学概論（１年次、２単位、３０時間）、看護の基本技術論（１年次、１単位、３０時間）、生活援助技術Ⅱ（１年次、１単位、３０時間）、フィジカルアセスメント（２年次、１単位、３０時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年次、１単位、４５時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、９０時間）、臨床看護技術演習（４年次、１単位、３０時間）

担当科目：生活援助技術Ⅰ（１５時間）、生活援助技術Ⅱ（３０時間）、生活援助技術Ⅲ（１５時間）、看護ゼミナールⅡ（３０時間）、フィジカルアセスメント（３０時間）、診療過程の援助技術（３０時間）、看護ゼミナールⅢ（３０時間）、看護ゼミナールⅣ（３０時間）、看護研究（３０時間）

学内委員会：教授会、教務委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：旭川厚生病院看護部研修（「看護研究」の指導）

顕彰：なし

氏名 林 美枝子 職階 教授

専門分野：医療人類学、社会医学

教育活動：

専任科目：文化人類学（看護学科１年次、１単位、１５時間）、家族論（看護学科２年次、１単位、１５時間）、文化人類学（リハビリテーション学科１年次、１単位、１５時間）、社会学（リハビリテーション学科１年次、１単位、１５時間）、文化人類学（診療放射線学科１年次、１単位、１５時間）、社会学（診療放射線学科１年次、１単位、１５時間）

担当科目：看護研究演習（６０時間）

非常勤講師：北海道情報大学（文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ）、札幌国際大学（地域社会と健康、ライフスタイル論）

学内委員会、学科内業務等：教授会、学生委員会（委員長）、入試委員会、学友会（運営顧問）、人権擁護委員会（委員長）、研究費審査委員会、認知症研究所研究員、ボランティアサークル（顧問）、学生担当教員（1年生）

学術活動：

所属学会、研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本認知症ケア学会、日本フォレンジック看護学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、日本母性衛生学会
科学研究費の取得：基盤研究（C）（一般）（H28年～H30年）「高齢者生活支援のための地域産学官ネットワーク構築に関する研究」研究分担者、基盤研究（C）（一般）（H29年～H31年）「在宅看取り介護の初期段階における困難性とその原因の分析」研究代表者、ニッセイ財団（H28年～H30年）「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」共同研究者

社会活動：滝川市保健福祉部看取りケア研修会講演「看取りねっとの挑戦家族介護者の語りから学ぶこと」、北海道医師会医学生・若手医師キャリアデザイン・セミナー「働き方改革の背景とディセント・ワーク」北海道医師会館、釧路市こども保健部講演「ひとり親のワヘク・ライフ・バランス」、北海道看護師、助産師、保健師実習指導者養成講座特別講演「病と癒し」、公益財団法人市町村振興協会評議員、一般財団法人道民活動振興センター評議員、札幌市男女共同参画審議会会長、北海道民族学会運営委員・学会誌編集委員、北海道社会功労賞推薦委員、北海道文化審議会委員、株式会社マックスバリュ北海道社外取締役、公益財団法人北海道女性協会理事、北海道生産性本部理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会評議員、北海道看護教員養成講座（文化人類学、家族論を担当、看護協会）、第47回函館・女性大会基調講演「医療・介護におけるジェンダー問題」、田中メディカルグループ札幌大学寄付講座「死の受容」・「看取りねっとの挑戦」

顕彰：なし

氏名 浅井さおり 職階 准教授

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学概論（10時間）、老年看護援助論Ⅰ（10時間）、老年看護援助論Ⅱ（16時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：

学内委員会：教授会、安全衛生委員会、カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健医療行動科学学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会（日本認知症ケア学会誌査読委員、認知症ケアジャーナル査読委員）、日本健康科学学会、日本看護倫理学会（臨床倫理ガイドライン検討委員会委員）、聖路加看護学会

科学研究費（研究資金）等の取得：平成29年度日本医療大学学術助成費「看取りの概念分析」
社会活動：ノテ福祉会研修「認知症ケアに必要な知識と技術の理解：疾患としての認知症の理解と、人として尊重する倫理的なかわりについて」、日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会主催「看護管理者応援研修：臨床で身体拘束をしないための看護管理者の役割」
顕彰：なし

氏名 草薙 美穂 職階 准教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護援助論（3年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅣ（4年次、1単位、30時間）

担当科目：小児看護学実習（90時間）、看護を知る（30時間）、看護研究（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：

学内委員会：教授会、キャリア学修支援センター、カリキュラム検討会、実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、乳幼児医学・心理学研究

科学研究費（研究資金）等の取得：（基盤研究B）「小児外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく他職種による育児支援の有効性」研究分担者（平成26～29年）、（日本医療大学学術助成費）「ファミリーパートナーシップモデルに基づく育児支援—早期介入支援プログラム開発のための予備的研究—」研究代表者（平成29年度）

社会活動：乳幼児保健学会評議員

顕彰：なし

氏名 佐々木由紀子 職階 准教授

専門分野：成人看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：成人看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、成人看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）、チーム医療（2年次、1単位、15時間）、看護倫理（3年次、1単位、15時間）、医療安全（3年次、1単位、15時間）、看護管理（3年次、1単位、15時間）、感染管理（3年次、1単位、15時間）

担当科目：成人看護学特論（8時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、成人看護援助論Ⅲ（16時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）・Ⅱ（30時間）・看護ゼミナールⅢ（1単位30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究（30時間）、看護研究演習（60時間）、臨床看護技術演習（30時間）

非常勤講師：社会医療法人ノテ福祉会（感染予防研修）

学内・学科内業務等：教授会、入学者選抜試験実施委員会、実習検討会、実習ローテーション係、統合実習担当 G（責任者）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護協会、北海道看護協会、日本看護学科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本環境感染学会、日本老年看護学会、日本歴史学会、医療事故・紛争対応研究

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学教育向上研究費助成

社会活動：第48回日本看護学会—看護管理—学術集会準備委員会委員

顕彰：なし

氏名 並川 聖子 職階 准教授

専門分野：基礎看護学、看護教育学

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、援助的人間関係論（1年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅡ（2年次、1単位、30時間）、診療過程の援助技術（2年次、1単位、30時間）

担当科目：生活援助技術Ⅰ（26時間）、生活援助技術Ⅱ（6時間）、生活援助技術Ⅲ（12時間）、フィジカルアセスメント（20時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、診療過程の援助技術（16時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（58時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、図書・学術振興委員会、カリキュラム検討会、実習検討会、学年担当教員（3年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道看護協会札幌第3支部看護過程研修会助言者、日本医療大学生涯学習講座（7月15日）

顕彰：なし

氏名 松本真由美 職階 准教授

専門分野：精神保健学、社会福祉学、発達心理学

教育活動：

責任科目：心理学（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、人間関係論（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、発達心理学（1年次、1単位、15時間）、臨床心理学（看護学科2年次・診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、カウンセリング論（看護学科3年次、1単位、15時間）、心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、

発達心理学（1年次、1単位、15時間）

担当科目：形態機能学Ⅱ（1時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、入学者選抜委員会、ハラスメント相談員（責任者）、オープンキャンパス真栄キャンパスWG（責任者）、入学前学習課題担当（責任者、茶道サークル顧問、進学相談会担当（3回）、模擬講義担当（1回）、高校訪問（13校）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本学生相談学会、北海道社会福祉学会（理事）、北海道地域福祉学会（理事）

科学研究費（研究資金）等の取得：科学研究費基盤研究(C)「地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画に関する調査研究」研究代表者（平成27年度～平成29年度）

社会活動：北海道社会福祉学会理事、北海道地域福祉学会理事、精神障害者回復者クラブすみれ会理事、公益財団法人北海道女性協会平成29年度女性大学第1期講演会講師「変わりゆく年金・医療・介護」（2017年7月4日）、2017年度「第20回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者（株式会社テコム）

顕彰：なし

氏名 森口 眞衣 職階 准教授

専門分野：宗教学、医学史、アジア思想・医療史

教育活動：

責任科目：倫理学（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、宗教と思想（看護学科2年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、看護研究演習（看護学科4年次、2単位、60時間）、倫理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）

担当科目：倫理学（30時間）、生命倫理（30時間）、宗教と思想（15時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北海道薬科大学（文学と人間）、北翔大学（高齢社会と生涯教育）、札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理）、北星学園大学（現代と宗教）

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会、FD委員会、学友会（監査顧問）、兼任教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、学生担当教員（2年生）、入学前課題担当、オープンキャンパス平成30年度入試対策講座「面接編」担当（真栄キャンパス、恵み野キャンパス）、進学相談会担当（7回）、職業説明会担当（1回）、出前講義担当（1回）、高校訪問担当（6校）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学

仏教学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本森田療法学会、インド思想史学会、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、北海道大学文学研究科宗教学研究会
科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費「日本における東洋医学の受容と展開に関する基礎的研究」（代表者）

社会活動：北海道生命倫理研究会冬季セミナー座長

顕彰：なし

氏名 山田 敦士 職階 准教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：日本語表現（看護学科1年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、日本語表現（リハビリテーション学科1年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、日本語表現（診療放射線学科1年次、1単位、30時間）、中国語（看護学科2年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、中国語（リハビリテーション学科1年次、1単位、30時間）、中国語（診療放射線学科2年次、1単位、30時間）

担当科目：日本語表現（看護学科、60時間）、日本語表現（リハビリテーション学科、60時間）、日本語表現（診療放射線学科、30時間）、中国語（看護学科、60時間）、中国語（リハビリテーション学科、30時間）、中国語（診療放射線学科、30時間）

非常勤講師：北海道大学（教科教育法）、北星学園大学（中国語）、札幌国際大学（社会意識論）、日本福祉リハビリテーション学院（言語障害評価学特論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、カリキュラム委員会、自己点検評価委員会、研究倫理委員会、兼任教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、入学前課題担当、看護学科カリキュラム検討会、オープンキャンパス小論文特別講座担当（真栄キャンパス、恵み野キャンパス）、進学相談会担当（3回）、バトミントン部顧問、ユナイテッド・シネマ・アンデルセン顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本言語学会、日本中国語学会、中国語学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、北海道民族学会（運営委員）、社会言語科学会、家畜資源研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト（代表）

科学研究費（研究資金）等の取得：科研費（若手B）「ワ族の文字表記と書承文化に関する調査研究」研究代表者（平成28年度～平成31年度）、科研費（基盤B）「言語・文化調査に基づくタイ文化圏の少数民族の歴史の解明」（平成27年度～平成29年度）

社会活動：日本中国語検定協会札幌会場運営補佐、社会福祉法人ノテ福社会中国語講座（15回）、日本中国語学会北海道支部会開催校幹事

顕彰：なし

氏名 伊藤 廣美 職階 講師

専門分野：老年看護学、看護管理

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅠ（１年次、１単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（３年次、２単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間）、医療情報（４年次、１単位、15時間）
担当科目：医療情報（15時間）、看護を知る（30時間）、看護管理（７時間）、看護倫理（７時間）、医療安全（７時間）、チーム医療（７時間）、看護研究演習（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、統合実習（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：人権擁護委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護診断学会（評議委員）日本遠隔医療学会、日本看護学会
科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本看護診断学会評議員、日本看護学会抄録選考委員

顕彰：なし

氏名 岡田 尚美 職階 講師

専門分野：在宅看護、地域看護、公衆衛生看護

教育活動：

責任科目：在宅看護援助論Ⅰ（３年次、１単位、30時間）、在宅看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、30時間）、在宅看護論実習（４年次、２単位、90時間）
担当科目：看護を知る（28時間）、看護研究（24時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）、臨床看護技術演習（22時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター部門員、看護学科カリキュラム検討会、実習ローテーション担当G、庶務、看護ゼミナールⅣ担当G、看護研究・看護研究演習担当G、臨床看護技術演習担当G

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本子ども虐待防止学会、北海道公衆衛生学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）等の取得：科研費（基盤研究C）「継続的な支援が必要な家族のための助産師と保健師の連携指針の開発」研究代表者、科研費（基盤研究C）「子ども虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム」研究分担者

社会活動：北海道看護協会札幌第３支部教育委員、日本医療大学生涯学習講座（「ロコモティブシ

ンドロームとは？～自分の身体を知りましょう～」)

顕彰：なし

氏名 大村 郁子 職階 講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：母性看護援助論（3年次、1単位、30時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護研究（12時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、母性看護援助論（22時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、臨床看護技術演習（30時間）、看護研究演習（60時間）、母性看護学実習（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、FD委員会、学生担当教員、実習検討会、実習ローテーション担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会
科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 滋野 和恵 職階 講師

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護学援助論（3年次、1単位、30時間）、精神看護学実習（3年次、2単位、90時間）、看護研究（3年次、1単位、30時間）、看護研究演習（4年次、2単位、60時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：自己点検評価委員会、研究倫理委員会、看護学科カリキュラム検討会、実習検討会、看護を知る担当G、看護研究・看護研究演習担当G、統合実習担当G

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST普及協会、日本看護協会、日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、北海道専任教員養成講習会看護研究演習助言者、第27回日本精神保健看護学会学術大会企画委員、第49回日本看護学会学術集会抄録選考委員

顕彰：なし

氏名 高儀 郁美 職階 講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学特論（2年次、1単位、30時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、成人看護援助論Ⅰ（24時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、
成人看護援助論Ⅲ（18時間）、成人看護学特論（30時間）、成人看護学実習Ⅰ（90時間）、成人
看護学実習Ⅱ（90時間）、看護研究（18時間）、看護研究演習（90時間）、ゼミナールⅢ（24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：看護学科カリキュラム検討会、実習ローテーション担当G、看護学科
一日体験入学、看護を知る担当G、看護ゼミナールⅢ担当G、4年生学担（副担任）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本死の臨床研究会、日本死の臨床研究会北海道支部、日本行動療法学会、
日本ヒューマンケア心理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、
日本家族看護学会、日本建築学会、日本医療福祉設備協会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本医療大学生涯学習講座講師（2017年10月28日、札幌）

顕彰：なし

氏名 福島 眞里 職階 講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、母性看護援助論（30時間）、母
性看護学実習（90時間）看護研究演習（90時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：図書・学術振興委員会、看護学科カリキュラム検討会、看護ゼミナ
ールⅠ担当G、看護ゼミナールⅢ担当G、学生担当教員（3年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学
会、日本思春期学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道看護協会教育委員

顕彰：なし

氏名 藤長すが子 職階 講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）

担当科目：看護の基本技術（10時間）、生活援助技術Ⅰ（38時間）、生活援助技術Ⅱ（18時間）、生活援助技術Ⅲ（34時間）、診療過程の援助技術（26時間）、フィジカルアセスメント（24時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（8時間）、統合実習（270時間）、看護研究演習（28時間）、臨床看護技術演習（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター、学生担当教員（2学年）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道看護協会第48回日本看護学会 - 看護管理 - 学術集会抄録選考委員、北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会実習指導案作成講義

顕彰：なし

氏名 齊藤 リカ 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（28時間）、看護研究（20時間）、看護研究演習（60時間）、看護ゼミナールⅢ（20時間）、老年看護学概論（8時間）、老年看護援助論Ⅰ（8時間）、老年看護援助論Ⅱ（8時間）、老年看護実習Ⅰ（270時間）、老年看護実習Ⅱ（270時間）

非常勤講師：創研学園看予備（国家試験対策）

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科1日体験入学担当G、看護研究・看護研究演習担当G、臨床看護技術演習担当G

学術活動：

所属学会・研究会等：日本生理人類学会、日本睡眠学会、日本プライマリ・ケア学会、高齢者ケアリング研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 美濃 陽介 職階 助教

専門分野：看護教育学、心身健康科学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅱ（20時間）、生活援助技術Ⅲ（10時間）、診療過程の援助技術（16時間）、
基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（22時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、オープンキャンパスWG

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護教育学学会、日本地域看護学会、日本学校メンタルヘルス学会、
日本産業衛生学会、日本心身健康科学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道環境推進委員

顕彰：なし

氏名 合田恵理香 職階 助手

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（12時間）、成人看護学特論（16時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、
成人看護援助論Ⅲ（18時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパスWG、看護学科一日体験入学担当G、看護ゼミナールⅠ担当G、看護ゼミナールⅢ担当G、臨床看護技術演習担当G、庶務、親睦会役員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護歴史学会、
日本音楽療法学会、日本統合医療学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本医療大学生涯学習講座（2018年3月24日）

顕彰：なし

氏名 菅原 美保 職階 助手

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 辻 幸美 職階 助手

専門分野：在宅看護、老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（8時間）、在宅看護援助論Ⅱ（8時間）、在宅看護論実習（90時間）、
臨床看護技術演習（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、オープンキャンパスWG、看護学科一日体験入学担当G、
臨床看護技術演習担当G

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本在宅ケ
ア学会、CNS老年看護分野学修会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 吉田 香 職階 助手

専門分野：基礎看護学、看護教育

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護の基本技術論（30時間）、生活援助技術Ⅰ（30時間）、生活援助技術Ⅱ（30時間）、
生活援助技術Ⅲ（30時間）、診療過程の援助技術（30時間）、フィジカルアセスメント（30時間）、
基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、統合実習（90時間）、看護ゼミナ
ールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパスWG、看護学科一日体験入学WG、庶務

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴
史学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護協会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-③ リハビリテーション学科教員

氏名 乾 公美 職階 リハビリテーション学科長、教授

専門分野：運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学

教育活動：

責任科目：運動療法学（2年次、1単位、30時間）、生理学演習（2年次、1単位、30時間）、神経筋促通治療学（3年次、1単位、30時間）、研究法（3年次、1単位、30時間）、運動器障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）、義肢装具学（3年次、1単位、30時間）、義肢装具学演習（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）

担当科目：運動療法学（30時間）、神経筋促通治療学（30時間）、研究法（26時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）

非常勤講師：山形県立保健医療大学（神経筋促通治療学、16時間）、日本福祉リハビリテーション学院（神経筋促通治療学、30時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教授会運営協議会、学生募集対策委員会、教務委員会、入学
者選抜委員会、入試委員会、自己点検評価委員会（委員長）、リハビリテーション学科カリキュ
ラム委員会（委員長）、人権擁護委員会、リハビリテーション学科国家試験対策委員会、チューター
学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、
日本生理学会、日本体力医学会、日本PNF学会（理事）、北海道リハビリテーション学会（評
議員）、北海道理学療法士会（表彰審査委員会委員）、全国リハビリテーション学校協会北海道
ブロック（理事）

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：日本医療大学生涯学習講座講師、恵庭市長寿大学運営委員会委員

顕彰：なし

氏名 高橋 光彦 職階 理学療法専攻長、教授

専門分野：運動療法学、物理療法学、呼吸器系理学療法学、運動学

教育活動：

責任科目：運動学（2年次、4単位、60時間）、運動学演習（2年次、1単位、30時間）、呼吸・
循環器障害理学療法学（2年次、1単位、30時間）、物理療法学（3年次、1単位、30時間）、
物理療法学演習（3年次、1単位、30時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（3年次、3単位、12時間）

担当科目：生理学演習（12時間）、研究法（2時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（6時間）、卒業研
究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道柔道整復師専門学校（リハビリテーション医学、運動学）

学内委員会・学科内業務等：理学療法専攻長、教授会、教務委員会、学生委員会、研究費審査委員会、FD委員会、3年クラス担任、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、学生団体サークル（サッカーサークル、恵み野バドミントンサークル）顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本体力医学会、北海道リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）等の取得：厚労省科学研究費（難治性疾患等克服研究事業）

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 坪田 貞子 職階 作業療法専攻長、教授

専門分野：作業療法学、特に運動器障害における基礎研究及び臨床実践とそれに基づく臨床研究。教育研究としては、臨床実習における臨床実習指導者と学内教員との連携について調査研究を行っている。

教育活動：

責任科目：作業療法概論（1年次、1単位、15時間）、チーム医療論（3年次 PT,OT 合同授業、1単位、8時間）作業療法評価学（2年次、1単位、15時間）、身体障害治療学（3年次、1単位、15時間）、義肢装具作業療法学（3年次、1単位、15時間）義肢装具作業療法学演習（3年次、1単位、15時間）、身体障害作業療法学特論（ハンドセラピー）（3年次、1単位、15時間）、臨床実習Ⅰ（作業療法）（2年次、2単位、6時間）、臨床実習Ⅱ（作業療法）（3年次、3単位、9時間）、卒業研究Ⅱ（3年次、1単位 30時間）

担当科目：上記と同じ

非常勤講師：北海道文教大学（作業療法治療学演習）、北海道リハビリテーション大学校（義肢装具学、運動器治療学）、札幌リハビリテーション専門学校（ハンドセラピー）

学内委員会・学科内業務等：作業療法学専攻長、ハラスメント防止委員会、キャリア修学支援センター運営委員、研究審査委員会、4年学年副担任、チューター、臨床実習統括

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、日本ハンドセラピー学会、日本手の外科学会、日本義肢装具学会、国際ハンドセラピー学会、北海道リハビリテーション学会、北海道作業療法士会顧問、全国リハビリテーション学校協会理事

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成「地域在住高齢者における手の機能と認知機能、QOLとその関連性」、北海道作業療法学会研究助成「筋電義手装着を促進するための取り組み」

社会活動：恵庭市長寿大学学習プログラム検討委員会委員

顕彰：なし

氏名 佐藤 秀紀 職階 教授

専門分野：リハビリテーション学、保健福祉学、老年社会科学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論（1年次、2単位、30時間）、地域理学療法学（3年次、1単位、30時間）、生活環境学（3年次、1単位、30時間）、高齢期障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：リハビリテーション論（30時間）、地域理学療法学（8時間）、生活環境学（30時間）、高齢期障害理学療法学（30時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教授会、研究倫理委員会（委員長）、不正調査委員会（委員長）、自己点検・評価委員会、入学者選抜委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（理事）（学術誌編集委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、日本老年社会学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 八田 達夫 職階 教授

専門分野：作業療法学

教育活動：

責任科目：発達障害作業治療学（3年次、2単位、60時間）、福祉用具学（3年次、1単位、30時間）、就労支援作業療法学（3年次、1単位、30時間）、作業療法治療学特論（シーティング）（3年次、1単位、30時間）作業療法概論演習（1年次、1単位、30時間）

担当科目：作業療法概論（2時間）、臨床実習Ⅰ（作業療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（作業療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻 職業関連作業療法学（6時間）、放送大学教養学部 面接授業「人と車いすの科学」（16時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター（センター長）、教務委員会、入学者選抜委員会、研究倫理委員会、不正調査委員会、自己点検委員会、入試委員会、カリキュラム委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学会カンファレンス、日本職業リハビリテーション学会（ブロック理事）、北海道アクティブバランスシーティング研究会（副代表）、北海道感覚統合研究会（顧問）

科学研究費（研究資金）等の取得：認知症高齢者のリハビリテーションモデル、介護モデルの発展に寄与しうる「理想的ないす」の開発（株クオリ受託研究）

社会活動：ノテ福祉会生涯学習講座「人と車いすの科学：より楽に座るために」、北海道作業療法士会道北支部企画講習会「福祉用具～車いすの快適な姿勢について」

顕彰：なし

氏名 大堀 具視 職階 准教授

専門分野：作業療法（身体障害、認知症）

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学（2年次、1単位、30時間）、身体障害作業治療学（中枢神経系）（3年次、2単位、60時間）、日常生活適応学（動作分析）（3年次、2単位、60時間）、作業療法セミナーⅢ（3年次、1単位、30時間）、福祉住環境論（3年次、1単位、30時間）

担当科目：生理学演習（30時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：手稲溪仁会病院臨床指導、IMS札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、旭川圭泉会病院臨床指導、特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会、FD委員会、国家試験WG、臨床実習WG

学術活動：

所属学会・研究会等：（社）日本作業療法士協会、（公社）北海道作業療法士会、作業療法研究学会、日本生態心理学会、地域リハビリテーション研究会、日本ボバース研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士連盟代表、学術誌「作業療法」査読者（第一査読）、機関紙「北海道作業療法」査読者、札幌市介護認定審査会委員、北海道作業療法士会現職者選択研修講師、北海道リハビリテーション専門職協会講師、水俣病公式確認60年記念事業連続講座講師（14回）、「動き出しは当事者から」愛知連続講座講師（3回）、社会福祉法人溪仁会職員研修（4回）、砂川市民健康フォーラム講師、空知老人福祉施設協議会主催介護職員等研修講師、後志老人福祉施設協議会主催直接処遇者研修講師、芦別市みんなで介護考える会講演会講師、特別養護老人ホーム美唄泰康職員研修会講師（3回）、ノテ福祉会職員研修会講師（19回）、第17回認知症を考える会分科会講師、南檜山ケアマネージャー連絡会研修講師

顕彰：なし

氏名 岸上 博俊 職階 准教授

専門分野：高齢期作業療法、地域作業療法

教育活動：

責任科目：作業療法セミナーⅠ（1年次、1単位、30時間）、作業療法評価学演習（骨・関節）（2年次、1単位、30時間）、作業療法評価学演習（神経・筋力系）（2年次、2単位、60時間）、高齢期障害作業治療学（3年次、2単位、60時間）、日常生活適応学（ADL）（3年次、2単位、

60時間)

担当科目:卒業研究Ⅰ(30時間)、臨床実習Ⅰ(作業療法)(6時間)、臨床実習Ⅱ(作業療法)(12時間)

非常勤講師:放送大学(人と車いすの科学 15時間)

学内委員会・学科内業務等:教授会、図書・学術振興委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会、安全衛生委員会、チューター

学術活動:

所属学会・研究会等:日本作業療法士協会、北海道作業療法士会(理事)、日本リハビリテーション工学カンファレンス、作業療法を社会学・障害学する研究会、第48回北海道作業療法士学会実行委員(実行委員長)

科学研究費(研究資金)等の取得:なし

社会活動:日本医療大学生涯学習講座講師、夕張市立診療所リハビリテーション科での診療
顕彰:

氏名 石橋 晃仁 職階 講師

専門分野:神経系理学療法学

教育活動:

責任科目:理学療法セミナーⅠ(1年次、1単位、30時間)、理学療法セミナーⅡ(2年次、1単位、30時間)、理学療法セミナーⅢ(3年次、1単位、30時間)、神経障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)、神経障害理学療法学演習(3年次、1単位、30時間)、日常生活活動基礎学(3年次、1単位、30時間)

担当科目:チーム医療論(2時間)、卒業研究Ⅰ(28時間)

非常勤講師:日本福祉リハビリテーション学院(卒業研究Ⅱ)

学内委員会・学科内業務等:キャリア学修支援センター運営委員、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ学科リーダー、理学療法学専攻3年生学生担当教員、理学療法学専攻臨床実習担当教員、チューター、軟式野球部顧問

学術活動:

所属学会・研究会等:日本理学療法士協会、北海道理学療法士会(社会局介護予防・健康増進支援部長)、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、日本リハビリテーションスポーツ学会(旧 医療体育研究会)

科学研究費(研究資金)等の取得:なし

社会活動:札幌市理学療法赤十字奉仕団(副委員長)、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事、第52回日本理学療法学術大会(査読委員)、第68回北海道理学療法士学術大会(査読委員)、いきいき健康・福祉フェア2017アドバイザー、札幌刑務所高齢・障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」講師、大谷地パークアベニュー団地いきいきサロン体操指導講師、北海道理学療法士会 介護予防推進リーダー導入研修会(道東支部担当)講師、福祉用具プラン

ナー研修会「高齢者の身体特性」講師、介護職員初任者研修「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」講師、札幌宮の沢脳神経外科病院臨床及び勉強会・研究指導特別講師

顕彰：なし

氏名 西山 徹 職階 講師

専門分野：義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：義肢装具学（30時間）、義肢装具学演習（30時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道医療大学（義肢装具学Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：カリキュラム委員会、定員増ワーキンググループ、オープンキャンパスワーキンググループ、臨床実習ワーキンググループ、学生担当教員（1年生）、チューター、恵み野バレーボール部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本PNF学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 向井 康詞 職階 講師

専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動：

責任科目：解剖学演習（骨・筋）（1年次、2単位、60時間）、理学療法評価学（運動器系）（2年次、1単位、30時間）、臨床判断学（基礎編）（2年次、1単位、30時間）、臨床判断学（応用編）（3年次、1単位、30時間）

担当科目：生理学演習（30時間）、運動学演習（30時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（60時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道メディカル・スポーツ専門学校（スポーツ医学Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、人権擁護委員会、FD委員会、理学療法学専攻2学年担任、国家試験対策ワーキンググループ、解剖学見学実習担当、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、運動生理学学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：「北海道理学療法学」査読委員

顕彰：なし

氏名 矢口 智恵 職階 講師

専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：機能解剖学（1年次、1単位、30時間）、運動療法学演習（2年次、1単位、30時間）、
発達障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：機能解剖学（30時間）、運動療法学演習（30時間）、発達障害理学療法学（30時間）、
解剖学演習（骨・筋）（60時間）、生理学演習（30時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、
臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、図書・学術振興委員会、学科カリキュラム検討ワー
キンググループ、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本健康行動科学会（編集委員）、日本理学療法士協会、Society for
Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）等の取得：科研費（基盤研究（C）（一般））「高齢者における体性感覚
と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者（平成29年度～平成33年度）

社会活動：日本医療大学生涯学習講座講師

顕彰：日本健康行動科学会第16回学術大会 大会長優秀発表賞受賞

氏名 木原由里子 職階 助教

専門分野：地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学演習（2年次、1単位、30時間）、理学療法評価学演習（運
動器系）（2年次、2単位、60時間）

担当科目：地域理学療法学（6時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）
（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：札幌医科大学（健康管理と理学療法、理学療法における国際保健）、北海道医療大学（国
際協力と理学療法）

学内委員会・学科内業務等：ハラスメント相談員、国家試験対策ワーキンググループ、オープンキャ
ンパスワーキンググループ、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本国際保健医療学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会 社会局介護予防・健康増進支援部 部員、北海道理学療法士会
新人教育プログラム 講師、独立行政法人国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊 登録者
顕彰：なし

氏名 清本 憲太 職階 助教

専門分野：作業療法学、疼痛、知覚、整形外科学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（中枢神経系）（2年次、2単位、60時間）、基礎作業療法学演習（応用作業分析）（1年次、1単位、30時間）

担当科目：作業療法評価学演習（神経・筋力系）（15時間）、作業療法評価学演習（骨・関節系）（10時間）、作業療法評価学（6時間）、運動学演習（30時間）、臨床実習Ⅰ（作業療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（作業療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：埼玉県立大学（身体機能作業療法学演習（基礎））

学内委員会・学科内業務等：学科内カリキュラム検討委員会、臨床実習運営（専攻内統括）、OSCE運営委員、学生担当教員（1年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、日本ハンドセラピー学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、日本センソリーリハビリテーション研究会、北海道整形災害外科学会、北海道作業療法士会（教育部員）、北海道ハンドセラピー研究会（理事）

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成金

社会活動：作業療法ジャーナル論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰：なし

氏名 合田 央志 職階 助教

専門分野：老年期作業療法学、福祉用具学、日常生活活動学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（基礎）（2年次、1単位、15時間）、基礎作業学演習（基礎作業分析）（1年次、1単位、15時間）

担当科目：作業療法評価学演習（基礎）（15時間）、基礎作業学演習（基礎作業分析）（15時間）、作業療法セミナーⅡ（15時間）、生理学演習（30時間）、運動学演習（15時間）、臨床実習Ⅰ（作業療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（作業療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学担（2年生）、チューター、ホームページ担当、オープンキャンパス、臨床実習WG、国家試験WG、バスケットボール部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会（演題査読委員）、日本リハビリテーション工学カンファレンス、Disease and Disability（Editor）

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会評議委員、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事、ノテ福祉会職員講習会講師（10月5日～1月18日、延べ15回）、職員講習会後フォローアップ（11月10日～3月30日、延べ11回）北海道作業療法士会学会評議委員、全国リハビリテーション学校協議会幹事

顕彰：なし

氏名 新開谷 深 職階 助教

専門分野：運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動：

責任科目：情報科学演習（1年次、1単位、30時間）、体表解剖学（1年次、1単位、30時間）

担当科目：臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：臨床実習担当、チューター、サッカー部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：公益（社）日本理学療法協会、公益（社）北海道理学療法士会、日本整形徒手療法協会、日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会学会研修部及び総務部、バイオメカニクスセミナー in 北翔大学にかかるとの講師、理学療法士講習会（応用編）上肢・下肢の触診機能解剖にかかるとの講師

顕彰：なし

11-1-④ 診療放射線学科教員

氏名 西山 篤 職階 診療放射線学科長、教授

専門分野：診療画像機器学、医用工学

教育活動：

責任科目：放射線科学概論（1年次、1単位、15時間）、診療放射線学概論（1年次、1単位、15時間）、電気・電子工学（2年次、2単位、30時間）、医用工学（2年次、2単位、30時間）、診療画像機器学（2年次、1単位、30時間）、医用工学実験（2年次、1単位、45時間）

担当科目：診療画像機器学（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、学生募集対策委員会、入学者選抜試験実施委員会、入学試験委員会、人権擁護委員会、自己点検・評価委員会、大学院設置準備委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本診療放射線技師教育学会、日本診療放射線学教育学会、医用画像情報学会、総合医用画像技術研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：診療放射線技師関連法令及び臨床実習あり方検討会（委員）、技師法改正歴史編纂委員会（委員）、技師法改正検討委員会（委員長）、日本診療放射線技師会6年制教育検討委員会（委員長）、倫理委員会（委員）、診療放射線技師教育内容検討班（委員）、診療放射線技師出題委員会（委員）、診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会（委員）、日本診療放射線学教育学会（理事）

顕彰：なし

氏名 河原田泰尋 職階 教授

専門分野：放射線管理・計測

教育活動：

責任科目：

担当科目：医用工学実験（45時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（放射線計測学Ⅰ、60時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、図書・学術振興委員会、カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学物理学会、日本放射線技術学会、日本診療放射線教育学会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 住吉 孝 職階 教授

専門分野：放射線化学、放射化学、物理化学

教育活動：

責任科目：化学（1年次、1単位、15時間）、放射線物理学（1年次、2単位、30時間）、放射化学（2年次、2単位、30時間）、放射線物理演習（2年次、1単位、30時間）

担当科目：化学（15時間）、放射線物理学（30時間）、放射化学（30時間）、放射線物理演習（30時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（放射線計測学Ⅰ、60時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、ハラスメント防止委員会（委員長）、図書・学術振興委員会（委員長）、研究倫理委員会、研究費審査委員会、不正調査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本原子力学会（フェロー）、日本放射線化学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 俵 紀行 職階 教授

専門分野：磁気共鳴医工学、スポーツ医科学、骨成熟評価

教育活動：

責任科目：放射線物理学実験（2年次、1単位、45時間）

担当科目：放射線科学概論（15時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（45時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、入学者選抜委員会、研究費審査委員会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、医用画像情報学会、日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学学会、日本骨形態計測学会、日本ヒト脳機能マッピング学会、日本放射線技師会、ESR（European Society of Radiology）、SMRT（Section for Magnetic Resonance Technologists）

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：日本磁気共鳴医学会代議員、Saitama MRI Conference 委員

顕彰：Best Poster Award, ICMRI2018, Seoul, Korea, (2018.03.31). (Title: Complications of T1 effect affected by TR for measurement of T2)

氏名 樋口 健太 職階 教授

専門分野：保健物理学

教育活動：

責任科目：医療コミュニケーション学（1年次、1単位、15時間）、放射化学演習（2年次、1単位、30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次、1単位、45時間）

担当科目：医療コミュニケーション学（15時間）、放射線物理学実験（45時間）、放射化学演習（30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（45時間）、看護ゼミナールⅠ（2時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院診療放射線学科

学内委員会・学科内業務等：教授会、FD委員会（委員長）、自己点検評価委員会、学生委員会、カリキュラム委員会、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本放射線公衆安全学会、放射線安全取扱部会、日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員、「Journal of Environmental and Public Health」、「日本医療大学紀要」の査読審査、日本医療大学生涯学習講座（「放射線のABCと病院での放射線検査エトセトラ」

顕彰：なし

氏名 木村 徹 職階 講師

専門分野：医療画像情報学・医療画像工学

教育活動：

責任科目：医療画像処理学（2年次、1単位、15時間）

担当科目：医療画像処理学（15時間）、医用工学実験（45時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（45時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（放射線計測学、医用画像情報学実験、診療放射線学特論）

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター、入学者選抜委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、生体医工学会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 小山 和也 職階 講師

専門分野：核医学検査技術学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：診療放射線学概論（15時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、図書学術委員会、研究倫理委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本核医学技術学会、日本放射線技術学会、札幌核医学技術研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 杉本 芳則 職階 講師

専門分野：放射線技術学、胃X線読影技術、予防医学、情報学

教育活動：

責任科目：情報科学（1年次、1単位、15時間）、情報科学演習（1年次、1単位、30時間）、診療画像技術学概論（2年次、1単位、15時間）、診療画像技術学Ⅰ（2年次、2単位、30時間）、画像解剖学Ⅰ（2年次、2単位、30時間）

担当科目：放射線物理学実験（45時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（45時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（卒業研究）

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、学生委員会、キャリア学習支援センター、人権擁護委員会、オープンキャンパスワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本CT検診学会、日本消化器がん検診学会、日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会、日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：日本消化器画像診断情報研究会常任世話人、日本消化器がん検診学会北海道支部北海道胃がん検診専門技師技術研修会世話人、札幌ニューテクノロジー研究会相談役、クラウド型クリッカーの運用（日本消化器がん検診学会北海道支部研修会、札幌ニューテクノロジー研究会月例会）

顕彰：なし

氏名 藤原 健祐 職階 講師

専門分野：医療情報学、医療経済学

教育活動：

責任科目：医療経済学（2年次、1単位、15時間）

担当科目：医療経済学（15時間）、放射線物理学実験（45時間）、医用工学実験（45時間）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（X線CT検査学、診療放射線学特論）

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、自己点検評価委員会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会（北海道支部理事）、日本診療放射線技師会、日本医療情報学会

科学研究費（研究資金）等の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

11-2. 教員の学術業績

11-2-① 総長・学長・参事

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

なし

総説：

島本和明（2017）. 知って学んで、目指せ！健康長寿 今こそ実践、賢い健康学. あなたの街のお医者さんガイド：ホームドクター plus.. 北海道：株式会社ぶらんとマガジン社，6-11.

島本和明（2017）. 高血圧疾患. 北海道の医療最前線：知っておきたい七大生活習慣病の正体（HO

2017年9月増刊号). 北海道：株式会社ぶらんとマガジン社, 8–10.

島本和明 (2017). 「ニモカカラワズ」を変える！Hypertension Paradoxへの挑戦：第1回 高血圧治療は進歩した…ニモカカラワズ. 血圧, 25(1), 60–61.

銭本隆行 (2018). デンマークの高齢者ケアシステムの日本への有効性について. 日本医療大学紀要, 4, 3–12.

原著：

Furuhashi M., Ogura M., Matsumoto M., Yuda S., Muranaka A., Kawamukai M., Omori A., Tanaka M., Moniwa N., Ohnishi H., Saitoh S., Harada – Shiba M., Shimamoto K., Miura T. (2017). Serum FABP5 concentration is a potential biomarker for residual risk of atherosclerosis in relation to cholesterol efflux from macrophages. Sci Rep 7, 217.

Furuhashi M., Matsumoto M., Tanaka M., Moniwa N., Murase T., Nakamura T., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (in press). Plasma xanthine oxidoreductase activity as a novel biomarker of metabolic disorders in a general population. Circ J 2018.

Furuhashi M., Yuda S., Muranaka A., Kawamukai M., Matsumoto M., Tanaka M., Moniwa N., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (2018). Circulating FABP4 concentration predicts the progression of carotid atherosclerosis in a general population without medication. Circ J doi: 10.1253/circj.CJ – 17 – 1295. [Epub ahead of print]

その他：

なし

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

島本和明：高血圧と動脈硬化“Hypertension Paradox”の克服. 第49回日本動脈硬化学会総会（第34回大島賞受賞講演），2017年7月7日，広島県.

シンポジウム：

なし

一般口演：

銭本隆行：認知症に対するETASの臨床効果について. 統合医療機能性食品国際学会第25回年会，2017年7月9日，札幌.

示説：

なし

その他：

なし

11-2-② 看護学科教員

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

浅井さおり，内山孝子，大串祐美子，小野光美，鈴木真理子，高田早苗，友竹千恵，長谷川美栄子，山田律子（日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会）（2018）.看護倫理ガイドライン．看護の科学社．

総説：

松本真由美（2017）．大学における障害のある学生への支援と合理的配慮：精神に障害のある学生を中心として．日本医療大学紀要，3，3-12．

原著：

佐々木由紀子，原谷珠美（2017）．サービス付き高齢者向け住宅に勤務する介護職員の終末・看取りに向けた準備性．日本看護学会論文集ヘルスプロモーション，46，144-147．

城丸瑞恵，牧野夏子，春名純平，神田直樹，田口裕紀子，皆川ゆり子，内田裕美，門間正子（2017）．北海道の地方救急医療に携わる看護師が抱える困難への支援モデルの構築．（一財）北海道開発協会開発調査総合研究所平成28年度助成研究論文集，101-115．

鳥谷めぐみ，長谷川真澄，瀧 断子（2017）．高齢の軽症脳卒中患者の健康管理とQOLの実態．札幌保健科学雑誌，6，28-34．

永田志津子，林美枝子（2018）．高齢者生活支援サービスにおける有償ボランティアの課題～社会参加高齢者の調査から．札幌大谷大学社会学部論集，6，75-100．

林美枝子，傳野隆一，対馬輝美，高橋光彦，錢本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ，浅井さおり，八田達夫，東海林哲郎（2018）．認知症患者の家族介護者における仕事と介護の両立について：小規模多機能居宅介護サービスの利用者を対象とした分析．日本医療大学紀要，4，13-24．

林美枝子，永田志津子（2018）．医療・介護の地域資源を文脈とした在宅死の看取りに関する困難性の研究：札幌市A区の事例から．北海道民族学，14，65-79．

松本真由美（2017）．地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画の課題：カリフォルニア精神保健計画審議会に参画する当事者委員・行政担当者への聞き取り調査から．北海道地域福祉研究，20，12-23．

山田敦士（2017）．パラウク・ワ語における漢語借用語．饗餐，25，62-71．

山田敦士（2018）．パラウク・ワ語の二つの名詞化標識．北海道言語文化研究，16，87-97．

その他：

合田恵理香，城丸瑞恵，仲田みぎわ（2017）．BGMの患者・看護師への影響に対する看護師の実感．日本クリティカルケア看護学会誌，13(3)，61-69．

菅原美保（2017）．小児看護学実習において学生が患児とその母親の3人で過ごす体験．北海道医療大学看護福祉学部学会誌，13(1)，21-26．

林美枝子（2017-2018）『介護人類学』を介護新聞に連載（3月末の時点で33回分）

松本真由美 (2018). 精神に障害のある人々のパブリックコメントの活用の可能性：自殺対策行動計画へのパブリックコメントの作成を通して. 日本医療大学紀要, 4, 73-82.

松本真由美, 森口眞衣, 山田敦士 (2018). 入学前教育としての図書推薦文課題の妥当性の検討：課題に取り組んだ学生たちの評価から. 日本医療大学紀要, 4, 59-72.

美濃陽介・吉田浩子 (2017). 教員の職業性ストレスと業務に対する「価値づけ」の関連. 心身健康科学, 14(1), 34-42.

山田敦士 (2018). 滄源における碑文テキスト(3). 北海道民族学, 14, 109-115.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

森口眞衣：伝統医学と宗教的医療実践の境界における問題. 宗教倫理学会2017年度夏季研修招待講演. 2017年8月29日. 札幌市.

シンポジウム：

松本真由美（企画者），高橋朋克，矢部滋也，原田幾世：ソーシャルアクションとしての政策決定過程への当事者委員の参画：地方精神保健福祉審議会に関わる当事者委員，行政担当者らの声. 日本精神障害者リハビリテーション学会第25回久留米大会. 2017年11月18日. 久留米市.

一般口演：

賀来 亨，斉藤リカ，曾我聡起，中原敬広：iBooks Author「練習問題」ウィジェットを用いた看護系多肢選択問題の作成. 2017PC Conference, 2017年8月5-7日, 藤沢市.

小山満子：不明. 日本母性衛生学会学術集会. 2017年10月6-7日. 神戸市.

高儀郁美，岡田洋子：中学生の改正臓器法案に関する認識. 看護科学学会第37回学術集会, 2017年12月16-17日, 仙台市.

高儀郁美，岡田洋子：中学生の改正臓器移植法に関する認識の実態. 第24回日本家族看護学会学術集会, 2017年9月3日. 千葉市.

高儀郁美，斉藤雅也：多床室入院患者が病床で受ける照度と明るさ感、明るさの快・不快感の実態調査. 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017年12月17日, 仙台市.

林美枝子，傳野隆一，対馬輝美，高橋光彦，浅井さおり，銭本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ：小規模多機能居宅介護サービスを利用する認知症患者の家族介護者における介護と就労研究. 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日, 鹿児島市.

林美枝子，永田志津子：地域資源を文脈とした看取り介護の影響に関する研究. 北海道民族学会第2回研究会, 2017年10月14日, 釧路市.

松本真由美：地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画：当事者委員の参画がない都道府県・政令指定市の分析. 日本地域福祉学会第31回大会, 2017年6月4日, 松山市.

森口眞衣：伝統医学における「医療」の位置づけ：「インド医学」の展開を例にして. 第8回九州医学哲学倫理学会学術大会, 2017年9月2日, 鹿児島市.

森口眞衣：医療における宗教の受容について. 日本宗教学会第76回学術大会, 2017年9月16日,

東京都.

森口眞衣：日本の医療臨床における「伝統医学」の受容と展開に対する一考察. 北海道大学宗教学研究会, 2017年11月4日, 札幌市.

吉田 香：看護師2年課程通信制における学習に対する学生の思い. 第26回日本看護学教育学会学術集会, 2016年5月31日, 東京都.

国際学会：

Ueda I., Okada N., Yokoyama M., Hirano M., Saeki K., Kawaharada M.: A literature review of father competencies required during the prenatal period. 37th Asia-Pacific Nursing and Medicare Summit, 2017.10.21, Osaka.

Saito R.: Mealtime Accidents Cause Aspiration of Swallowed Food in Elderly Japanese., 21th EAFONS, 2018.1.11-12, Seoul, South Korea.

Saito R., Takada M.: Can Artificial Intelligence Technology be Applied for Nursing Observations?, The 5th International Nursing Research Conference, 2017.10.20-22, Thailand

Saito R., Takada M.: The Assessment of Daytime Sleeping among the Japanese Elderly. 21th EAFONS, 2018.1.11-12, Seoul, South Korea.

Soga, T., Nakahara T., Kawana N., Fuse I., Kaku T., Saito R., Nakamura Y.: Case Studies Using e-Textbooks Connected with a Learning Management System. E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate Government, Healthcare, and Higher Education, 2017.10.17, Vancouver, BC, Canada.

Takada M., Saito R.: Current State of International Nursing Education in Japan., 21th EAFONS, 2018.1.11-12, Seoul, South Korea.

Yamada, A.: Collaborative Activities using Documented Texts in the Wa Community. East Asian Anthropological Association, 2017.10.15, Hong Kong.

示説：

神田直樹, 田口裕紀子, 門間正子, 牧野夏子, 春名純平, 内田裕美, 皆川ゆり子, 津川久仁江, 城丸瑞恵：北海道の地方都市の救急看護師が抱える困難に対するアクションリサーチ方を用いた介入の評価. 第19回日本救急看護学会学術集会, 2017年10月7日, 金沢市.

草薙美穂, 荃津智子, 田中さおり：母子看護学臨地実習における学生への効果：段階的実習と選択的実習の試み. 日本小児看護学会第27回学術集会, 2017年8月20日, 京都市.

Goda E., Momma M., Sasaki Y., Shigeno K.: The effect of music on psychological stress caused by physical restraint. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars, 2018.1.11-12, Seoul.

田口裕紀子, 神田直樹, 門間正子, 牧野夏子, 春名純平, 内田裕美, 皆川ゆり子, 津川久仁江, 城丸瑞恵：北海道の地方都市の救急看護師が抱える困難に対するアクションリサーチ方を用いた介入の実践. 第19回日本救急看護学会学術集会, 2017年10月7日, 金沢市.

田中さおり, 伊織光恵, 荃津智子, 草薙美穂, 蛭名美智子：母子看護学臨地実習における選択実習での学生の学び：小児看護学実習2週間選択者の自由記述内容から. 日本小児看護学会第27

回学術集会, 2017年 8 月20日, 京都市.

辻 幸美: 脳血管疾患を発症した高齢者における認知症の有無と平均在院日数や転帰先の関連.

第22回日本在宅ケア学会学術集会, 2017年 7 月16日, 札幌市.

永田志津子, 林美枝子: 介護予防・日常生活支援総合事業の住民主体サービスにおける地域資源の現状と課題. 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年11月 1 日, 鹿児島市.

畑瀬智恵美, 吉田 香: 看護大学生の携帯電話の利用が学習に及ぼす影響. 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016年12月11日, 東京都.

美濃陽介: 介護保険施設に従事する介護職の職業性ストレス反応及びワーク・エンゲイジメントに関する考察. 日本地域看護学学会第20回学術集会, 2017年 8 月 5 日, 大分市.

美濃陽介: 高等学校看護教員の職業性ストレスに関する分析: 高校普通科課程との比較から. 日本看護学教育学会第27回学術集会, 2017年 8 月17日, 宜野湾市.

吉田 香, 畑瀬智恵美: 訪問看護活動におけるフィジカルアセスメント技術の実施に関する調査. 第27回日本看護学教育学会学術集会, 2017年 8 月, 宜野湾市.

その他:

滋野和恵: 「働くことをささえる」ものは何か?: 障碍 (がい) 者のメディア事業所「ここリカ・プロダクション」の活動から. 日本精神保健看護学会代27回学術集会・総会, 2017年 6 月24日, 札幌市.

永田志津子・林美枝子: 国立社会保障・人口問題研究所. 北海道の新総合事業に関する事例報告, 2018年 2 月21日.

長谷川美栄子, 高田早苗, 浅井さおり, 内山孝子, 小野光美, 友竹千恵, 三浦直子, 鈴木真理子, 大串祐美子: 日本看護倫理学会第10回年次大会交流集会「医療や看護を受ける高齢者の尊厳を守る・身体拘束を予防する: 私たちにできることは? 事例から学ぼう」. 日本看護倫理学会第10回年次大会, 2018年 5 月21日, 大分市.

吉田 香, 畑瀬智恵美: 看護大学生の看護のイメージと個人要因との関連. 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016年12月11日, 東京都.

11-2-③ リハビリテーション学科教員

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書:

新開谷深 (2017). ケースで学ぶ徒手理学療法. クリニカルリーズニング. 藤縄理 (編). 320-326. 文光堂

総説:

なし

原著:

Ukita A., Abe M., Nikaido M., Arisawa K., Hatta T., Kishigami H. (2017). Does the backrest shape of the wheelchair influence the asymmetric posture of patients with hemiparesis? A

singleinstitution pilot study. Biomedical Research and Clinical Practice, 2(4), 1 – 7.

清田岳臣, 藤原勝夫, 国田賢治, 阿南浩司, 矢口智恵 (2017). 上肢屈曲運動時の姿勢変換型の発達的变化. Health and Behavior Science, 16 (1), 15 – 21.

Kunita K., Fujiwara K., Kiyota N., Yaguchi C., Kiyota T. (2018). Developmental changes in shortening of pro – saccade reaction time while maintaining neck flexion position. Journal of Physiological Anthropology, 37 (1), 2.

Goda H., Nakai M., Kishigami H., Hatta T. (2018). The effect of a wheelchair with pelvic support belt on respiratory function. Diseases and Disorders, 2(1), 1 – 4.

Goda H., Hatta T., Kishigami H., Ikeda T., Yamada S., Shibukawa Y. (2017). The effect of a wheelchair designed to prevent forward head posture on swallowing duration and integrated electromyography of suprahyoid muscles. Integrative Molecular Medicine, 4(3), 1 – 5.

Shimizu K., Ihira H., Makino K., Kihara Y., Itou K., Furuna T. (in press). The effect of gait speed and gait phase to the allocation of attention during dual task gait. Journal of physical therapy science.

鈴木博人, 鈴木 誠, 西山 徹, 中山知美, 秋元礼智, 荒谷佳苗, 猪股拓朗, 関根拓馬, 芳賀幸恵, 藤澤宏幸 (2017). トレッドミル歩行における前方牽引時のエネルギーコストについて. 東北理学療法, 29, 1 – 6.

中田眞由美, 清本憲太 (2017). メントールの前腕貼付が糖尿病性視覚障害の触覚機能及び点字触読に及ぼす影響. 作業療法, 36(6), 581 – 590.

林美枝子, 傳野隆一, 対馬輝美, 高橋光彦, 浅井さおり, 銭本隆行, 田村素子, 小林孝広, 荒木めぐみ, 浅井さおり, 八田達夫, 東海林哲郎 (2018). 認知症患者の家族介護者における仕事と介護の両立について. 日本医療大学紀要, 4, 13 – 24.

Fujiwara K., Yaguchi C., Kiyota N., Nakase J., Sato F., Hyodo A., Toyama H. (2017). Estimation of Back Muscle Strength Based on Muscle Thickness of Erector Spinae Measured by Ultrasound Scanner. Physical Medicine and Rehabilitation Journal, 1 (1), 111.

Fujiwara K., Yaguchi C., Maekawa M., Kiyota N. (2018). Timings of attentional switching to perturbation and postural preparation during transient forward or backward floor translation. Journal of Physiological Anthropology, 37 (1), 1.

Yaguchi C., Fujiwara K., Kiyota N. (2017). Activation timing of postural muscles of lower legs and prediction of postural disturbance during bilateral arm flexion in older adults. Journal of Physiological Anthropology, 36 (1), 44.

山本敬三, 伊藤佑樹, 新開谷深 (2017). 陸上競技・競歩の衝撃吸収局面における下肢関節のバイオメカニクスの役割. 北翔大学生涯スポーツ学研究紀要, 8, 1 – 6.

その他：

大堀具視 (2017). 対象者主体の介護に対する福祉施設職員の思い. 日本医療大学紀要, 4, 83 –

高橋光彦, 石橋晃仁, 向井康詞 (2018). 姿勢戦略の反復練習が重心動揺に及ぼす影響. 日本医療大学紀要, 4, 111-114.

八田達夫, 新岡美樹, 今井憲章 (2018). 高齢障害者の車いす上の姿勢異常に対するアクティブバランスシーティング (ABS) による改善. 日本医療大学紀要, 4, 93-104.

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他):

特別講演:

大堀具視: 平成29年度ユニットケア実践塾 特別セミナー講師, 2017年10月7日, 名古屋市.

大堀具視: 第17回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー アンコール講演, 2018年3月11日, 大阪府.

坪田貞子: これまでの作業療法士会の歴史、今後の展望. 北海道作業療法士会主催, 2018年1月8日, 札幌市.

シンポジウム:

なし

一般口演:

井部光滋, 射場浩介, 花香恵, 道家孝幸, 清本憲太, 山下敏彦: 寒冷過敏と骨代謝異常の関連について: 後肢非荷重モデルマウスを用いた検討. 第134回北海道整形災害外科学会, 2017年2月3日, 札幌.

有働克也, 大堀具視: ストレス軽減を目指して: チームマネジメントを意識した関わり第51回日本作業療法学会, 2017年9月23日, 東京都.

大堀具視: より良い臨床実習教育を目指して: 教員による実習訪問の実態調査から. 第51回日本作業療法学会, 2017年9月22日, 東京都.

大堀具視: 重症損傷者は何を見ているのだろうか?. 第11回作業療法研究学会, 2017年6月3日, 大阪市.

片山理樹, 安倍雄一郎, 清本憲太, 大窪悠真, 宮城島一史, 石田和宏, 佐藤栄修, 百町貴彦, 柳橋 寧: 頸椎椎弓形成術前後における知覚・運動機能と心理面の経時的変化と関連. 第133回北海道整形災害外科学会, 2017年7月8日, 札幌.

片山理樹, 清本憲太, 大窪悠真, 石田和宏, 安倍雄一郎: 頸椎椎弓形成術前後における知覚・運動機能と心理面の経時的変化と関連. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月10日, 札幌.

金子翔拓, 玉 珍, 清本憲太, 坪田貞子: 若年健常者の手の機能とQOL: 生活満足度の関連. 第51回日本作業療法学会, 2017年9月22日, 東京都.

金子翔拓, 坪田貞子: de Quervain病は円回内筋が関与するか?. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月8日, 東京.

金子翔拓, 坪田貞子, 青木光広, 池本吉一: 上腕骨外側上顆炎に対する徒手療法及びテーピング療法. 第90回日本整形外科学術集会, 2017年5月, 東京.

川村元, 小名 忍, 岸上博俊: 買い物に対する不安を払拭することで「やりたいこと」が可能となった一事例. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

清田岳臣, 藤原勝夫, 国田賢治, 阿南浩司, 矢口智恵: 両側上肢屈曲運動時の予測的姿勢制御の発達. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 2017年9月9日, 札幌.

清本憲太, 射場浩介, 花香恵, 井部光滋, 道家孝幸, 山下敏彦: 骨粗鬆症を伴う変形性関節症モデルマウスにおける疼痛行動の検討. 第134回北海道整形災害外科学会, 2018年2月3日, 札幌.

清本憲太, 玉 珍, 金子翔拓, 坪田貞子: 地域在住高齢者における手の機能と認知機能: QOLとの関係性. 第51回日本作業療法学会, 2017年9月22日, 東京都.

合田央志, 八田達夫, 岸上博俊, 池田 保: シーティングを希望した在宅で生活している重度高齢障害事例に対する介入効果. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

小名 忍, 川村 元, 岸上博俊: 在宅生活の不安を解消することで調理への意欲に繋がった一事例. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

佐々木育奈, 高橋いず美, 大堀具視: 左腕神経叢麻痺を合併した自閉症スペクトラム障害の一症例: 学校と統一した視覚支援を用いて. 第10回日本訪問リハビリテーション学会, 2017年6月3日, 札幌市.

佐々木卓也, 岸上博俊: 自宅外泊を通して楽しみや家庭での役割に意欲を持つことができた一事例. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

高橋純平, 鈴木博人, 田中直樹, 西山 徹: 異なるベッド条件下におけるブリッジ動作時筋活動. 第52回日本理学療法学術大会, 2017年5月, 千葉.

高橋光彦, 乾 公美, 石橋晃仁, 佐々木浩子, 藤木直人: スモン患者のリハビリテーション10年間について. 第88回日本衛生学会学術総会, 2018年3月22-24日, 東京.

高橋ゆき, 大堀具視: 当院の運転評価について: 追跡調査の検証~第38回札幌市病院学会, 2018年2月3日, 札幌市.

戸田真弘, 倉貫元美, 佐藤秀悌, 岸上博俊: 夕張市で実践している短期間介入訪問リハの活動報告. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

中村圭祐, 渋谷保紀, 大堀具視: 「何のためのリハビリなのか?」そう問うA氏からの関わりから学んだこと. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日, 札幌市.

八田達夫, 新岡美樹, 今井憲章: 高齢障害者の車いす上の姿勢異常に対するアクティブバランスシーティング (ABS) による介入. 平成29年度日本医療大学保健医療学部 研究報告会. 2018年3月30日. 札幌市.

早坂彩佳, 戸田真弘, 津田大豪, 岸上博俊: 期間を定めた訪問リハと福祉用具導入で活動性が向上した一例. 第48回北海道作業療法学会, 2017年6月11日.

林美枝子, 傳野隆一, 対馬輝美, 高橋光彦, 浅井さおり, 銭本隆行, 田村素子, 小林孝広, 荒木めぐみ: 小規模多機能居宅介護サービスを利用する認知症患者の家族介護者における介護と就労研究. 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31日-11月2日, 鹿児島市.

矢口智恵: 課題条件の違いが手を前方に吊り下げた姿勢からの両側上肢屈曲運動時の姿勢制御に

及ぼす影響. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 2017年9月10日, 札幌.

吉村小雪, 大堀具視:「こんな小さな夢でも持つことが大事だね」:脳卒中後周囲からの視線を感じて自傷行為や不穏を認めた一症例. 第51回日本作業療法学会, 2017年9月23日, 東京都.

国際学会:

Ito K., Shimizu K., Kikuchi T., Kondo Y., Kihara Y., Tai K., Higuchi T., Furuna T.: The lateral margin while walking through apertures created between person and wall. The 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics, 2017.10.22-26, Fukuoka.

Kihara Y., Shimizu K., Ito K., Tai K., Akanuma T., Yokoyama K., Makizako H., Shimada H., Furuna T.: Determinants of frailty examined from physical, psycho-cognitive, and social factors in older adults living in snowy-cold areas. 3rd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2017.10 27-28, Seoul.

Goda H., Hatta T., Kisigami H., Ikeda T.: An intervention using a wheelchair incorporating pelvic support for elderly disabled individual living at home - Suggestion for OT education-. Asia pacific occupational symposium. 2017.10.22, Taiwan.

Shimizu K., Kondo Y., Kihara Y., Ito K., Tai K., Higuchi T., Furuna T.: Personal space during obstacle avoidance: the effect of avoidance direction. 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics, 2017.10.22-26, Fukuoka.

Shinkaiya F., Yamamoto K., Ito Y.: Effect of Foot Rotation Angle on Trunk Rotational Strength and Physical Quantity to Rotate the Body. 35th International Conference on Biomechanics in Sports, 2017.6, .Germany.

Zenimoto T., Denno R., Tsushima T., Takahashi M., Hayashi M., Tamura M., Kobayashi T., Araki M., Shimamoto K., Sakaue T.: The clinical study about effect of ETAS on dementia. International Congress on Nutrition and Integrative Medicine 2017. Sapporo Japan

示説:

なし

その他:

大堀具視:介護新聞連載(通巻887号~900号 14回) 2017年4月~7月

11-2-④ 診療放射線学科教員

論文(著書, 総説, 原著, その他):

著書:

西山 篤 (2017). 平成30年版診療放射線技師国家試験問題集. 共立出版.

斎藤 勲, 西山 篤, 樋口健太, 木村 徹, 小山和也, 杉本芳則, 俵 紀行 (2017). 読影の基礎(第4版). 読影の基礎編集委員会編. 共立出版.

総説:

なし

原著：

Akiba S., Nandakumar A., Higuchi K., Tsuji M., Uwatoko F. (2017). Thyroid Nodule Prevalence among Young Residents in the Evacuation Area After Fukushima Daiichi Nuclear Accident: Results of Preliminary Analysis Using the Official Data. Journal of Radiation and Cancer Research, 8(4), 174-179.

秋葉澄伯, 樋口健太 (2017). 放射線被ばくによるがんリスク. 日本臨牀, 75 (増刊号8), 101 – 105.

Ishikawa T., Fujiwara K., Ohba H., Suzuki T., Ogasawara K. (2017). Forecasting the regional distribution and sufficiency of physicians in Japan with a coupled system dynamics: geographic information system model. Human Resources for Health, 15, 64.

河原田泰尋 (2018). 蛍光ガラス線量計の低エネルギー領域における感度調整の試み. 日本医療大学紀要, 4, 37 – 44.

Kimura T., Kawakami T., Kikuchi A. (2018). A Study on Diagnostic Assist Systems of Chronic Obstructive Pulmonary Disease from Medical Images by Deep Learning. Journal of Computer and Communications, 21-31.

Koyama K., Mitsumoto T., Shiraishi T., Tsuda K., Nishiyama A., Inoue K., Yoshikawa K., Hatano K., Kubota K., Fukushi M. (2017). Verification of the tumor volume delineation method using fixed threshold of a peak standardized uptake value. Radiol Phys Technol, 311-320.

Koyama K., Sagara H., Tsuda K., Kosaka T., Sugimoto Y., Nishiyama A., Fukushi M. (2017). The validation of optimal Gaussian filter using double sphere phantom. 日本診療放射線学教育学会誌, 5(1), 19-23.

住吉孝 (2018). ヒドロキシシクロヘキサジエニルラジカルの光化学 2：置換フェノール類. 日本医療大学紀要, 4, 25 – 36.

Tsuda K., Fukushi M., Sekimoto M., Koyama K., Shimizu H., Kimura J., Sawaguchi M. (2017). Evaluation of the radiation shielding abilities of lead glass. 日本診療放射線学教育学会誌, 5(1), 15 – 18.

西澤 徹, 秋葉憲彦, 西山 篤 (2017). 診療放射線技師法改正に向けての問題点の整理：他の医療従事者に適用される欠格事由と比較して. 日本医療科学大学研究紀要, 10, 145 – 151.

西山 篤 (2017). 指定規則の改定. 診療放射線学教育学, 5(1), 1 – 5.

西山 篤 (2018). 診療放射線技師の 6 年制教育について考える. 日本診療放射線技師会誌, 36 – 46.

Hosokawa S., Inoue K., Kano D., Shimizu F., Koyama K., Nakagami Y., Muramatsu Y., Fukushi M. (2017). A simulation study for estimating scatter fraction in whole-body 18F-FDG PET/CT. Radiol phys Technol, 204-212.

Fujiwara K., Osanai T., Kobayashi E., Tanikawa T., Kazumata K., Tokairin K., Houkin K., Ogasawara K. (2018). Accessibility to Tertiary Stroke Centers in Hokkaido, Japan: Use of Novel Metrics to Assess Acute Stroke Care Quality. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*; 27(1), 177-184.

藤原健祐, 谷川原綾子, 井上 剛, 北川 剛, 小笠原克彦 (2017). コンジョイント分析法を用いた診療放射線技師の就労環境の選好に関わる要因分析. *日本放射線技術学会雑誌*, 73(8), 626-635.

真木雅之, 樋口健太, 秋葉澄伯 (2017). 火山噴火による環境汚染の広がり. *日本医師会雑誌*, 146

その他：

Higuchi K. (2018). Comparative Evaluation of Natural Radiation Dose in Kagoshima Prefecture and Hokkaido with NaI (Tl) Scintillation Detector. *日本医療大学紀要*, 4, 105-110.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

なし

シンポジウム：

西山 篤：診療放射線技師の6年制教育. 第33回日本診療放射線技師学術大会日放シンポジウム 4. 2017年9月23日. 函館市.

一般口演：

阿久根右, 中間秀征, 高吉勇氣, 木原正稀, 山下 豪, 樋口健太, 大浦竜治 (2017). カリウム40の比放射能. 第12回九州放射線医療技術学術大会, 2017年11月18日. 鹿児島市.

川上 敬, 木村 徹, 菊池明泰：深層学習による医用画像の診断に関する研究：慢性閉塞性肺疾患0期の検出. 第18回計測自動制御学会システムインテグレーション部門, 2017年12月22日, 仙台市.

菊池明泰, 川上 敬, 木村 徹：ディープラーニングを用いた胸部CT画像読影補助の基礎研究. 生体医工学会シンポジウム2017年9月15日, 長野市.

木村 徹, 小林暢浩, 川上 敬：胸部CT画像を用いたCOPD早期発見を目的とする肺野内CT値分布調査. 第56回日本生体医工学会北海道部会, 2017年10月14日, 札幌.

佐藤 蒼, 小山和也, 津田啓介：FDG-PET 検査における放射能濃度変化の描出能に関する検討. 第37回日本核医学技術学会総会学術大会, 2017年, 横浜市.

高橋伸之, 吹田沙織, 工藤真弓, 杉本芳則：胃部検診：良悪性判定導入20余年の検討. 第56回日本消化器がん検診学会総会, 2017年6月24日. つくば市.

Tawara N., Nishiyama A.: Effect of Number of Measurement Points on Accuracy of Muscle T2 Calculations using Spin Echo-Echo Planar Imaging. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮市.

藤原健祐, 長内俊也, 小林永一, 谷川琢海, 小笠原克彦: 北海道の急性期脳梗塞診療に対する地理的アクセシビリティ分析. 第37回医療情報学連合大会, 2017年11月22日, 大阪市.

藤原健祐: 地理情報システムを利用した北海道における医療・介護資源の地理的アクセシビリティ分析. 日本医療大学保健医療学部研究報告会, 2017年3月30日, 札幌.

山本琴恵, 林 令華, 山下利果, 松村康博, 樋口健太 (2017). 診療放射線技師の声かけに対する被検者の印象評価. 第12回九州放射線医療技術学術大会. 2017年11月18日. 鹿児島市.

国際学会:

Tawara N., Polharn P., Ponkanist K., Krisanachinda A.: Complications of T1 effect affected by TR for measurement of T2. ICMRI2018, Seoul, Korea.

Tawara N., Ponkanist K., Nishiyama A., Krisanachinda A.: Optimum setting of echo times for accurate transverse relaxation time (T2) measurement. TMPS2018, Bangkok, Thailand.

示説:

なし

その他:

なし

編集後記

『日本医療大学年報』第3号をお届けします。上半期に刊行という委員会としての当初目標を達成することができました。資料をお寄せいただいた教員、各種委員会、事務局の皆様に感謝申し上げます。

今号より、平成31年度に受審予定の日本高等教育評価機構の認証評価の内容を踏まえた構成となりました。機構の認証評価は、今年度より新しい局面（第3期）に入り、評価項目として「内部質保証」がこれまで以上に重視されることとなりました。PDCAサイクルは、自己点検評価委員会のみがおこなうものではなく、様々な立場にておこなわれるべきものです。各委員会・各学科において、本誌に記載の内容を検証し、次年度の認証評価報告書作成に向けた準備がすすめられることを切に願います。

（文責：山田敦士）

自己点検評価委員会

委員長：乾 公 美
委 員：石 山 俊 光
委 員：佐 藤 秀 紀
委 員：滋 野 和 恵
委 員：檜 崎 基 範
委 員：西 山 篤
委 員：八 田 達 夫
委 員：樋 口 健 太
委 員：藤 原 健 祐
委 員：門 間 正 子
委 員：山 田 敦 士

編集事務担当

学生・教員サポートグループ：千葉なな子

日本医療大学年報 第3号

2017年

発行者 日本医療大学

〒004-0839 札幌市清田区真栄434-1

Tel (011) 885-7711

印刷所 （社福）北海道リハビリ

〒061-1195 北広島市西の里507番地1

Tel (011) 375-2116

